

『機動戦士Zガンダム』の世界よりスピノフしたオリジナルストーリー総集編

電撃ホビーマガジンスペシャル

THE FLAG OF TITANS Vol.1 DENGKI HOBBY MAGAZINE SPECIAL

# ADVANCE OF Z

アドバンス・オブ・Z

～ティターンズの旗のもとに～

ADVANCE OF  
ティターンズの旗のもとに  
Vol. 1

[www.jpifmusem.com](http://www.jpifmusem.com)







TEST TEAM  
テスト・チーム(T3)



TITANS  
TEST  
TEAM  
MEMBER





# CARL MATSUBARA

カール・マツバラ

エリアルドと同期にティターンズに入ったライバルであり、よき友人。明るい変わり者で思い立ったら一直線に突き進む。小隊のムードメーカー。日系のハーフで、本当は黒髪だが、気分によって染めている。マール・小隊の機師である3番機を駆る。  
24歳(U.C.0084年時)。

# AUDREY APRIL

オードリー・エイプリル

マール・小隊の紅一点で、エリアルドやカールの憧れの女性。MSパイロットではあるが、テスト・チームでは基本的にオペレーターを務めていることが多い。情報通でゴシップ好き。才色兼備だが、実は動物が苦手という欠点を持っている。  
25歳(U.C.0084年時)。

# WES MURPHY

ウェス・マーフィ

マール・小隊の1番機を駆る、冷静沈着な小隊長。一年戦争のソロモン攻撃戦で初陣を飾り、「デラース紛争」などでも活躍した歴戦の騎手。小隊のメンバーに対しては厳しいが、反面よき兄貴分でもある。ウサギ好きという意外な一面を持っている。  
30歳(U.C.0084年時)。

# ELIARD HUNTER

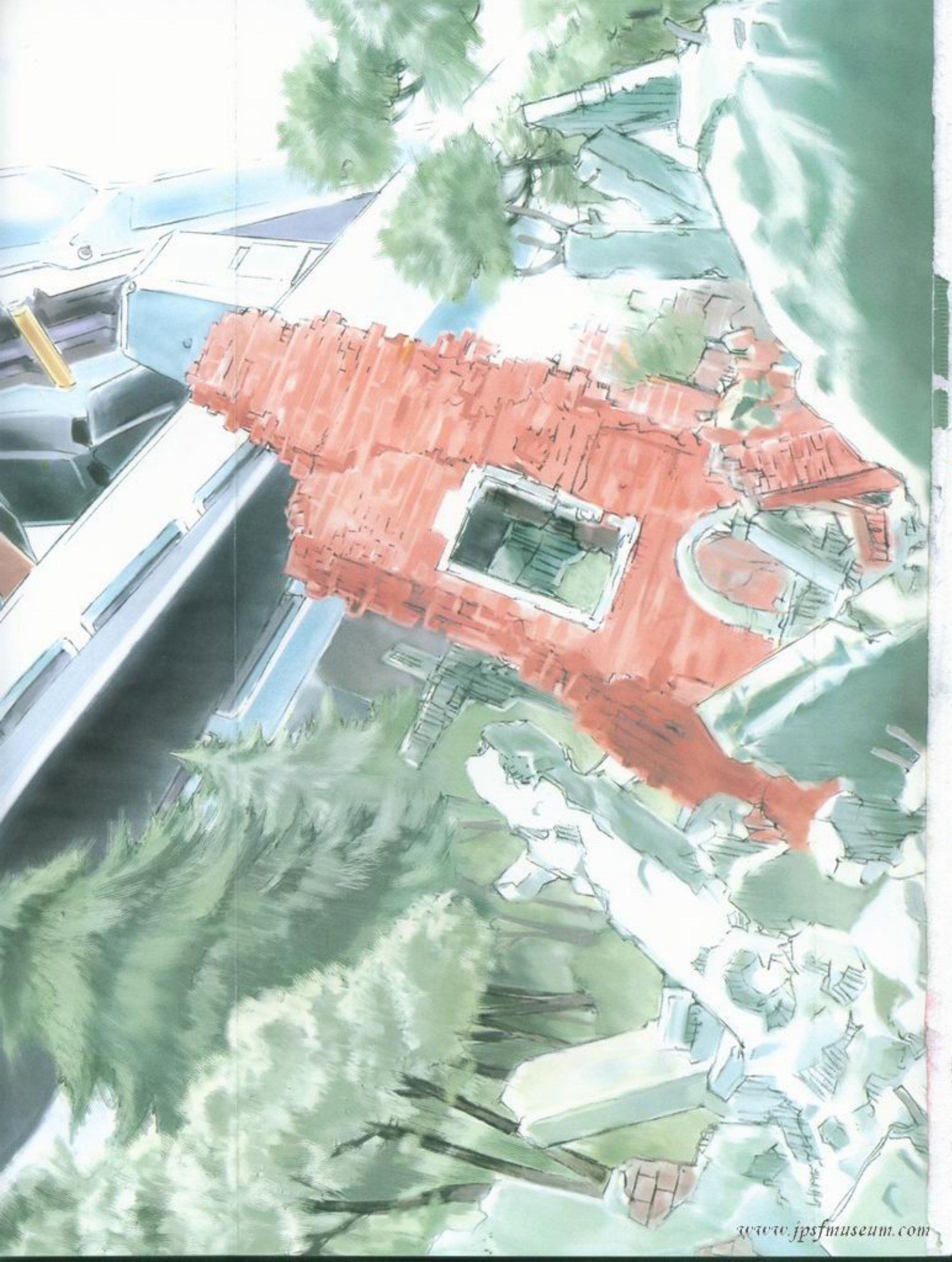
エリアルド・ハンター

本編の主人公。理想に燃えてティターンズに志願した青年士官。やる気に満ち溢れており、時折そのやる気が空回りすることもあるが、決して軽率なタイプではない。本人には自覚がないが、優秀なパイロットである。マール・小隊では2番機を駆る。  
23歳(U.C.0084年時)。













表紙イラスト:ヘイズルTR-1(ヘイズル)&ティターンズ・テスト・チーム(画:斎藤卓也)

電撃ホビーマガジンスペシャル

# ADVANCE OF Z

アドバンス・オブ・Z ティターンズの旗のもとに

Vol.1

このムックは電撃ホビーマガジンにて好評連載中の「アドバンス・オブ・Z ~ティターンズの旗のもとに~」の連載第1回(2002年9月号)~第7回(2003年3月号)を再録(一部再編集)したものです。そのため、文章中に時節のあっていないものも多少あります、ご了承ください。

# ADVANCE OF Z

ティターンズの旗のもとに

Vol.1

## CONTENTS

ガンダムTR-1(ヘイズル) [描き下ろし]	3
キャラクター紹介	5
扉&前説	8
EPISODE 5.9&1.0	10
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
EPISODE 2.0	22
【初出:電撃ホビーマガジン2002年11月号】	
EPISODE 2.1	26
【初出:電撃ホビーマガジン2003年1月号】	
EPISODE 2.2	36
【初出:電撃ホビーマガジン2003年3月号】	
ガンダムTR-1(ヘイズル)(1/60)	42
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
ガンダムTR-1(ヘイズル)(1/100)	48
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
ガンダムTR-1(ヘイズル)FA(1/100)	56
【初出:電撃ホビーマガジン2002年11月号】	
ガンダムTR-1(ヘイズル)FINAL FORM(1/100)	60
【初出:電撃ホビーマガジン2002年11月号】	
すくすくスクラッチ:ヘイズルシールド製法	62
【初出:電撃ホビーマガジン2003年2月号】	
ガンダムTR-1(ヘイズル)予備機(1/100)	66
【初出:電撃ホビーマガジン2003年1月号】	
コラム「U.C.0088(パート)について」	69
ジム高機動型&ジム・スナイパーⅡ(1/100)	70
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
ガンブラ兄弟:マーキング	76
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
ぶはプラモのブ:T3カラーリング再現法	80
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
すくすくスクラッチ:ヘイズル&ジム改パーツ製法	84
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
ハイザック(1/100)	88
【初出:電撃ホビーマガジン2002年12月号】	
コラム「ホビーマガジン付録について」	92
ハイザック(1/144)	93
【初出:電撃ホビーマガジン2003年1月号】	
バイザックTR-2(ビッグウィグ)(1/144)	96
【初出:電撃ホビーマガジン2003年3月号】	
ギャプラン(1/144)	102
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
ゲルググ(1/144)	103
【初出:電撃ホビーマガジン2002年9月号】	
ザクⅡ(1/144)	104
【初出:電撃ホビーマガジン2003年2月号】	
リック・ドム	106
【初出:電撃ホビーマガジン2002年10月号】	
コミック版第1話	107
【初出:コミック電撃大王2003年2月号】	
コミック解説	127
奥付	130









ブレックス・フォーラ

## A.E.U.G. エーゴ

反地球政府連邦運動 (A.E.U.G. = Anti Earth United Government) を指す。ティターンズによる宇宙移民者の弾圧・排斥に対抗すべく、ブレックス・フォーラ准将らの手によって結成された。主に月に本社を持つアナハイム・エレクトロニクス (以後A.E.) 社より出資を受けており、連邦軍内部にも賛同者は多い。地上の反政府組織カラバとは協力関係にある。



メラニー・ヒュー・カーバイン

ANAHEIM ELECTRONICS  
アナハイム・エレクトロニクス

一年戦争後に、旧ジオン系のジオニック社などを吸収して大きくになった巨大企業。エーゴのメインスポンサーであるが、もしもの場合を考えてティターンズに対する支援も行う2面性を持っている。

## U.C.0087~88年の勢力

「ADVANCE OF Z」の時代は、様々な勢力が主義や利権をかけて争っている。ここでは、主な4つの勢力の成立理由などを解説する。

## ティターンズ TITANS

U.C.0083年、ジャミトフ・ハイマン准将 (当時) によって設立された連邦軍の精鋭部隊。ジオン軍の残党狩りを主任務として設立されたが、やがて軍規の特例化を認めさせるなど、連邦軍内の独立した勢力として台頭するに至った。彼らは地球至上主義を掲げて宇宙移民の弾圧を行った。その代表的な例が、反連邦を掲げたデモ活動を封殺するため、コロニーに毒ガスを注入して一般人ごと虐殺した「30パンチ事件」である。その非人道的な行為は、多くの宇宙移民の恐怖と反発を招くこととなった。

バスク・オム



ジャミトフ・ハイマン



## AXIS アクシズ

一年戦争停戦時に、共和国体制への移行と停戦条約の締結を深しとしなかったジオン軍内の勢力は、ドズル・ザビの忘れ形見であるミネバ・ラオ・ザビを擁し、資源小惑星アクシズと艦隊を率い、アステロイドベルト帯へと逃げ延びた。やがてアクシズ勢力は、ティターンズとエーゴの対立からくる混乱を予見し、地球圏へと接近を始める。実質的な指導権を掌握しているのは強力なニュータイプでもあるハマーン・カーン。

ハマーン・カーン



## 30パンチ事件

U.C.0085年7月31日。連邦軍内におけるティターンズの発言力を一挙に増大させることとなった「30パンチ事件」が発生した。

その日、サイド1の30パンチでは、反地球連邦政府運動の集会所が開かれていた。それに伴い、30パンチコロニー内部でデモやサボタージュが散発したため、対応に苦慮した連邦軍の駐留部隊は、大規模な暴動に発展することを恐れ、ティターンズに暴徒鎮圧のための出動を要請した。ジャミトフ腹心の部下、バスク・オム大佐は、この抗議行動がジオン軍残党に煽動された反体制活動と判断、住民に何の警告も発することなく猛毒である「G3ガス」をコロニー内部に注入したのである。コロニー内の住民30万人は全滅した。ティターンズの独断によって行われたこの作戦の真相は、隠蔽され闇へと葬りさられた。

この事件以降、ティターンズの目的のためには手段を選ばない姿勢は、連邦の軍と政府内部に畏怖感を植え付けた。そして、ティターンズの権限は大幅に拡大され、その任務には新たに

「反連邦主義者の摘発」が加えられた。しかし、このような独断的な活動は多くのスペースノイドの反感を生み、結果スペースノイドの主権獲得を目的とした反連邦組織「エウーゴ」の組織化へとつながっていく。

## 試作機開発事件

U.C.0087年3月2日。サイド7・1パンチ・グリーン・ノアでテストフライトを行っていたティターンズの試作MS「RX-178ガンダムMKII」2機が、乗機したエウーゴのMS部隊によって奪取された。それまで地下活動を行ってきたエウーゴが、初めて直接的な軍事行動に出たのである。

エウーゴは組織の代表として連邦軍准将ブレックス・フォーラを擁していた。彼はティターンズの暴走を危惧し、エウーゴへと参画したのだ。将官であるブレックスをはじめ、連邦軍内部にもエウーゴの組織細胞は深く浸透しており、組織化された戦力を保有したエウーゴは、ティターンズにとって無視できない存在に成長していたのである。

この事件を契機に、エウーゴとティターンズの緊張関係は一気に高まり、「グリプス戦役」へと突入して行く。

## アクシズ編

ティターンズ対エウーゴの抗争が激化する中、沈黙を続けていた第三の勢力「アクシズ」が地球圏へと帰還した。

アクシズはアステロイドベルトに浮かぶ資源採掘用の小惑星であったものを、ジオン公国が軍事基地に改造したものである。そして一年戦争後、逃げ延びたザビ家の後継者ミネバ・ザビを擁し、ジオン公国を継承していた。戦乱を予期した、ミネバの摂政で実質的な支配者であるハマーン・カーンは、アクシズをアステロイドベルトから地球圏へ移動させていた。

第三勢力アクシズの動向はティターンズとエウーゴのミリタリーバランスを大きく左右し、グリプス戦役は複雑な政治劇へと変貌していく。

【Vol.2へ続く】



# U.C.0088 宇宙は戦乱の渦に巻き込まれていた…

人類が、増えすぎた人口を宇宙に移住させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀（U.C.）0079。

地球からもっとも離れたスペースコロニー・サイド3がジオン公国を名乗り、

地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。

後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。

しかし、ジオン軍の残党は各所に潜み連邦に対する抵抗活動を行ったのである。

U.C.0083、これらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊・ティターンズが設立された。

だが、ティターンズは地球至上主義を掲げ、スペースノイドの粛清に走るようになる。

U.C.0087、ティターンズに対抗する反地球連邦組織・エゥーゴはついに軍事行動を起こす。

同時期、小惑星アクシズに拠ってジオン再興を目指すジオン残党も活動を開始。

戦いは三つ巴となり、混乱したままU.C.0088となった…。

## STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 敏

メカデザイン：藤岡建機

キャラクターデザイン：齋藤卓也

マーキングデザイン：藤岡建機&ベッパーストック

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

©創通エージェンシー・サンライズ



電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Ζ

ティターンズの旗のもとに



アドバンス・オブ・ゼータ

「A.O.Z」は『機動戦士Ζガンダム』の世界から  
スピンオフしたオリジナルストーリーである  
電撃ホビーマガジン&サンライズ  
共同プロジェクトがついにスタート!



# 「この空域にシャア・アズナブルがいるらしい。 おまえ、金色のモビルスーツを見なかったか？」

U.C.0088年2月。

エウーゴの「メール・シュトローム作戦」によって切り札であったコロニー・レーザーを奪われたティターンズは、その奪回のためエウーゴへの総攻撃を仕掛けていた。

地球圏最大の軍事力を保持していたティターンズだが、

シャア・アズナブルの演説によってこれまでの暴挙を告発されたために政治力を失い、バブテマス・シロッコによる総帥ジャミトフ・ハイマンの暗殺で内紛も発生したため、その力はかなり弱っていた。

しかも、やはりコロニー・レーザーの支配権を窺うアクシズが戦闘に加わったため、戦いは三つ巴となり、いつ果てるともなく続いていた。

www.jpssfmuseum.com

## EPISODE 5 & 10

■クリプス戦役 0088年2月

「くそっ。ジェネレータの出力も落ちてきたか……」

モニターに映し出されたゲージを見て、エリアルド・ハンター中尉は、思わず奥歯を噛みしめていた。

愛機のギャブランは被弾し、アクティブスラストユニットのついた腕も失っていた。もはや戦える状態ではない。モニターもところどころ映らなくなっている。エリアルドは、そのモニターを見回していた。

「戦況はどうなっているんだ……」

ミノフスキー粒子が戦闘濃度で散布されているため、味方機との通信は途絶えたままだ。視覚に頼るしかなかった。ビームが瞬き、炎の球が膨らんで消えていく。やられたのが、敵なのか味方なのかわからない。

エウーゴがクリプス2のコロニー・レーザーを制圧したのが二十日前のことだ。今、この空域では、エリアルドたちティターンズ、エウーゴ、そしてアクシズの三つともえの艦隊戦が繰り広げられていた。月が間近に見えている。地球ははるか彼方に青く光っていた。

突然、背後でまばゆい光の球が膨れあがった。エリアルドは振り返った。モニターに映し出されたのは、サラミス改級の宇宙巡洋艦が沈んでいく姿だった。熱核ロケットエンジンの誘爆だ。それは間違いない。エリアルドたちマーズ・ファイア小隊の母艦であるイズミールだった。

エリアルドは信じられない思いでその光景を見つめていた。帰るところがなくなった。モビルスーツのバイロットにとって、それは最大の恐怖だった。ギャブランの生命維持装置があとどれくらいもつかかわからない。破壊がひどくて計測が不可能なのだ。推進剤も残りわずかだ。エリアルドは、モビルスーツの中で生まれて初めて絶望を感じた。帰るところのないモビルスーツは棺桶と同じだ。最前線からは離れている。被弾してここまで後退してきたのだ。だが、いつ戦線がこちらに移動してくるかわからない。エリアルドはがたがたと震えている自分に気づいた。

機体に衝撃を感じた。何かが接触したようだ。背後のモニターにギャブランが大映しになっている。小隊長のウェス・マーフィー大尉の機体だっ



た。機体が触れ合うことで、濃密なミノフスキー粒子の中でも通信ができた。

「エリアルド、生きてるか？」

「小隊長……。イズミールが沈みました」

「おたおたするな。いいか。後方にいるアスワンが俺たちを拾ってくれる。艦が見えるか？」

「はい、見えます」

「あそこまで後退するぞ」

「カールとオードリーは……？」

エリアルドは、マーフィー小隊の仲間であるカール・マツバラ中尉とオードリー・エイプリル中尉のことを気遣った。

「やつらは戦っている。あるいは、どこかに逃げ込んだかもしれない。心配するな。あの二人だって筋金入りのティターンズなんだ。そう簡単にやられはしない。おまえはその機体ではもう戦えない。行くぞ」

マーフィー小隊長のギャブランが、スラストから高温のガスを噴き出してアスワンに向かう。エリアルドも同様にその後を追った。

再び、マーフィー小隊長の声が聞こえてきた。

「この空域にシャア・アズナブルがいるらしい。おまえ、金色のモビルスーツを見なかったか？」

「いいえ。それにシャアが……」

「一戦交えてみたかったな……」

つぶやくような小隊長の声だった。

「よく生きてたどり着いた」

アスワンのデッキ係官がギャブランのcockpitを強制開放して、エリアルドに言った。「破損したギャブランは放棄する。誘爆の恐れがある」

仕方がないとエリアルドは思った。

「マーフィー小隊長は？」

「あつちだ」

エリアルドは係官が指示した方向を見た。血まみれのマーフィー大尉が運ばれていく。ひどい負傷をしていたのだ。

「小隊長！」

エリアルドが近づこうとすると、マーフィーは、笑みを浮かべて親指を立てて見せた。

係官が言った。

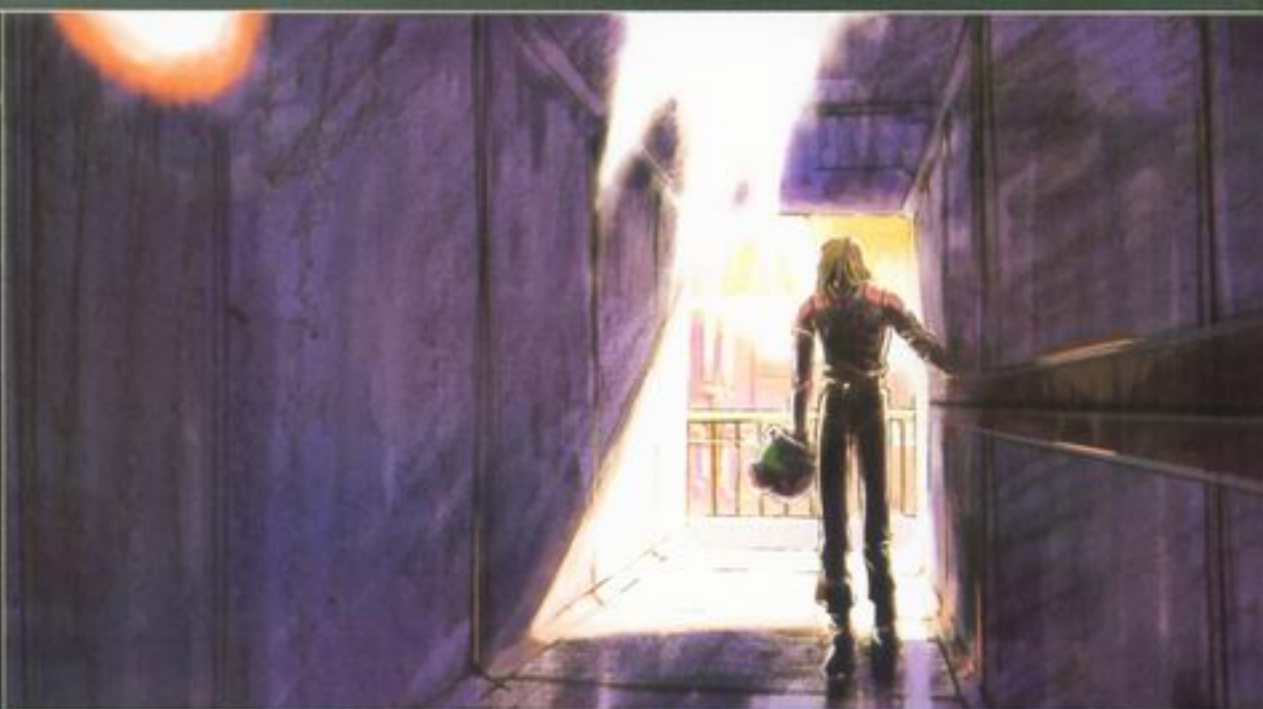
「小隊長の治療は医療班に任せろ。あんたも休むんだ。いつまた出撃命令が出るかわからんぞ」

言われたとおりにするしかなかった。ヘルメットを脱いだエリアルドは、初めてくたくたに疲れているのを意識した。





www.jpmsmuseum.com



# ティターンズの旗のもと

■0088年5月

エリアルド・ハンター中尉は、倉倉から呼び出され、殺風景な部屋に連れて行かれた。壁の一部が大きな鏡になっている。おそらくそれはマジックミラーだ。

連邦軍の制服を着た見たことのない男がテーブルに向かってすわっていた。隣の椅子には杖が立てかけられている。足が悪いのかもしれない。階級章を見ると、少佐だった。

「二人きりにしてくれ」。

その男はエリアルドをこの部屋まで連行してき

U.C.0088



た兵員に言った。「そして、そのマジックミラー越しの監視もなしだ」。

エリアルドは戸惑った。兵員が出ていき、二人きりになると、少佐は言った。

「さあ、かけるんだ。ゆっくりと話を聞かなければならない」。

エリアルドは、用心深く椅子に腰かけた。

「君は、いくつかの罪状で軍法会議にかけられることになっている。私は、君の弁護を引き受けた連邦軍の法務官だ。君から詳しく話を聞く必要がある。話してくれるな?」

その少佐の眼には、知性の光があった。柔らか

な優しい眼差しだった。エリアルドはこたえた。

「どこからお話しすればよろしいのでしょうか」。

「最初からだ。君がティターンズに配属されたときから、最後の作戦まで……」。

少佐の言葉にエリアルドはうなずいた。

「お話しします。自分は誇りを持ってティターンズの旗のもとで戦いました。軍人として間違ったことはしていないという自信があります」。

少佐はうなずいた。

「けっこうだ。私はその言葉を聞きたかった。さ、始めよう」。





U.C.0084

www.jpmsmuseum.com

0084年12月

「嘘だろう……」

中尉になったばかりのエリアルド・ハンターは、命令書を受け取り思わずつぶやいていた。

その命令書を受け取ったのは、地球の周囲軌道上に在るサラミス改の中だった。モビルスーツ訓練の真っ最中だ。命令書には、ティターンズに入隊とあった。ジャミトフ・ハイマンの提唱でティターンズが組織されたとき、エリアルドは入隊希望を軍に提出していた。

ティターンズは、エリートが集まりであり、通常の連邦軍士官よりも一階級上の権限が与えられると聞いていた。腕に自信があり、軍人としての将来を夢見る若者は、こぞして入隊を希望したのだ。エリアルドもその一人だった。

士官学校では、軍曹に徹底的にしこかれ、卒業して少尉となった。それから、モビルスーツのパイロットとして腕を磨いていた。ジオン残党の「デラース紛争」では、地球衛星軌道上の哨戒任務についた。それが初陣だった。

「デラース紛争」は、連邦軍の若い兵士や士官たちに、ジオン残党が危険分子であることを強くアピールする結果となった。ジオン残党討伐は、連邦軍の正当かつ重要な任務であるという論調が高まりつつあり、エリアルドもそのことにまったく疑問を抱いてはいなかった。

だが、本当にティターンズに入隊できるとは思っていないかった。エリアルドは、実力をよくわきまえているつもりだった。自分より優秀なパイロットはいくらでもいると思っていたのだ。

艦を降りると、すぐに北米の基地に出頭するように言われた。その基地でティターンズの制服を与えられたときに、初めて実感がわいてきた。

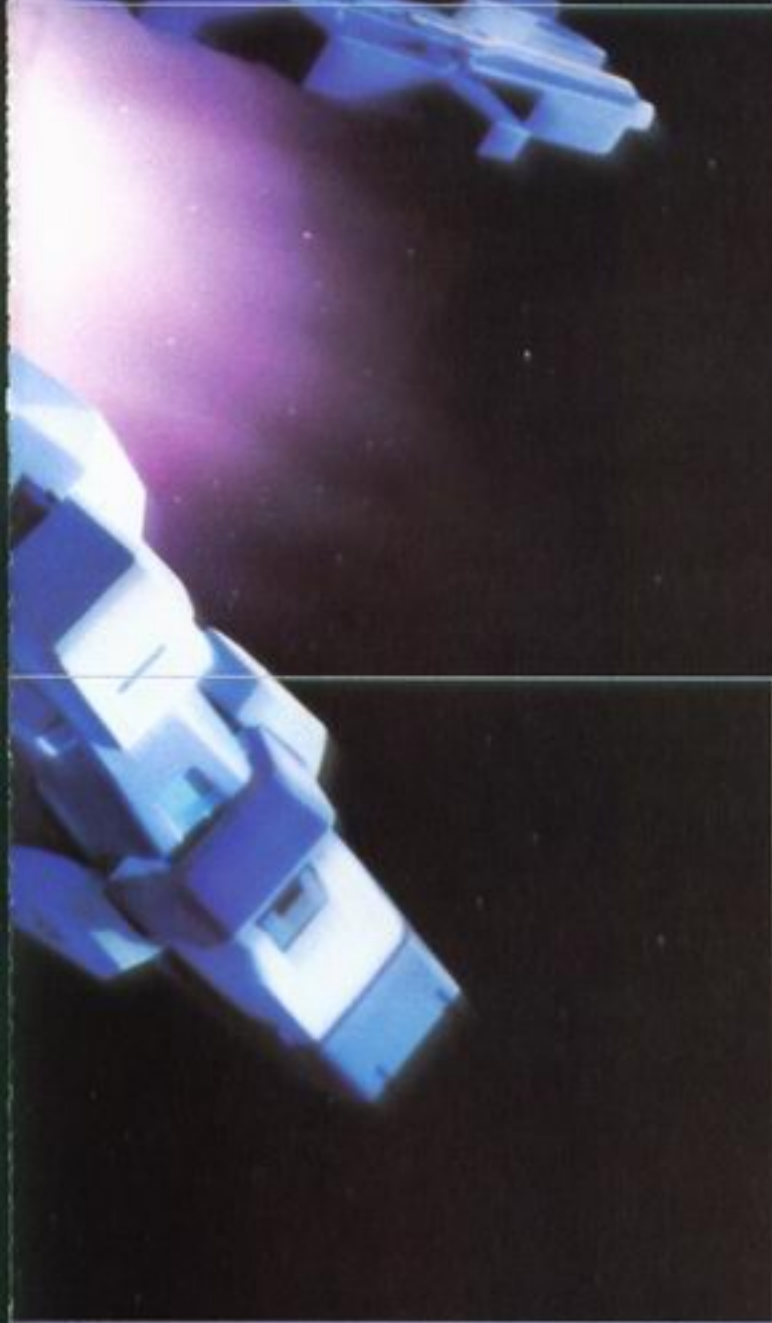
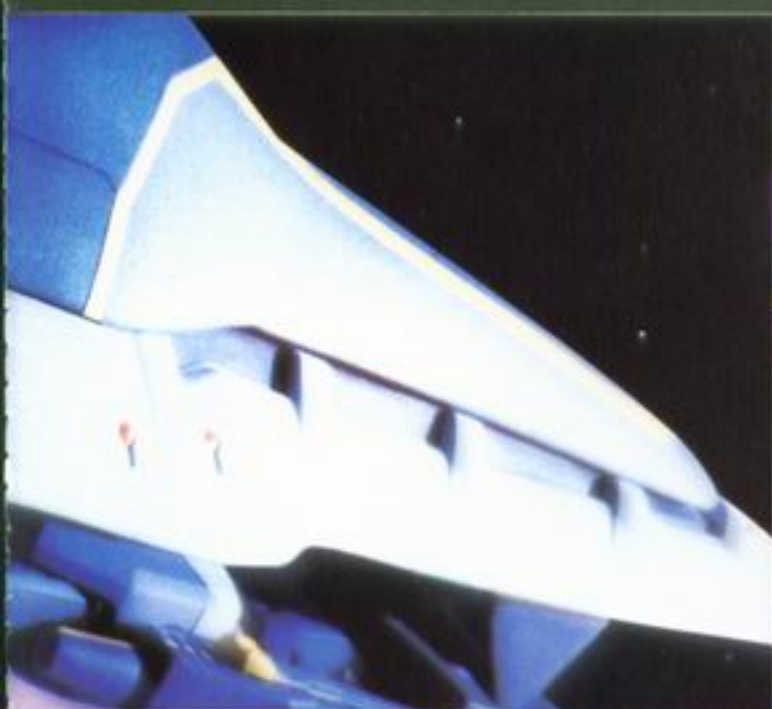
僕は選ばれたパイロットだ。

名誉と栄光を手にした気分だった。ティターンズの士気は高かった。一年戦争が終わり、「デラース紛争」が終結した今、実戦といえはジオン軍の残党討伐を意味していた。

エリアルド・ハンターは、ティターンズの中のMS実験小隊に配属された。ブリーフィングに赴いたエリアルドたちに、小隊長のウェス・マーフイー大尉は言った。

「一年戦争が終結した今、ジオン残党は、過去からのテロリストに他ならない。ティターンズは、未来のための軍隊だ。地球の未来を担うことに誇りを持ってほしい」





ウェス・マール大尉は、筋金入りの軍人だ。一年戦争初期に初陣を飾り、「デラース紛争」では大活躍をしたという。

マール大尉は、MS実験小隊に配属されたメンバーを次々と紹介していった。カール・マツバラ中尉は、エリアルドよりも一つ年上だった。オードリー・エイプリルは、エリアルドの二つ年上。ショートカットの似合う女性隊員だ。フリーフィングが終わると、カールが話しかけてきた。

「おい、この小隊はちょっとやばいらしいぞ」

「どういうことだ？」

「俺みたいな東洋人とのハーフがティターンズに入隊できたのはラッキーだと思っていたんだ。けど、ここに配属されて納得した。この小隊の主な任務は、モビルスーツのテストだ。危険な任務なんだよ」

「いいじゃないか。腕が試せる」

カールは、にっこりと笑った。

「おまえとはうまくやっていけそうだな。オードリーを、どう思う？」

「オペレーター要員だ。テストのデータなんかを取るんだろう。同じ小隊のメンバーだ。仲良くしたいね」

「美人じゃないか。ホント、仲良くしたいよな」

◆ ◆ ◆

エリアルドが乗ったジムのモニターには、カールのジム・スナイパーとマール大尉の機が映し出されている。小隊長の機体にはガンダムヘッドが装着されていた。ジオン残党にガンダムの姿がどれほどの心理的影響を与えるかをテストする目的で作られた機体だ。中身はジム・クウェルだった。ガンダムTR-1と呼ばれていた。

「来るぞ。惑星軌道面、二時の方向」

ヘッドセットからマール大尉の機が飛び込んでくる。エリアルドは視認した。ザク用のマシンガンを持ったゲルググが三機だ。間違いない。ジオンの残党だった。再びマールの機が響く。

「カール。長距離砲だ。撃て」

カールが乗るジムスナイパーのロングレンジライフルからビームが発射される。

次の瞬間、ドッグファイトに突入した。

テストパイロットだって？

エリアルドは、ジムを操りながら、心の中で毒づいていた。

冗談じゃない。いきなり、実戦じゃないか。

目まぐるしく変化するGに血液がシェイクされ



www.jp.sfmuseum.com



るように感じる。内臓がひっくりかえりそうだ。

「後ろだ」

マーフィーの声。エリアルドは、はっとして反転する。ゲルググが迫ってきていた。

「くそっ」

ライフルを連射する。当たらない。

敵のマシンガンに直撃される。そう感じた瞬間、ゲルググをビームが貫いた。音のない爆発。火の球が膨れあがる。飛び散った破片が装甲を叩く音だけが響いてきた。

「ライフルは、敵を撃つためにあるんだぜ」

「カールか？ 助かったぜ」

「見ろよ、小隊長の動き」

エリアルドはモニターを見直し、ガンダム姿を探した。

いた。二機のゲルググを相手にしている。

「援護する」

カールが言った。「接近して小隊長に手を貸してやれ」

「了解だ」

エリアルドは、スラスターを噴かした。ジムは一気に加速する。

敵の動きも速い。エリアルドは、一機のゲルググをターゲットスコープに捉えようとしていた。モニターの中を目まぐるしくゲージが交差する。

だが、エリアルドの援助は必要なかった。マーフィーのガンダムは、危なげなく敵を追いつめ、ライフルで沈めた。

残るは一機。ガンダムはビーム・サーベルを抜いた。敵に対する威嚇であることが、エリアルドにもわかった。

最後のゲルググはライフルを連射しながらガンダムに迫る。マーフィーは、巧みにスラスターを操って弾をよけた。ビーム・サーベルが一閃した。ゲルググとガンダムがすれ違う。ガンダムが反転したとき、ゲルググは炎の球に包まれていた。

「すごい……」

エリアルドは、思わずつぶやいていた。

「戦場では後ろにも眼をつけろ」

マーフィーの声が聞こえた。「でないと死ぬぞ」

「はい」

エリアルドはあわてて返事をした。

◆ ◆ ◆  
ガンダムTR-1を駆るマーフィー小隊は、それから向かうところ敵なしだった。エリアルドは、誇りを胸に戦い続けていた。

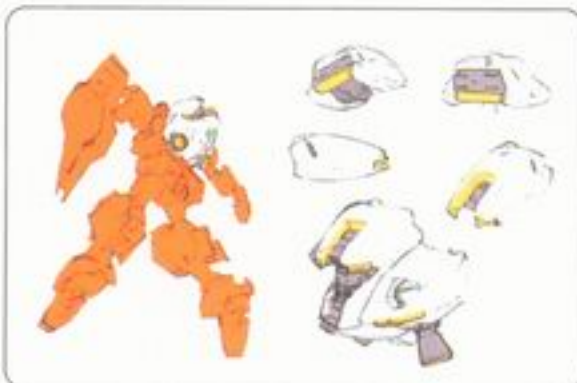


# RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL] ガンダムTR-1 [ヘイズル]



ガンダムTR-1はT3部隊のマーフィー小隊に配備された運用実験機である。パイロットは歴戦の兵にしてマーフィー小隊の隊長「ウェス・マーフィー大尉」が務める。実験機とはいっても実戦での運用実験を前提としているため、基本的な機体の可動システムは信頼性の高い従来通りのジム系MSシステムが流用されている。使用しているビーム・ライフルは、次世代機への装備を目的としたEバック方式の試作品である。

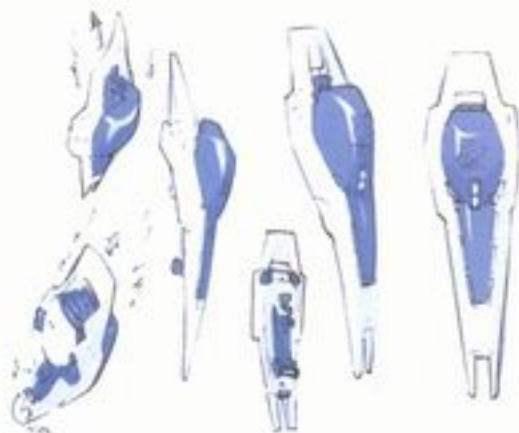
実験機としてさまざまな要素が盛り込まれたガンダムTR-1は、強襲形態の他にチョバム・アーマーの増加装甲を装着したFA（フルアーマー）形態も存在する。



**ブースター・ボット**  
背部の強化バックパックにジョイントされたブースター・ボットは縦方向にある程度自由に可動し、ベクタードスラスターとしてガンダムTR-1に高い運動性を与えている。

## シールド・ブースター

ガンダムTR-1の装備の中で最も特徴的なものがこの「シールド・ブースター」である。シールドでありながらスラスター兼プロペラント・タンクでもあるこの装備は、スラスターとプロペラント・タンクを融合させた「シュツルム・ブースター」をさらに発展させた複合用途の装備である。



## 強襲形態

ガンダムTR-1の強襲形態は、シールド・ブースターを両腕に装備しオプション装備の増加装甲を取り外した状態を指す。2枚のシールド・ブースターから得られる大推力により、レンジ外から一気に目標に接近する強襲戦術をメインコンセプトとした形態である。







ガンダムTR-1は、いわゆるガンダムヘッドを装備することで、視覚的にジオン軍残党に与える心理的影響をテストするために作られた機体である。頭部こそ“伝説の”ガンダムのそれであるが、RXタイプとして新造されたMSではなく、機体のパーツにはジム・クウエルのものが多く使用されている。ただし、基本フレームはジム・クウエルの流用であるが、背部の強化バックパックとそれに付属する可動式ブースター・ポッド、そして脚部の強化スラスターなど機体の各部が運用試験を兼ねた強化パーツに換装されており、その機体のポテンシャルはRXタイプに匹敵する。

#### 頭部ユニット

デュアルカメラと2本のアンテナ・ブレードをもつ、いわゆるガンダムヘッド。最も視覚的に“ガンダム”を連想させるパーツである。各種センサー類はジム・クウエルよりもワンランク上のものが装備されている。



www.jpshmuseum.com

## ティターンズの部隊運用

通常、連邦宇宙軍のMS部隊の運用は“サラミス改級宇宙巡洋艦”のMS搭載能力を考え、MS3機からなる小隊が2個で1中隊を形成している。つまり、サラミス改級1隻ごとに6機のMSが1個中隊として配備・運用されている。これに対し、ティターンズが使用する一年戦争後初の本格的なMS母艦型の宇宙艦艇“アレキサンドリア級宇宙巡洋艦”は、実に12機ものMS搭載能力を有している。そのため、ティターンズのMS部隊はアレキサンドリア級1隻につき2個MS中隊(=4個MS小隊)で編成されており、1隻のみでも十分に作戦行動を行えるだけの戦力を保有しているのである。

ちなみに、アレキサンドリア級はティターンズの設立に合せて建造されたと言っても過言ではなく、設立当初からMS運用を戦術の一環として組み込んでいたティターンズにとって、この新造艦に本格的なMS搭載能力を持たせることは、すべからず当然の事であった。

アレキサンドリア級宇宙巡洋艦  
ベガサス級強襲降陸艦をしのぐ12機ものMS搭載能力をもつティターンズを象徴する宇宙艦艇。



## 連邦軍の小隊運用

連邦軍は戦役のMS小隊編成において、通常3機で1個小隊を形成している。これは一年戦争でのジオン軍の編成をまねたものであるが、連邦軍のそれには独自の用兵思想も盛り込まれている。それは小隊内に1機、砲撃戦用MSもしくは長射程・大火力の火器を装備したMSを配備し後方支援をさせるというもので、これによりフォワード(前衛)2機、バックアップ(後衛)1機という小隊内での役割分担ができあがる。フォワードは敵機に接近して近距離戦闘を行い、バックアップが後方から強力な火器でそれを支援する。これが、連邦軍でのMS小隊運用の基本戦術であり、ティターンズでも採用している部隊は多かった。ジム・クウエルなどの専用機を統一配備していたティターンズでは、バックアップ機に長射程・大火力の火器を装備させ、この編成に対応させていた。

### マーフィー小隊

#### フォワード

RX-121  
GUNDAM TR-1 (HAZEL)  
ガンダムTR-1 (ヘイズル)  
パイロット: ウェス・マーフィー



#### フォワード

RGM-79CR  
GM TYPE-CR  
ジム改高機動型  
パイロット: エリアルド・ハンター



#### バックアップ

RGM-79SR  
GM SNIPER III  
ジムスナイパーIII  
パイロット: カール・マツバラ





## RGM-79CR &amp; SR

ジム改高機動型  
&  
ジムスナイパーⅢ

このジム改は、連邦軍が次世代主力MSとして「RGM-79RジムⅡ」の制式採用を決定したことから、ティターンズでもその採用を検討するための評価試験機として作られた機体である。RGM-79Cジム改をベースとしてRGM-79Rの仕様に合わせて、各種センサー、スラスターなどが強化されている。また、わずかなオプションの換装でスナイパータイプへの仕様変更が可能となった。

制式採用に向けたデータ収集のため、T3部隊では標準機としてこの機体を使用している。



頭部ユニット

ビーム・ライフル

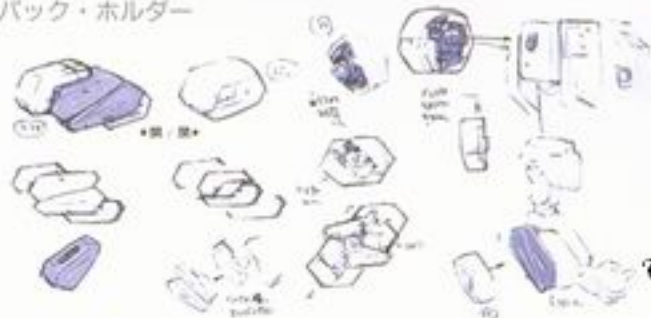
Eバック方式の試作ビーム・ライフル。運用実験のためにさまざまなバリエーションが存在する。

フレームが同一のため外見上にはジム改と変わらないが、内装されているセンサー類は一様に強化されている。狙撃型にはジム・スナイパーⅠで使用されていたバイザー・センサーの強化版が装備されている。

RGM-79SR  
GM  
SNIPERⅢ

T3部隊共通の装備。機体各部のウェポン・ラッチに装備可能で、2個のEバックを携行することができる。

Eバック・ホルダー

RGM-79CR  
GM TYPE-CR





# TITANS TEST TEAM MEMBER



## CARL MATSUBARA

カール・マツバラ

エリアルドと同期にティターンズに入ったライバルであり、よき友人。明るい変わり者で思い立ったら一直線に突き進む、小隊のムードメーカー。日系のハーフで、本当は黒髪だが、気分によって染めている。マーフィー小隊の後衛である3番機を駆る。24歳（U.C.0084年時）。



## AUDREY APRIL

オードリー・エイプリル

マーフィー小隊の紅一点で、エリアルドやカールの憧れの女性。MSパイロットではあるが、テスト・チームでは基本的にオペレーターを務めていることが多い。情報通でゴシップ好き。才色兼備だが、実は動物が苦手という欠点を持っている。25歳（U.C.0084年時）。



## WES MURPHY

ウェス・マーフィー

マーフィー隊の1番機を駆る、冷静沈着な小隊長。一年戦争のソロモン攻略戦で初陣を飾り、「デラース紛争」などでも活躍した歴戦の勇者。小隊のメンバーに対しては厳しいが、反面よき兄貴分でもある。ウサギ好きという意外な一面を持っている。30歳（U.C.0084年時）。



## ELIARD HUNTER

エリアルド・ハンター

本編の主人公。理想に燃えてティターンズを志願した青年士官。やる気に満ち溢れており、時折そのやる気が空回りすることもあるが、決して軽率なタイプではない。優秀なパイロットだが、本人にはその自覚がない。マーフィー隊では2番機を駆る。23歳（U.C.0084年時）。

## 小隊機のマーキング

マーフィー小隊は別名「ブラックオター」とも呼ばれている。これはウサギの色の種類（黒に一部オレンジ）からきた名前で、ウサギ好きのマーフィー隊長が名付けたもの。それゆえ部隊章やパーソナルマークもウサギにちなんだものが多い。



部隊章。T3マークとともに全機体に付けられている。



「ヘイズル」に付いているマーク。帽子はアーマーを表す。



カールが自分の機体に付けているパーソナルマーク。

Logo Mark Design: Fujika Kenki/PEPPER SHOP





# RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL]

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"MASTER GRADE"  
RGM-79Q GM QUEL  
modeled by Toshio Iwata/Mitsuaki Misaki/Nobuyuki Sakurai  
painted by Toshio Iwata



電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Ζ

ティターンズの旗のもとに



[www.jpmsmuseum.com](http://www.jpmsmuseum.com)

二番手がエアリアルドの、高機動型のジム改、しんがりがかールのジム・スナイパー目だ。オードリーは、今回はアスワンで留守番だった。母艦から飛び立つと、三機はいつものフォーメーションを組んで輸送艦に向かった。

静かだ。輸送艦は、すでに加速を終えてサイド1への軌道に乗っている。小さな輸送艦だ。何を運んでいるかは知らない。小隊長も知らないはずだ。オットー・ペデルセン大佐は、ブリーフィングで荷物については一言も触れなかった。知る必要もないとエアリアルドは思っていた。何を運んでいるかと関係ない。輸送艦を守るのが任務だ。

「惑星軌道面、十一時の方向」

突然、カールの声が聞こえてきた。エアリアルドは、十一時の方向に目をこらした。何も見えない。さすがに、長距離砲を武器とするスナイパーにはモニターの性能が遠く及ばない。

しばらくして、小さな光が見えた。と思った次の瞬間、ビームがやってきた。

「敵襲だ」マーフイー小隊長が落ち着いた声で言った。「前へ出るぞ。カールは援護だ」

ヘイズルが加速して輸送艦の前へ出る。エアリアルドも遅れずに続いた。後方からカールのジムスナイパー目だ、ロングレンジのビーム・ライフルを撃ちはじめた。敵も撃ってくる。

「そうそう当たるもんじゃない」マーフイー小隊長の声が聞こえる。「びびるなよ。もうじき本命が来るぞ」

「確認」エアリアルドはモニターを見て言った。「惑星軌道面の下方から二機来ます」

「撃てよ」マーフイーの声。「ライフルは飾りじゃない」

なかなかロックオンしない。相手は速い。ザクFZか……。ジオンの残党かもしれない。あるいは、反地球連邦政府運動の連中か。やつらが手を組む動きもあると、ペデルセン大佐が言っていた。いずれにせよ、反社会分子は秩序の守護者ティターンズの敵だ。

ロックオン。エアリアルドはビーム・ライフルを続けざまにぶっ放す。ビームがザクFZを貫き、炎の球が膨れあがった。音のない光だけの爆発だ。「くそっ」

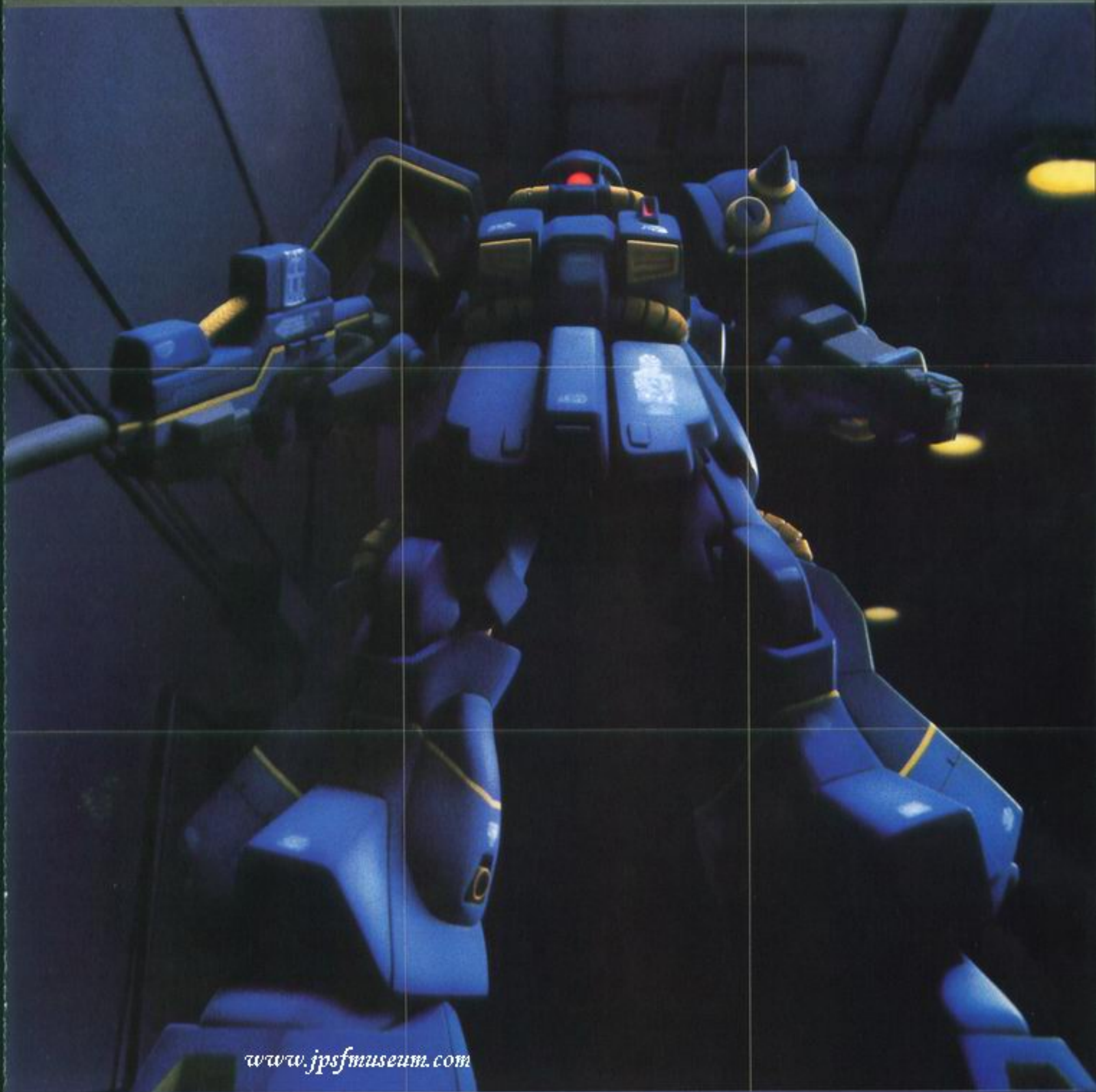
マーフイー小隊長の声がした。

「どうしました?」

エアリアルドは尋ねた。

「アーマーが重い」





www.jpjpfmusem.com

質量が大きくなった分、加速性が落ちているということだろう。エリアルドは、見たことのない機体が小隊長機に迫るのを見た。ドムのように見える。だが、ゲルググ・Mのようでもある。その機体が小隊長機に急速接近しながらマシンガンで連射した。曳光弾が宇宙空間に曲線を描き出す。その弾丸が、ヘイズルの左腕部を貫いた。

「くそったれ……」

エリアルドは、ビーム・ライフルを連射する。直撃はできなかった。しかし、相手のシールドごと左腕を吹き飛ばしていた。

敵は反転して退却した。

「助かったぞ、エリアルド。いい腕だ」

マーフィー小隊長にそう言われて、エリアルドは素直に喜んでいた。

#### ■アスワン コンベイトウへ 0085年7月

エリアルドたちは、アスワンに帰り着き、オードリーのウインク付きの敬礼と、クルーたちの欢声に迎えられた。敵を蹴散らし、任務を無事果たして帰還したのだ。マーフィー小隊長は、輸送艦をサイドーに送り届けた。

ブリッジに出頭して、帰投の報告をしたマーフィー小隊長は、ヘデルセン大佐から情け容赦ない命令を聞かされることになった。

「バスクたちがサイドーの30バンチで何か作戦行動を取るらしい。アスワンはその後方支援に当たる。出撃してくれ」

マーフィー小隊長が言った。

「ヘイズルは破損しています。修理が間に合いません」

「新規に配備されたハイザックという機体がある。テストを兼ねてそいつで出る」

断るわけにはいかないのは、エリアルドにもわかっていて。マーフィー小隊長は言った。

「了解しました。すぐに準備にかかります」

ヘデルセン大佐は、うなずいた。

「ここでバスクに恩を売っておくのも悪くないさ」

マーフィー小隊長は、ハイザックに乗り込んだ。エリアルドは、旧ジオン公園のザクに似たその姿があまり好きではなかった。

「さあ、出るぞ」

マーフィー小隊長は、軍人らしく、愚痴も言わずに出撃していく。エリアルドもその態度を学ぼうと思った。



# RX-121 GUNDAM TR-1 HAZEL

## ガンダムTR-1[ヘイズル]

ガンダムTR-1には、一年戦争中に開発されたガンダム用のプラン「FSWS計画」同様に増加装甲システムが用意されている。ジム・クウエルがベースとなっているヘイズルは、機体各部に強化パーツを増設することでガンダムタイプMSとしての高性能を実現しているが、強化パーツの内、バックパック、脚部および背腰部の“白いパーツ”はフレームに固定されており、胴体正面の装甲のみが、通常装甲の上に脱着可能な“増加装甲システム”となっている。これは被弾率の高い胴体正面部に脱着可能な装甲を設置することで、戦闘で被弾しダメージを受けた装甲を容易に交換できるようにとのメンテナンス面での配慮である。ただし、増加装甲を装着することで機体質量が増加してしまうため、TR-1の持つ軽快な運動性が失われてしまうという欠点もある。

### 背面VIEW

バックパック、腰部、脚部の“白い”パーツは一見すると増加装甲システムのように見えるが、これらは固定式の強化パーツであり脱着は不可能である。ジム・クウエルを機体ベースにしているヘイズルは、基本的にこれらの強化パーツを増設することで性能の向上を図っている。

※1ガンダム機



### 側面VIEW

ヘイズルを側面から見た図である。基となったジム・クウエルからの、パーツの追加によってボリュームアップされた各部位の様子がよくわかる。特に脚部スラスタは大幅な推力増強が図られており、フクラハギのボリュームは異常に増大している。

ギョッドは自由に動きます。



※2ガンダム機



### 増設パーツ配置図

増加装甲システムと強化パーツの配置表示。ジム・クウエルに増設された強化パーツが一目でわかる。





[www.jpmsmuseum.com](http://www.jpmsmuseum.com)

## EPISODE 2.1

■サイド・コンバットウ周辺 0085年7月

コンバットウと30パンチは、ほんの目と鼻の先だ。とはいえ、モビルスーツのペイロードで到達できる距離ではない。出撃したマフイー小隊の役割は、オットー・ペデルセン大佐が言ったとおり、側面バースト後方支援なのだ。エリアルド・ハントーは認識していた。ペデルセン大佐は言った。「バスクたちがサイドの30パンチで何か作戦行動を取るらしい」

それがどんな作戦なのか、エリアルドは知らない。だが、地球連邦にとって重要な作戦に違いない。その後方支援というからには、重要な任務なのだ。エリアルドは思った。

「レーダーに反応」カール・マツバラの声が聞こえた。「船だ。単独行動を取っている。北極星座標の方位045」

「識別できるか？」

隊長のウェス・マフイー大尉の声だ。

「サンジバルですね。サイドに向かっています」

「ジオン残党だ。反地球連邦運動の連中と手を組んでいるのかもしれない」マフイー隊長が言った。

「いずれにしろ敵だ。行くぞ、やつらの鼻先を叩く」マフイー隊長のハイザックが、高温ガスの軌跡を残してサンジバルの方向に向かって加速した。

エリアルド、カールの順にそれに続いた。

「敵を視認」カールの声。「レーダーに小さな反応。おそらくモビルスーツです」

「こっちのレーダーでも確認した」

マフイー隊長の声がする。エリアルド機のレーダーでもその機影を捉えていた。敵モビルスーツの数は二機。

「射程距離に入ったらぶっ放せ」マフイー隊長が言った。「先手必勝だ」

■アスワン 0085年7月

「急げ。いつ出撃になるかわからんのだ」

ヘルメットの中にヘンドリック・ネスの声が響いた。

「はい、妙に張り切ってるじゃねえか」

ビート・シエルトンは心の中でつぶやき苦笑を浮かべていた。ヘンドリック・ネスはアスワンのメカニックチームのチーフだ。ビートとは親子はど

も年が違う。いや、へたをしならじいさんと孫だ。

「あーあ、せっかくのガンタムの脚が……」



# 目の前には二体のガンダムが並んでいる 正確に言うと、そのうち一体は ガンダムヘッドを取り付けたジム・クゥエルだ

U.C. (宇宙世紀) 0085年7月、ティターンズのバスク・オム大佐はサイド1で作戦行動を取っていた。  
部隊長であるオットー・ペテルセン大佐のバスク大佐への対抗心から、  
輸送艦の護衛任務に駆り出されたT3 (ティターンズ・テスト・チーム) は、  
ガンダム・ヘイズルを小破されながらも無事任務を終えた。…彼らは知らなかった。  
彼らが護送した輸送艦に積まれていたのが猛毒のG3ガスであり、  
それがサイド1・30パンチコロニーの住人300万人を皆殺しにするためのものであるということ。

[www.jpshmuseum.com](http://www.jpshmuseum.com)

ビートはガンダム・ヘイズルを見上げてつぶやいた。目の前には二体のガンダムが並んでいる。正確に言うと、そのうち一体はガンダムヘッドを取り付けたジム・クゥエル。交換パーツ提供用だ。「余計なことを言っとらんで、手を動かせ、手を…」ヘンドリックじいさんの声がかん響く。

「はいはい…」

すでにメカニックマンたちは、被弾したヘイズルの膝から下は取り外していた。ガンダムヘッドのジム・クゥエルの脚部ももうじき取り外せる。問題は接続をした後だ。メインコンピュータの設定をし直さなければならないし、微調整も必要だ。

「おい、マーフィー小隊が交戦しているらしいぞ」誰かの声がヘルメット内蔵のインカムから流れてきた。ブリッジから洩れてきた情報のようだ。

「言わんこっちゃない」ヘンドリックじいさんの声が聞こえてくる。「おい、ビート。ぐずぐずするな。脚をすぐ替えたら、すぐに回線を接続して設定を済ませろ」

「わかってますって」

「わかってるんなら、しゅきしゅき動け」

交戦だって？ ビートは思った。まったく、メカニックの都合も考えてくれよな…

ようやくヘイズルの脚部の物理的接合が終了した。

「さて、がみがみ言われないうちにさっさと済ませるか…」

ビートは床を蹴り、ヘイズルのコクピットまで飛んだ。

■サイド1付近 0085年7月

カールのロングライフルが火を噴いた。ドムとゲルグ・Mの特徴がミックスされた機体だ。隊長のガンダム・ヘイズルの左腕を突き抜いたやつだ。エリアルドはたしかに、やつらの左腕をヒーム・ライフルで吹き飛ばしたはずだ。同じ型の別の機体なのか、あるいは腕の部品を交換して出てきたのかエリアルドにはわからない。

隊長の声が聞こえてきた。

「どうやら、ヘイズルの脚を替の果にしてくれたやつらしいな」



www.jpshmuseum.com



エリアルドは言った。  
「そう思いますか？」  
「ああ、やられた相手の特徴は忘れない。借りを返させてもらう」  
カールが再びビーム・ライフルを撃った。だが、敵を捉えることはできなかった。  
「行くぞ」マーフィー隊長の声が聞こえる。「ドックファイトだ。カールは後方で援護しろ」  
「了解」  
カールの声が聞こえる。  
敵が撃ってきた。肩のスラスターを使って機体を揺すり、弾をかわす。突然、聞き慣れない声がかくヒット内に響いた。  
「ザクはジオンの誇りだ」

どうやら敵パイロットが同じ周波数の無線を使っているようだ。声はさらに続いた。  
「ジオンの誇りを、そのような形で汚すとは……断じて許せん」  
ハイザックのことを言っているのだ。ザクに姿が似ているが、ティターンズ・カラーに塗装されている。それを怒っているのだろう。  
こっちはだって、ハイザックのデザインが気に入っているわけじゃない。  
エリアルドが心の中でつぶやいたとき、ザクがハイザックに猛然と突進していくのが見えた。ザクは隊長に任せておけばいい。  
エリアルドはドムの姿を探して、モニターを見回した。突然、下方からドムが現れた。エリアル

ドは度肝を抜かれ、避けて距離を取ろうとした。ドムがこいつのスパイク付きのシールドを突き出した。  
「くそっ」  
コクヒットに衝撃が伝わった。おそらく、ジム改の装甲がひどくへこんでしまったに違いない。  
エリアルドはバーニアを噴かしてドムから離れた。その瞬間、ドムをビームがかすめた。カールのロングライフルだった。ドムは、すばやく反転してカールのジム・スナイパーIIIに向かってマシンガンを開始した。90ミリ機関砲だ。  
エリアルドは、曳光弾の混じった90ミリの弾丸がジム・スナイパーIIIの装甲を突き抜くのを見た。

「カール」  
エリアルドは思わず叫んでいた。エンジンブロックをやられたら助からない。熱核反応炉が誘爆し、機体は粉々になる。  
コクヒット内に警戒音が鳴り響いた。エリアルドは反射的にリーダーを見た。モビルスーツが来る。敵艦の方向からだ。  
エリアルドは言った。自然に大声になっている。  
「リーダーに反応。敵の増援です。三機来ます」  
「こっちはキャッチしている」マーフィー隊長の声。「やろう。こいつはしつこいな……」  
マーフィー隊長はまだザクを片づけられずにいる。ザクのパイロットもなかなかの腕だ。





「カール」  
 エリアルドは思わず叫んでいた  
 エンジンブロックを  
 やられたら助からない  
 熱核反応炉が誘爆し  
 機体は粉々になる

www.jpjpfmuseum.com

「動け」マフイー隊長の声が聞こえた。「一瞬たりとも止まるな。止まったら撃たれるぞ」  
 言われるまでもなくエリアルドは、目まぐるしく機体を動かしていた。シェーカーにかけられた気分だ。

レーザーが高速で接近する物体を捉えた。味方の識別信号を出している。エリアルドは思わずつぶやいていた。

「何だ？ モビルアーマーか……」

やがてモニターがその姿を捉えた。やはり、モビルアーマーに見える。だが、次の瞬間、その姿が変わった。実はシールドを左右に開いただけなのだが、その変化は劇的に見えた。ガンダム・ヘイズルが姿を現したのだ。

「待たせたわね」

オードリーの声だ。エリアルドは絶望の淵から一気に飛び出した気分だった。ガンダムの姿はそれくらいの効果がある。敵に対しても効果は大きかった。敵はガンダムの出現に明らかに動揺している。マフイー隊長がその隙を見逃すはずはない。エリアルドとオードリーがマフイーに続く。オードリーのガンダム・ヘイズルは高機動性を遺憾なく発揮した。ガンダムの出現が戦況をがらりと変えた。その姿はそれだけ精神的な影響力が強いことを物語っている。エリアルドもここぞとばかりにビーム・ライフルを撃ちまくった。

やがて敵が後退した。エリアルドは、急に体中の力が抜けるのを感じた。また、生き残ることができた。

「おい、オードリー」マフイー隊長の声が聞こえた。「俺のウサギちゃんだ。やさしく扱ってくれよ」

すでにオードリーは、再び3基のシールド・ブースターをびったりと合わせて、アスワンに帰還する進路を取っていた。

EPISODE  
 END



ザクはジオンの誇りだ  
ジオンの誇りを、そのような形で汚すとは…。  
断じて許せん

www.jpshmuseum.com

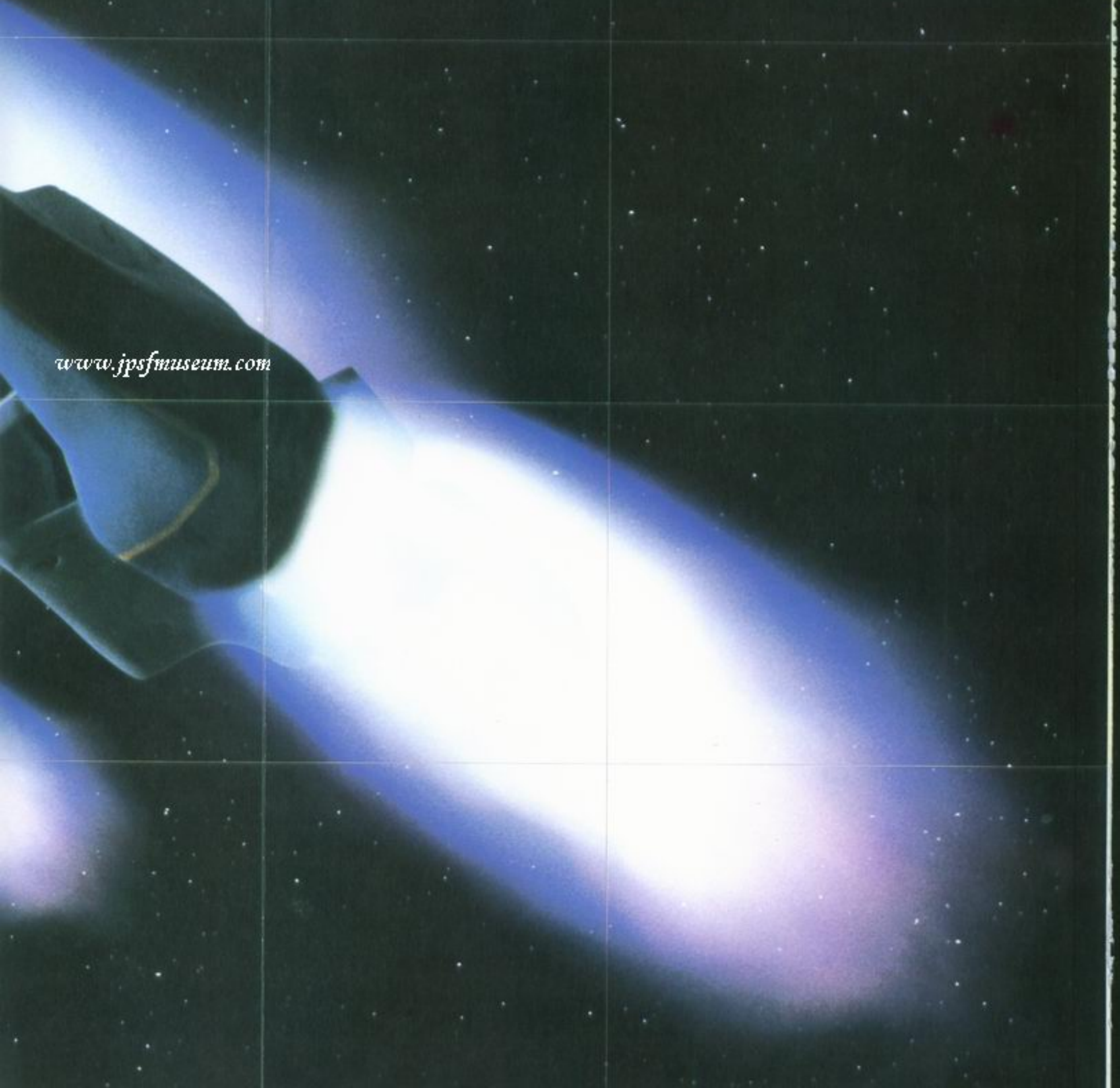
こっちだって、  
ハイザックのデザインが  
気に入っているわけじゃない

「肩プロッタのコンネクターをやられた」カールの声が突然飛び込んできた。「左腕も動かない。ライフルを撃てない」  
「生きてるか」エアアルドは言った。「機体はもちろそうか？」  
「ああ。だが、三機の増援だって？ けっこう絶望的じゃないか…」  
エアアルドは、カール機に近づきビーム・ライフルを構えた。ドムは、増援で余裕を得たのか無理に攻めては来ない。距離を取って断続的にマシンガン撃ち込んでくる。  
「たしかにカールの言うとおり、絶望的だ。こちらら三機。そのうち一機は被弾している。相手は増援を含めると五機だ。エアアルドは、初めて戦場で死を強く意識した」  
■アスワン 0085年7月  
「ヘイズルの修理は終わった？」  
女の声が出てビートは振り向いた。パイロット用のノーマルスーツを着たオードリー・エイプリルが宙を漂って近づいてきた。  
「エイプリル中尉」ビートは言った。「ちょっとトラブってまして…」  
「どうしたの？」  
「メインコンピュータが新しい脚部デバイスを認識してくれなくて…」  
「どいて」  
エイプリル中尉がビートを押しのけてコクピットに上半身をつっ込んだ。  
「たぶん前のドライバが邪魔してるんだ」  
エイプリル中尉の指が接続した調整用のコンピュータのキーボードを猛烈な勢いで叩いた。ビートはディスプレイを覗き込んだ。画面にヘイズルの正面図が描かれており、左腕の膝から下が消えていた。それが突然現れた。ヘイズルのコンピュータが左腕のデバイスを認識したのだ。  
「さすが…」ビートは言った。「エイプリル中尉にはかなわねえな」  
「出るわよ。仲間が危ないの」  
すると、ヘンドリックじいさんの声が聞こえてきた。  
「嬢ちゃん。出るなら、ヘイズルの最終形態を試してみろ」  
「最終形態？」  
「背中にもシールド・ブラスターを付ける。モビルアーマー並の推力が得られるぞ」



レーダーが高速で接近する物体を捉えた  
識別信号を出している。エアリアルは思わずつぶやいていた  
「何だ？ モビルアーマーか…」

[www.jpssfmuseum.com](http://www.jpssfmuseum.com)





味方の識別

[www.jpmsmuseum.com](http://www.jpmsmuseum.com)



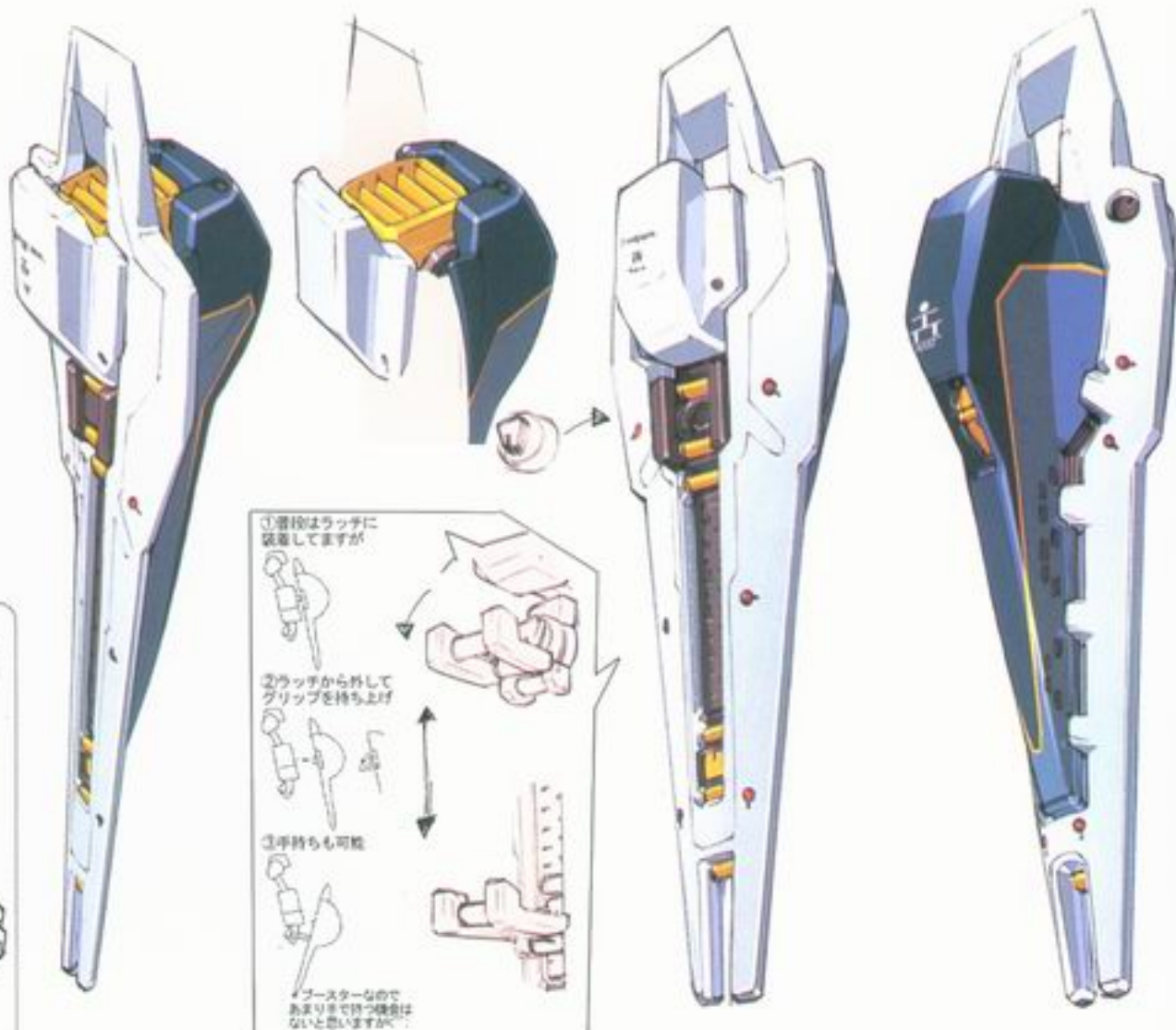
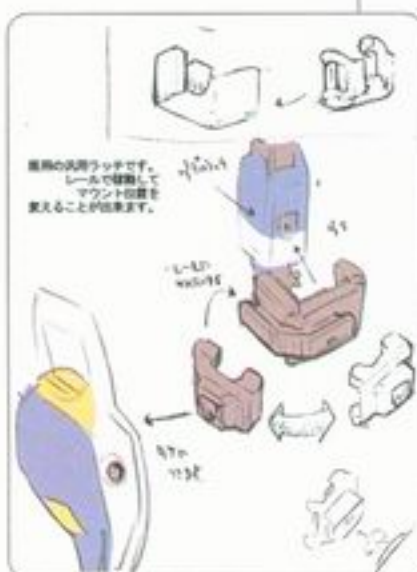
# SHIELD BOOSTER

## シールド・ブースター

ガンダムTR-1の装備の中で最も特徴的な装備がこの「シールド・ブースター」である。シールド・ブースターは、防御装備としての機能しか持っていなかったシールドに、補助推進装置としてプロペラントタンクとスラスターを内装した装備である。

プロペラントタンクとは推進剤（プロペラント）を入れた外装式の増槽（追加タンク）のことで、主にMSが作戦エリアまで移動するための推進剤の供給に使われる。プロペラントタンクを使用すれば、MS本体内の推進剤を消費することなく作戦エリアまで移動することができ、戦闘継続時間の延長が可能となるのだ。そして、このプロペラントタンクを発展させ、推進器を取り付けた装備がシュツルム・ブースターなどの補助推進装置である。戦闘の際、これらの装備は軽快な機動を妨げるデッドウェイトとなるため、戦闘前に廃棄するのがセオリーとされていた。

シールド・ブースターはこれらをさらに発展させ、使用後のシュツルム・ブースターを廃棄せずシールドとして再利用するという発想のもとに生まれた。当然製造コストは高くなるが、廃棄後の回収が難しいシュツルム・ブースターに比べ、被弾しなければ何度でも使用が可能というメリットがある。また、低可燃性の推進剤を使用すれば被弾時の誘爆という危険性を避けることもできるため、補助推進装置としても防御装置としても申し分のない装備となった。



RX-78-2 ガンダム  
一年戦争時、シールドはMSの本体重量を増やすことなく防御力を向上させることができる画期的な装甲システムとして開発された。しかし、当時はまだ単純な装甲の塊でしかなかった。



RX-78GP01 ガンダム試作1号機  
伸縮機能が付いたタイプ。非戦闘時にはたたんだ状態で省スペース化し、運動効率を高めている。そして、いざ戦闘になればシールドを展開し防御面積を広げて使用する。



MSZ-006 Zガンダム  
シールドとしての機能のみではなく、ウェイブ・ライダー形態への変形時には機体の一部を構成する、なくてはならないパーツとなる。着陸用のランディングギアなども内装されている。



MSZ-006C1 Zガンダム  
ビーム・スマートガンや、各種センサーが内蔵されたディスクレドームなどが一体化している。もはや「盾」と呼べるかどうかすら疑問な多機能装備となっている。



## 連邦軍モビルスーツ シールドの変遷

0085年以降、大火力のビーム兵器が一般化するにつれシールドはビーム兵器を防ぎきれなくなり、シールドでの防御はあくまでも最終的な手段とする考え方が主流となる。そのためシールドを消耗品とする見方は薄れ、MSのシステムの一部として防御以外の機能を持たせた多機能シールドが広く普及してゆく。ここではシールドの歴史を追っていく。

ORX-005 キャンペーン  
キャンペーンの可動バインダーは、ほぼガンダムTR-1のシールド・ブースターと同等の装備といえる。ただし、シールド・ブースターがオプション装備なのに対し、キャンペーンのそれは固定装備となっている。





# RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL] FINAL FORM

ガンダムTR-1[ヘイズル] 最終形態

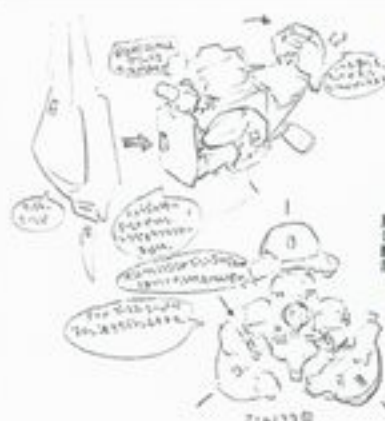
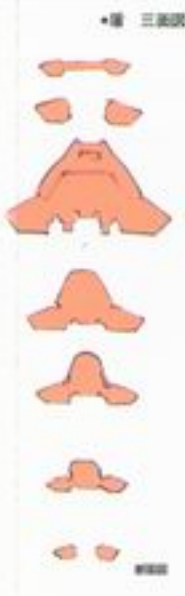
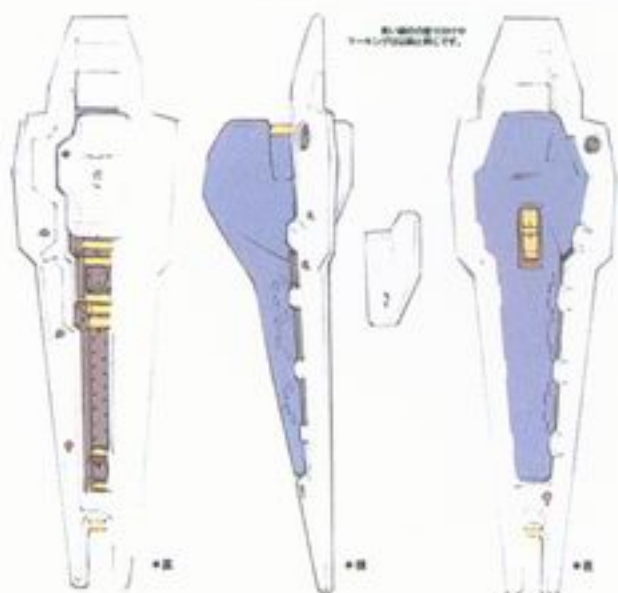
強襲形態では両腕に装備されるシールド・ブースターを背部のブースター・ポッドにも装着した形態がガンダムTR-1の「最終形態」である。最終形態という呼び名は増加装甲システムとシールド・ブースターをフル・オプションで装着していることから名付けられた俗称であり、3枚のシールド・ブースターの推力を一定の方向に揃えることで大加速を得られるようにした「最高速形態」とでも形容すべき巡航モードなのである。ガンダムTR-1の肩口にはこの最終形態時専用のホールディング・グリップが収納されており、それを握ることで両腕を固定し安定した巡航を可能にしている。

このガンダムTR-1最終形態における推力方向の統一というコンセプトは、後のディターンズによる可変MSの開発に少なからず影響を与えている。

この最終形態は3枚のシールド・ブースターによってガンダムTR-1を覆うかたちとなり、機体の大部分はシールド・ブースターによってカバーされる。結果、防御面においてもこの最終形態が最強の形態ということができる。



元のガンダムTR-1の機体は、この最終形態で運用される。機体の大部分はシールド・ブースターによってカバーされる。結果、防御面においてもこの最終形態が最強の形態ということができる。



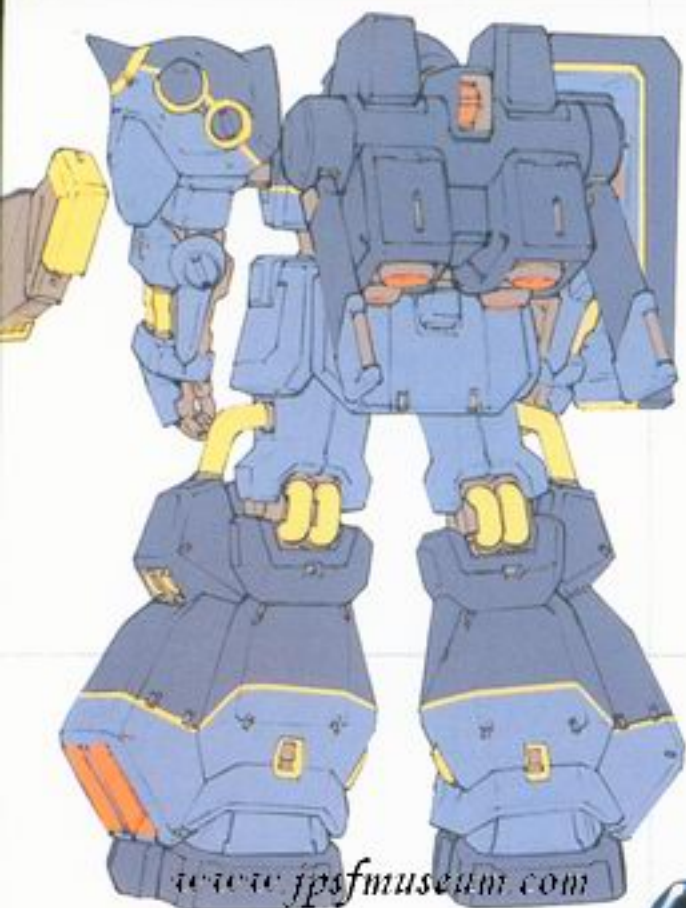
ホールディング・グリップ

ガンダムTR-1の肩口に収納された固定用グリップ・バー。これを握ることで腕部を固定し、装着されたシールド・ブースターの推力方向を安定させる。このホールディング・グリップで腕を固定しないと、シールド・ブースターによる長時間の推力噴射に肩関節が耐えられない恐れがある。



## YRMS-106 HI-ZACK

ハイザック [先行量産型]



## カラーバリエーション

ティターンズ制式採用時のカラーリング。あえて旧ジオン軍のザクを連想させる緑をベースとしたカラーリングにしたのは、ジオン軍残党に対する心理的効果を期待したものと思われる。



## 武装

ハイザック用に開発されたビーム・ライフル。EバックはT3部隊で使用されているタイプに変更されている。他のT3部隊のMS同様、Eバック・ホルダーも装備している。

ハイザックは、アナハイム・エレクトロニクス社（以下、AE社）が世に送り出した量産型MSである。

旧ジオン軍の名機「ザクⅡ」を彷彿とさせる外観は、ジオン最大手のMSメーカーであった「ジオニック社」を吸収合併したAE社ならではのデザインといえる。そして、その開発ノウハウは外観だけでなく内部構造にも活かされており、ザクⅡと同様に生産性や稼働の信頼性が極めて高いMSとなっている。ビーム兵器の運用はもちろん、量産機としてははじめて「リニアシート」と「全天周囲モニター」を標準装備するなど意欲的な機体であった。

連邦軍ではほぼ制式採用が内定しており、ティターンズでも採用を検討するためにT3部隊にも評価試験機が納入された。あまりにもザクを連想させる外観から、ティターンズ隊員には不評であったが、組織の拡大に伴いティターンズでもMSの数の確保が必要となり、結果的には制式採用を余儀なくされる。





www.jpshmuseum.com

## EPISODE 2.2

■巡洋艦アスワン内 0085年7月

「うへえ。本当にこれに乗るのか……」

モビルスーツデッキで、テスト用の新型機を見上げて、カール・マツバラがつぶやいた。エリアルドもその異様な姿に圧倒されていた。

ハイザックのバリエーションには違いない。だが、機体よりも、装着されている火器のほうが目を引き、巨大なビーム・キャノンだ。さらにそのほかでかい火器を取り回すために、脚部にはこれも巨大なブースターが取り付けられている。

「これ、モビルスーツってより、推進器付きの砲門じゃねえか」

カールの声がヘルメット内の通信装置から聞こえてくる。

「ぶつくとさ言うんじゃないの」ヘルメット内にピート・シエルトンの声が響いた。若いメカニックだ。「テスト小隊だろう。威力はばっちりだぜ。へたな戦艦の主題以上の威力がある。レンジも戦艦並だ」「だがな、気をつける」ベテランメカニック、ヘンドリック・ネスの声だ。「ビーム・キャノンの長さや質量がとんでもない慣性を生み出す。自由自在に動き回るといわけにはいかんぞ」

カールが不満げに言った。

「ドッグファイトになったらねらい撃ちだよ」

「急ごう」エリアルドは言った。「出撃命令だ。小回りのきく俺たちがカバーしてやるよ」

## STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 敏

メカデザイン：藤岡建機

キャラクターデザイン：齋藤卓也

マーキングデザイン：藤岡建機&ベッパーストップ

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

©創造エージェンシー・サンライズ



電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

# ADVANCE OF Ζ

ティターンズの旗のもとに

## 宇宙の歴史は転換期を迎えていた…

人類が、増えすぎた人口を宇宙に移住させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079。  
地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り、  
地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。  
後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。  
しかし、ジオン軍の残党は各所に潜み連邦に対する抵抗活動を行ったのである。  
U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。  
地球圏の治安維持を図った…。

[www.jpmsmuseum.com](http://www.jpmsmuseum.com)

### ■サイド1 コンベイトウ 30ハンチ間

0085年7月

エリアルドたちマーファイヤー小隊は、バスク・オム大佐の作戦の後方支援を続けていた。戦いの中でカールのジム・スナイパーⅡが破壊していたために、カールは実験用のパイザックTR-2、「ビッグウィグ」に搭乗することになったのだ。

ジオン残党の戦艦がバスク大佐指揮下の封鎖を突破したという知らせがアスワンに入り、マーファイヤー小隊はその迎撃を命じられていた。

「北極星座標、惑星軌道面方位090」

カールの声がエリアルドの乗るジム改のコクピットに響く。エリアルドはレーダーを見たがまだ確認できなかった。カールのビッグウィグは、長距離用の兵器だ。レーダーやセンサー類も広いレンジをカバーする。さらにカールの声が聞こえた。

「単独行動を取る船です」

マーファイヤー隊長の声が響く。

「識別できるか？」

「味方の識別信号は出していない。ザンジバルですね」

「このあいだのやつかもしれない。だとしたら、例のリック・ドムとザクも出てくるぞ」

彼らの動きはたしかに歴戦のバイロッドであることを物語っていた。かつてのジオン軍の名バイロッドだったのだから。

敵にとって不足はない。

エリアルドは思った。強敵であればこそ、叩く価値がある。歴戦の勇者こそティターンズにふさわしい敵だ。

「前を開けてくれ」  
カールが言った。エリアルドは、思わず聞き返した。

「何だって？」  
「ロックオンした。ぶっぱなす」  
エリアルドは驚いた。ジム改のレーダーはまだ何も捉えてはいない。おそらく隊長のヘイズルもそうだろう。

なのに、カールのビッグウィグはもう敵をロックオンしているという。エリアルドはあわてて肩のスラスターを使って横に移動した。隊長機もエリアルド機と逆方向に移動するのが見えた。

次の瞬間、ビッグウィグの巨大なロングレンジ・ビーム・キャノンが火を噴いた。戦艦の主砲から発射されるような高出力のビームが宇宙の間を切り裂き、まっすぐに伸びていく。  
「うひょう……」カールの声が聞こえる。「こいつ、



化け物だぜ……」

エリアルドは、ビームが消え去った星の海を見つめていた。

「当たったのか？」

「いや」カールの声が返ってきた。「サイトに微妙なズレがある」

「急いで調整しろ」マーフィー隊長が言った。「小隊で敵戦艦を落とすとなれば、勲章ものだぞ」

「了解。今度は当てますよ。おっと……」カールは何かに気づいた様子だ。「ちっこい爆点が二つ。おそらくモビルスーツです」

敵との距離は急速に縮まりつつある。エリアルド機のレーダーも敵戦艦を捉えた。もうじき、視

認できるだろう。

「モビルスーツを出すタイミングが早い」マーフィー隊長が言った。「ビーム・キャノンの脅しが効いたようだ。勝機はこちらにあるぞ」

やがて、ザンジバルの姿が肉眼でも確認できるようになった。二機のモビルスーツはやはりリック・ドムとザクだった。

エリアルドは、ビーム・ライフルを撃ちながら前進した。相手を動かし、推進剤を消耗させるためだ。作戦行動時間は推進剤に左右される。行動時間が長ければそれだけこちらが優位に立てる。

「敵モビルスーツ、さらに出てきます」カールの声だ。「さらに三機」

「敵艦を叩け」マーフィー隊長の声。「それでチエックメイトだ」

「了解。チャージにもう少し時間がかかります」

「それまで、俺たちがもたせる」

エリアルドは、ザクが迫るのを見た。敵モビルスーツの数は五機。数では向こうが勝っている。だが、エリアルドには選ばれた兵士という誇りがある。

前回の戦いも圧倒的な不利の状況を切り抜けた。今回だって……

「あれ……」カールの声だったような声が聞こえた。

「あとから出た三機のモビルスーツは、逆方向に進んでいます」

「逆方向……？」マーフィー隊長が言った。「何かあるのか？」

「待ってください、ザンジバルの背後に何かいます……。民間用のシャトルのようです」

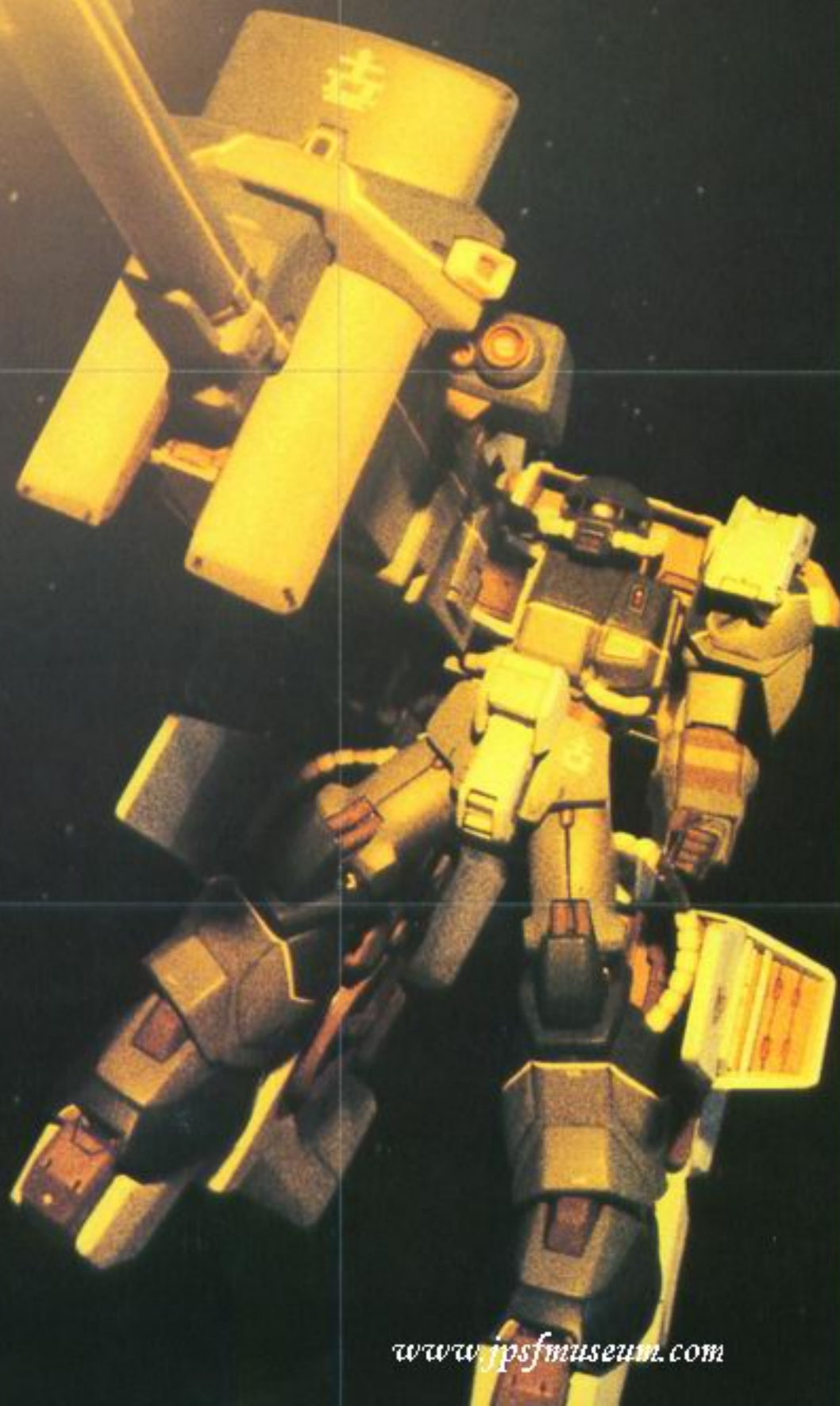
「民間用のシャトルだと？」

「その背後からさらに機影。味方の識別信号です。ジムです」

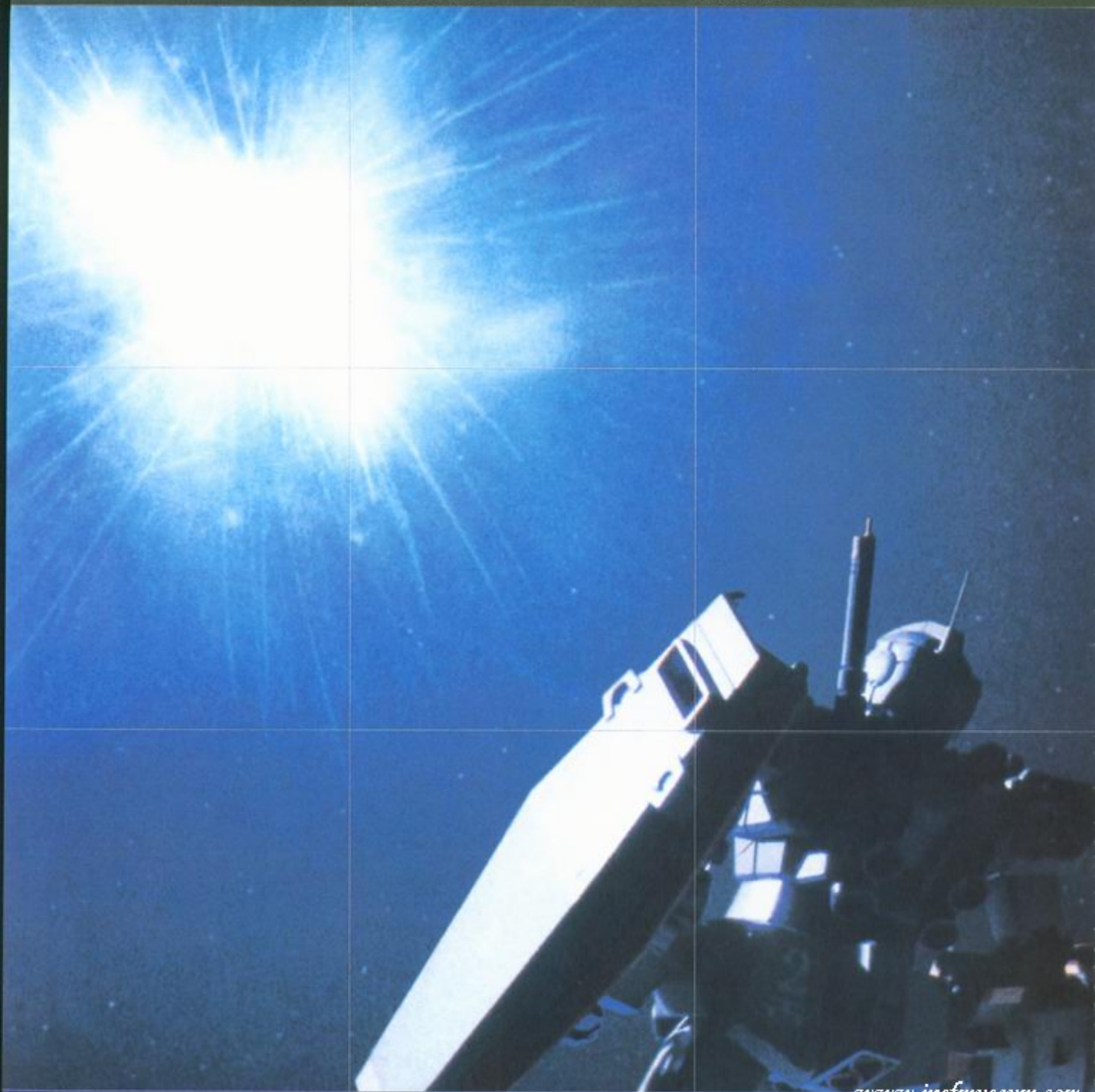
どういふことだ？ エリアルドは困惑した。だが、

敵のザクがすぐそばに迫っている。迷っている時間はない。考えることは隊長に任せよう。エリアルドはさらにビーム・ライフルを撃った。

ザクが回り込む。エリアルドは反転してザクの背後を捉えようとした。強烈なGがかかる。







www.jpssfmuseum.com

「カール、撃つな」マーフイー隊長の声が聞こえた。  
「何かおかしい……」

ザンジバルが迫りつつある。たしかにザンジバルは民間用のシャトルを従えていた。まるで護衛しているように見える。

「今なら、ザンジバルを落とせます」カールの声だ。

「いかん。相手は非武装のシャトルを従えている」

「人質かもしれません」

「ならばなおさらだ。手を出すな」

「しかし……」

「ティターンズの誘いを忘れるな。民間人を決して巻き込んではいけない。ジオン残党のテロリストと同じになりたいのか」

その直後、ザンジバルの背後にいたシャトルが爆発した。

エリアルドは驚いた。

敵のモビルスーツも戦いを忘れたようにその光を見つめていた。

「何だ」マーフイー隊長の声。「誰が撃った？」

「おそろく……」カールが言った。「追撃してきたジムだと思われます」

ザクとリック・ドムは反転した。帰還するようだ。エリアルドは、どうしていいのかわからずマーフイーの指示を待った。だが、マーフイーも何も言わなかった。

目の前をザンジバルが通り過ぎていく。

「いったい、何が起きたんだ。味方のジムは、なぜザンジバルではなく、民間用のシャトルを破壊したのだ？」

清寂が星の海を支配している。戦闘はすでに終わっていた。

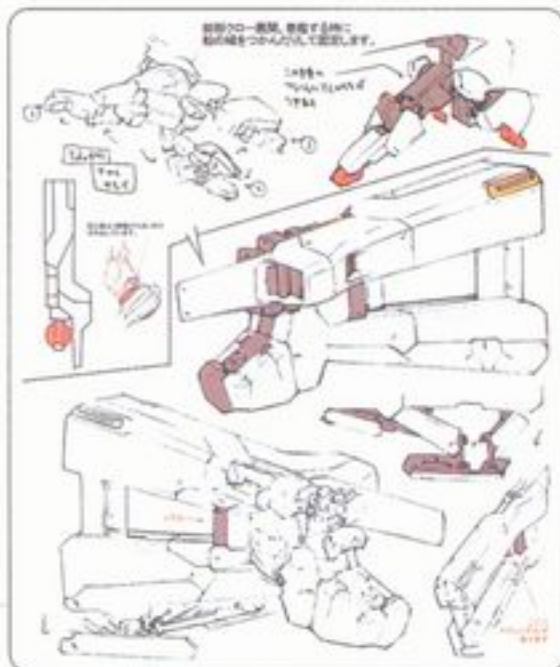
帰還したエリアルドたちは、オットー・ペデルセン大佐から、バスク大佐の作戦が全面的に成功したと伝えられた。

「バスクに礼を言われたよ。よくやってくれた」

ペデルセン大佐は上機嫌だった。だが、エリアルドは、シャトルが爆発したときの戦場での違和感をぬぐい去ることができなかった。

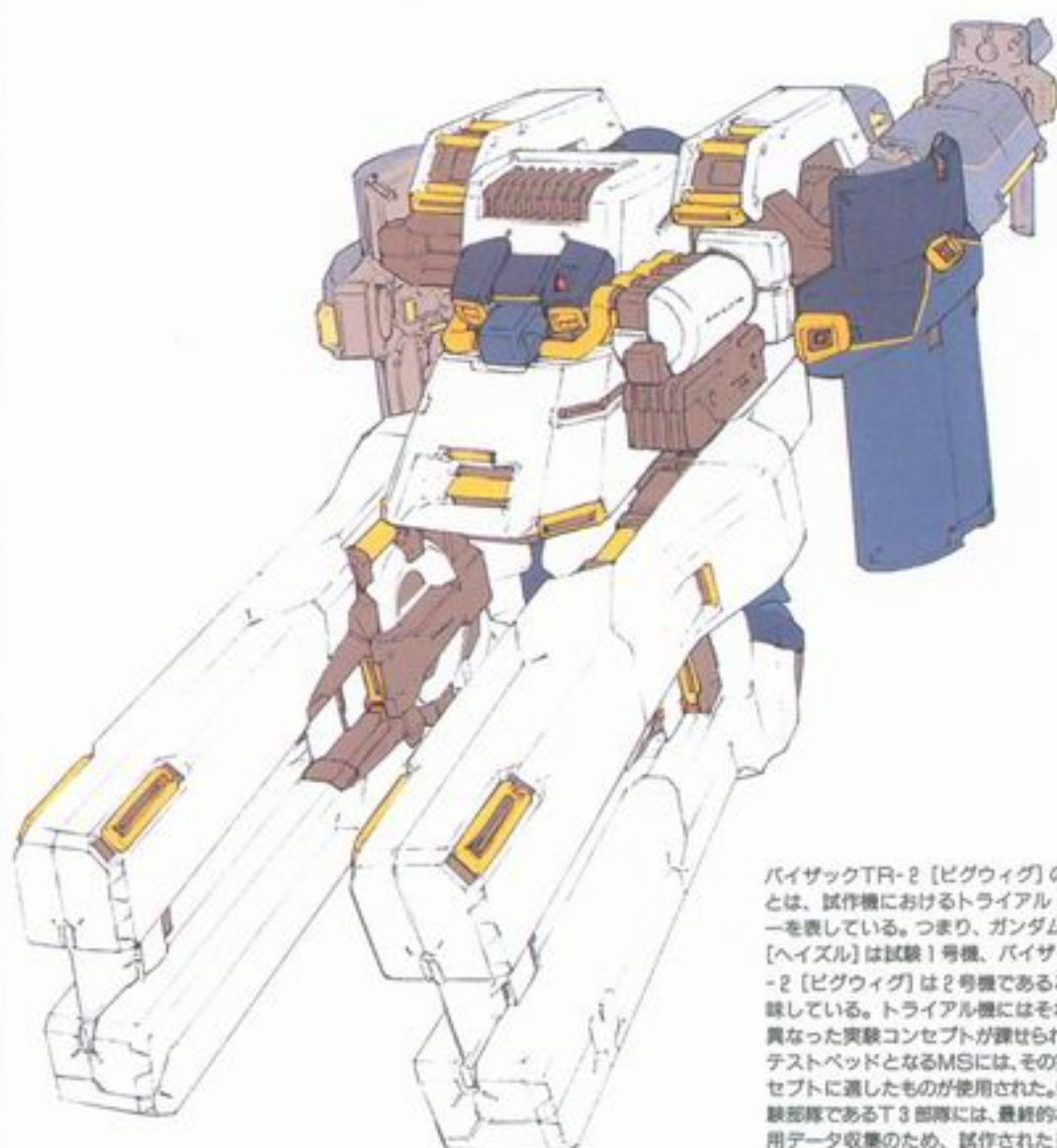
EPISODE  
END





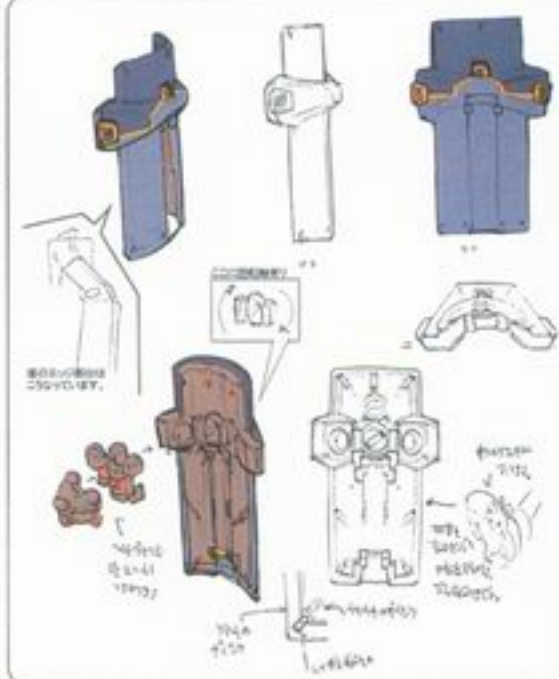
### 脚部ブースター

TR-2のスラスター・ユニット。プロペラントタンクと推進器が一体化したユニットで、機体固定用のクローや着陸用のランディングギアなども内蔵されている。完全に独立したユニットとなっており、別ユニットへの換装も容易に行うことができる。



バイザックTR-2 [ビッグウィグ] の「TR」とは、試作機におけるトライアル・ナンバーを表している。つまり、ガンダムTR-1 [ヘイズル] は試験1号機、バイザックTR-2 [ビッグウィグ] は2号機であることを意味している。トライアル機にはそれぞれに異なる実験コンセプトが課せられており、テストベッドとなるMSには、その実験コンセプトに適したものが使用された。MSの実験部隊であるT3部隊には、最終的な実験運用データ収集のため、試作されたトライアル機が次々と配備されているのだ。

TR-2用に開発された専用シールド。防御用の装備であるが姿勢制御用のバーニアも内蔵されている。左右同一のものであるが、左側のシールドは展開時に機身を過すため中央部分が抜き取られている。



[www.jpmsmuseum.com](http://www.jpmsmuseum.com)

バイザックTR-2は、MSが携帯可能な長射程のビーム・キャノンとそれを輸送する推進器やオペレーションシステムなど、火砲を運用するシステム全体の実用試験のために開発されたもので、そのベースマシンには新鋭機であるYFMS-106ハイザックが使用されている。この機体のベースマシンにハイザックが選ばれたのにはそれなりの訳があった。ハイザックは、それまでの連邦軍量産MSであるジム・シリーズに比べ、部品交換などの簡便化のため機体のユニット化が進んでいた。そのため機体の改造が非常に容易であり、さらに機体外部に露出している動力パイプをつなぎ替えることにより動力(エネルギー)を外部機関に出力することが可能であることなどがTR-2の設計コンセプトに適していたのだ。



# YRMS-106+BL-85X BY-ZACK TR-2 [BIGWIG]

バイザックTR-2  
[ビッグウィグ]

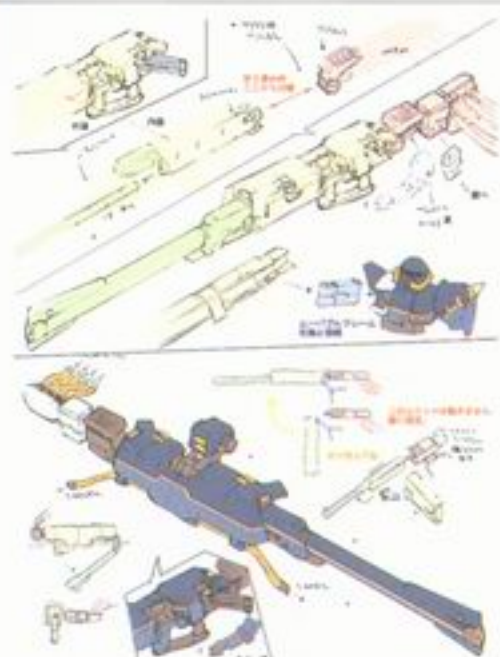
www.jp.sfnmuseum.com



試作型高出力  
ロングレンジ・  
ビーム・キャノン

TR-2に装備されている  
ビーム・キャノンは、  
遠距離狙撃を目的に開  
発されたものである。  
砲身を長くしてメガ粒  
子の収束率を高め、威  
力を損なうことなく高  
精度の射撃を行えるよ  
うにしている。

Prototype  
High-Power  
Long Range  
Beam  
Cannon





パーフェクトグレードクォリティーで  
「ハイエンド版ヘイズル」を作る。







## RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL]

BANDAI 1/60 scale plastic kit "PERFECT GRADE"

RX-78-2 GUNDAM

modeled by Yasuhiro Imai

読者に高い人気を誇るガンダムTR-1「ヘイズル」。

マーフィー小隊隊長機であるこのヘイズルを

2代目ガンダム王こと今井康博が1/60スケールで立体化。

その大きさを活かして、「ハイエンド版」とでもいうべき最終決定稿(画：藤岡建機)に描かれた  
緻密なディテールの再現にも挑戦した。

[www.jpshfmuseum.com](http://www.jpshfmuseum.com)





#### 頭部ユニット

いわゆるガンダムヘッド。単に性能が高いというだけでなくガンダムタイプが敵味方に与える効果を調査するという目的もあったようだ。最終形態時の進行方向である頭頂部の視界を確保するための実験的な装備として、センサーブロック天面にもカメラユニットが装備されている。



#### 胸部

外見上はジム・クウェルと大差のないものになっているが、試験運用機としての特性から、機体各所に数多くのセンサーが設けられ、戦闘時の負荷を含めた様々なデータを常時収集している。



#### 脚部強化スラスタ

プロペラントと推進用スラスタを兼ねたブロック。一見すると増加装甲のようにも見えるが、通常の装甲にさらに外装を加えるタイプではなく、専用の設備のもとでユニットごとに換装を行わなければならないもの。もちろん、T3部隊の母艦であるアレキサンドリア級アスワンには非常時を想定した予備パーツも用意されている。



RX-121 GUNDAM  
TR-1 [HAZEL]



# RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL]



肩アーマー

単に肩関節を防御するだけのものではなく、上部にスラスタ・ノズルブロックを装備したものだ。ベース機となっているジム・クウエルのものでそのまま使用されている。



強化バックパック

背面は実験装備である強化バックパックに換装されている。さらに上面にジョイントされたブースター・ポッドはベクターズラスタとして高い運動性を与えている。

腰アーマー

股関節周辺を保護する目的の腰アーマーは基本的にはジム・クウエルと同様のものだが、リア・アーマーには推進力向上を目的としたガンダムNT-1のアーマーを改良したものが装備されている。



足首

足首はジム・クウエルのものでが関節部を防御するアングルサポートユニットはより大型化したものが装備された。また、ソール下面には宇宙での活動を前提としたバーニアノズルが設けられている。

www.jpssfmuseum.com



## マーキングバリエーション



小隊マークであるウサギをモチーフにしたマーフィー隊長のパーソナルマーク。飛行帽を被ったこの青ウサギ以外に、鉄カブトを被って銃を持った白ウサギも確認されている。



ヘイズルの左肩に記されたマークはウェス・マーフィー率いる小隊の部隊章。マーフィー自身がウサギ好きであることに由来する。またイエローストライプはT3部隊のチームカラーになっている。

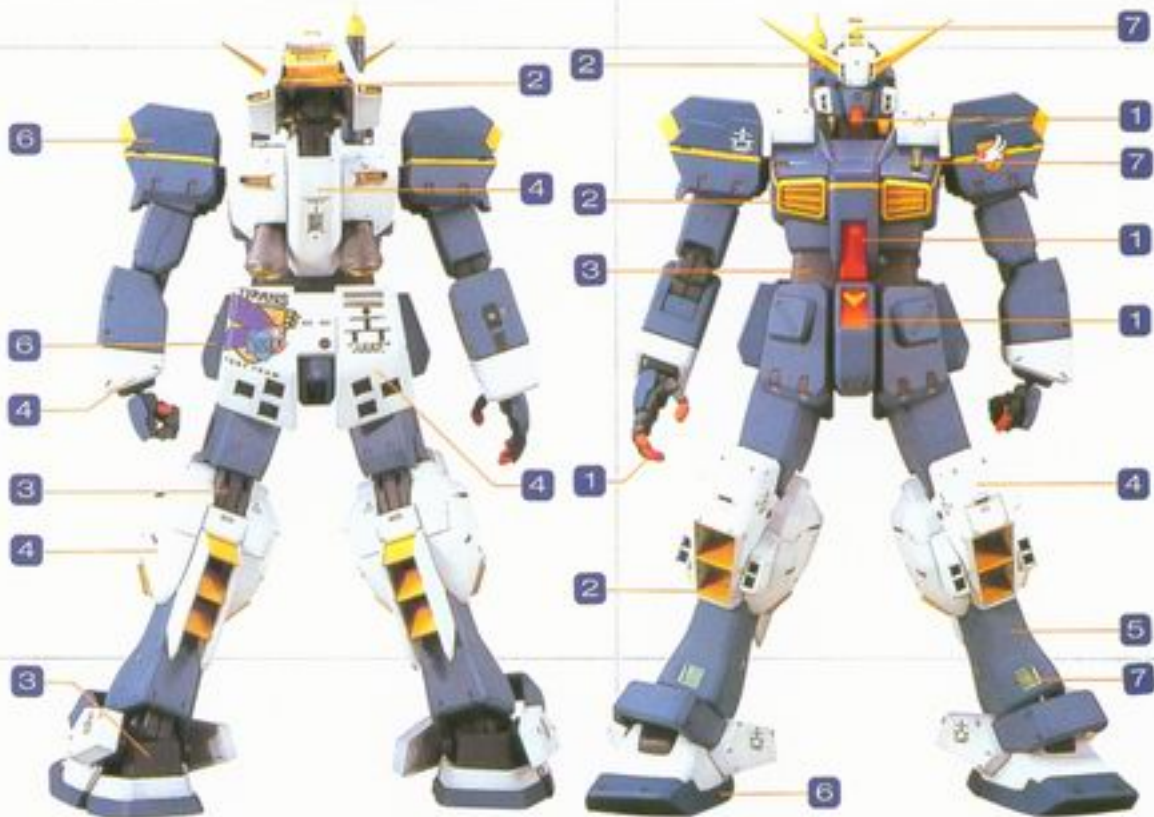


T3部隊を示す部隊章「Titans Test Team」を示すもの。その上にある●は1号機(隊長機)を示している。2号機は縦に2個、3号機は三角状に●が3個記される。

## カラーリングデータ



- ①赤…68番・モンザレッド：80%+58番・黄褐色：15%+1番・ホワイト：5%
- ②黄…58番・黄褐色：70%+172番・蛍光イエロー：20%+1番・ホワイト：10%
- ③グレー…40番・ジャーマングレー：40%+37番・RL M75グレー：40%+68番・モンザレッド：20%
- ④白…〔下地〕35番・明灰白色：40%+1番・ホワイト：60%。〔基本色〕明灰白色：20%+ホワイト：80%。〔ハイライト〕明灰白色：10%+ホワイト：90%
- ⑤青(淡)…〔基本色〕72番・ミディアムブルー90%+68番・モンザレッド：10%
- ⑥青(濃)…〔基本色〕5番・ブルー：50%+322番・フタロシアニンブルー：50%
- ⑦センサー…175番・蛍光グリーン：70%+1番・ホワイト：30%



すべてGSIクレオス「Mr.カラー」を使用。

www.jpssfmuseum.com

①②全身のベースとなっているのはPGの中でもジム・クウエルにもっとも形状に近いPGガンダム。腕やダクトなどにはPGガンダムMK-IIを使用しているのわかる。③④脚部もPGガンダムがベースになっているのだが、ヒザまわりに強化スラスタを追加するなど、全体に手を加えた結果、外見上でキットの面影を残すところはなくなっている。スネは全体で8ミリ延長されている。⑤頭部はキットをゲージにしながらかぼスラッチ。設定画の3面図をイメージソースとして製作した。⑥PGガンダムをベースにダクトやコックピットハッチをMK-IIから流用。両肩のホールディング・グリップはプラ板ベースのスラッチ。この段階で細かなディテールが加えられているのわかる。⑦⑧ブースターポッドと強化バックパックは当然スラッチ。接続アームにはMGの関節パーツなどを使って強度を上げてある。





## RX-121 ガンダム TR-1 "ヘイズル"

バンダイ 1/60スケールプラスチックキット

"パーフェクトグレード" RX-78-2 ガンダム改造  
製作・文：今井康博

## ■頭部

全体にPGガンダムよりもひとまわり小さく製作。ガンダムの頭部フレームにポリバテを盛って形状を出しています。頬当てはガンダムのものを加工。各部のダクトはプラ材から製作しました。マスクはガンダムのものをポリバテで修整。トサカはプラ板で製作し、カメラ部分を透明プラ板にしてみました。アンテナはガンダムのものの長さを変更したものです。

## ■胴体

ベースはガンダム。首を3ミリ延長し、エリはそのまま使用。両肩のホールディング・グリップ収納器は基部をプラ板で、グリップ自体をエバーグリーン社のプラパイプで製作。胸部は腹部との間で8ミリほど幅詰めし、ポリバテで形状変更した上から0.5ミリプラ板を貼っています。ダクトとコクピットハッチはPGガンダムMk-II(以下Mk-II)から。ハッチの開閉は省略し、ポリバテで形状変更して取り付けました。

## ■腰部

フロントアーマーはガンダムのものを延長、ヘリウムコアにモールドを追加しました。サイドアーマーはMk-IIのものをプラ板とポリバテで加工。リアアーマーはMGのNT-1を参考にプラ板で製作。各ノズルには市販パーツを使用しています。

## ■脚部

ガンダムから改造。太ももはジム・クウエルを参考に形状を変更してから複製。

ヒザ前面はプラ板の箱組みで、フクラハギ左右のブロックはプラ板とポリバテから製作。後方のフィンもプラ板製です。全体を各種プラ材でディテールアップしてから複製。スネの装甲はガンダムのものを形状変更後に複製したものです。

足首はガンダムのものを元に形状変更して複製。アングルサポートユニットは白い部分をプラ板の箱組みで製作。前面装甲はガンダムから流用。足首フレームとの接続はボールジョイントで行っています。

## ■腕部

Mk-IIから製作。キットの肩にプラ板とポリバテで作ったアーマーを複製して固定。前腕は可動に支障がでない程度にプラ板で形状変更しました。

## ■バックパック

ブースターポッドおよびバックパックは基本的にはプラ板の箱組みとポリバテで製作。ポッドの接続アームは各種MGのパーツを組み合わせたものです。

## ■武器

Mk-IIのビーム・ライフルの先端をカットし、市販パーツで銃口を製作して再現。

## ■PROFILE

いまい・やすひろ…2代目ガンブラ王。過剰なまでのディテール表現を得意とする。近況/今回は徹夜の連続記録をめでたく更新。でも表紙モデルと聞いてその疲れもぶっ飛びました。現在、過去の私の作例をボークス神戸SRに展示してもらっていますので、お近くの方はぜひ見に行ってください。[リック・ドム]



ブースターポッド

ブースターポッドの上面にはシールド・ブースターをマウントするラッチが設けられている。シールド・ブースターを装着したままポッド本体を90度起こすことで、さらに機動力を上げられるようになっている。さらに両腕のシールド・ブースターの進行方向を合わせれば、モビルアーマー並みの高速移動が可能。



マニピュレーター

戦況に応じて各種携行武器を使用するほか、時には人間以上の機能によって様々な作業をこなすマニピュレーター先端にはデータ収集のためのセンサーも内蔵されている。



ホールディング・グリップブロック

両肩に装備されているブロックには、高速移動形態の際にシールドと接続された腕を安定させるためのグリップが収納されている。展開したグリップを握ることで腕を固定するのである。



Eバックホルダー

T3部隊が試験的に使用しているEバック対応型ビーム・ライフルのためのEバックホルダー。1号機のは2、3号機のものとはカラーリングが異なっている。



ビーム・ライフル

後にガンダムMk-IIが使用するビーム・ライフルと同型のショート・バレルタイプ。T3部隊が試験的に使用しているEバック対応型。マーフィーは両手にそれぞれ1門ずつ装備して戦うことが多いようだ。

① 足首の関節ブロックはPGガンダムMk-IIのものを流用。胴体への接続は後を合わせるためにプラ板に変更。

② 上腕からヒザ関節にかけてはPGガンダムMk-IIのものを流用。前腕はデザイン画に形状を合わせて外装の形状を変更。それに合わせて内部フレームも加工した。

③ 腰アーマーはキットをベースに加工しており、キット同様可動。特徴的なリアアーマーだけはプラ板でスクラッチした。

④ 脚部ブロックはフレームと装甲を写真のように分割したものを用意して左右をそろえた。⑤ 足首は甲やつま先の形状を設定画のとおりに変更。それを複製して左右を用意した。

⑥ アングルサポートユニットは左右のブロックをスクラッチ。前面装甲はガンダムのパーツをゲージに裏側にもディテールを追加した。脚への接続はボールジョイントを使用。











## RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL]

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"MASTER GRADE"  
RGM-79Q GM QUEL  
modeled by Toshio Iwata/Mitsuaki Misaki/Nobuyuki Sakurai  
painted by Toshio Iwata





T3部隊のマーフィー小隊の隊長機として使用されているガンダムTR-1【ヘイズル】は、RGM-79 Qジム・クウエルに各種増加オプションを装備した機体である。作例ではその設定にあわせて“マスターグレード”ジム・クウエルから改造。増加パーツはほぼ新造となることもあり、製作期間を短縮しつつ各パーツの精度を上げるため、実際の製作作業を3パートに分担。頭部、バックパック+ブースターバックを含む上半身を岩田トシオ、強化スラスターメインの脚部を坪光彰、シールド2基を桜井信之が担当。仕上げの塗装は岩田トシオが行った。

## RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL]





# RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL]



ソール・スラスタノズル

宇宙空間での活動を基本とするティターンズの機体の多くはソール下面にパーニアノズルが設けられていることも多い。これはRGM-79Qジム・クウエルがベースとなった“ヘイズル”も同様である。



足首

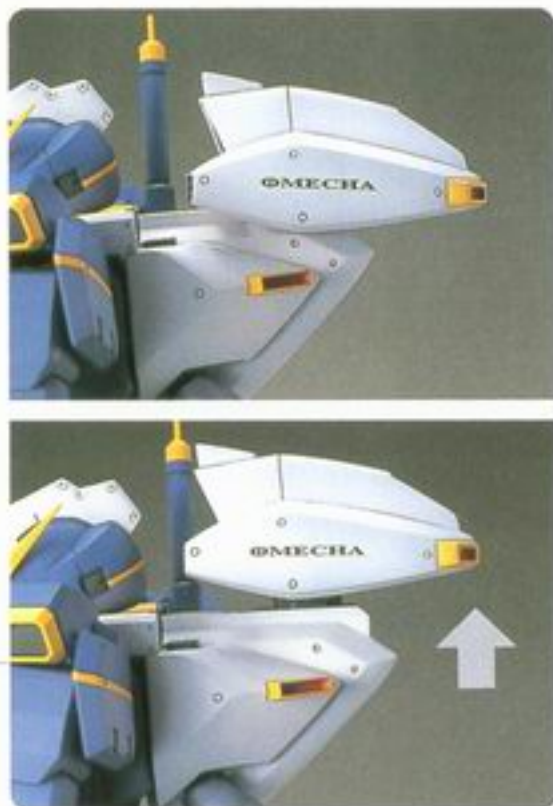
足首のユニットにはRGM-79Qジム・クウエルのものと同型だが、関節部を防護するアングルサポートユニットにはより大型化したものが装備されており、防衛性の向上が図られている。



①② こうして見るとジム・クウエルがベースになっているのがよくわかる。脚部は右脚が原型、左脚にはその複製が使用されている。  
③④ 写真は外装に複製パーツを使用した脚部。太もも関節に回転軸が追加されるなど、手の加えられていない場所はひとつもない。







### ブースター・ポッド

強化バック・バックに取り付けられた可動式ブースター・ポッド。AMBACユニットやベクタード・スラスターとして機能する。ポッド後部中央の溝にはオプション・パーツのジョイント機構がある。



### カラーリングデータ



- ①青(濃)・・・#23・ブルー+#1・ホワイト
- ②青・・・#11・グレー+ブルー+ホワイト
- ③グレー・・・#37・RLM75グレーバイオレット+ #40・ジャーマングレー
- ④赤・・・「タンバインカラー・オーラレッド」+ ホワイト
- ⑤黄・・・#58・黄褐色+ホワイト
- ⑥白・・・ホワイト+ #35・明灰白色：少量
- ※青(濃)、青、白はさらに白を加えて明度を上げた色でハイライトを入れている。
- ※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」





# RX-121 ガンダムTR-1 "ヘイズル"

バンダイ 1/100スケールプラスチックキット  
"マスターグレード"  
RGM-79Q ジム・クゥエル改造

上半身製作・塗装・文: 岩田トシオ

今回はワケありで、輝さん、桜井さんとの共同製作です。ボクは頭から腰までと、塗装を担当しました。

## ■頭

一番重要なパーツなのでとても気を使いました。ボクがいただいたイラストでは、絵によってイメージが違っていたので、上半身アップの俯瞰のイラストをメインイメージソースとして製作をしています。マスク部はMGゴッドガンダムのものを流用して削り込んでいます。カメラ(目)部は削って作り直しました。ヘルメットはGP01のものを加工。トサカはポリバテです。

## ■胴体

基本的にジム・クゥエルのキットのままです。肩のブロックはアレックスのチョバム・アーマーから流用しましたが、そのままではアームバーのストロークが確保できないので、後方に延長しています。

## ■腰部

リアの増加装甲はアレックスのアーマー。ただし、そのまま取り付けただけでは内側のリアアーマーが太モモに当たってしまい、「立ち」が決まらなくなるので、クゥエルのリアアーマーの可動をなくして増加装甲内に押し込んでいます。

## ■腕

ここもジム・クゥエルのキットのまま。手首のみ日クラブの「ハイディールマニピュレーター」を使用。

## ■バックパック

ラフ面稿を基に製作したため、最終イラストとは全然違っているかもしれません。軽量化のため、基本型をプラ板で作り、ポリバテで面をアールをつけています。上部ボットの可動は流用パーツで製作。

## ■武器

ガンダムMk-IIのビーム・ライフルをショートバレルに改造。

今回のようなスクラッチ作業でいつもありがたく思うのが、各社から出ているディテールアップパーツ。特にコトブキヤさんのものは種類が多い上に汎用性も高く、価格も安いのでオススメです。

## ■色について

今回はあれこれ考える時間もなくて、いつもの塗りで申し訳ないのですが…。藤岡氏のイラストのカラーリングはボクのようなツヤ消しパステル塗りよりも、カーモデルのようなピカピカの塗装のほうが似合うような気がします。難易度高めですが、機会があればチャレンジしてみたいですね。では輝さん、続きをよろしく。



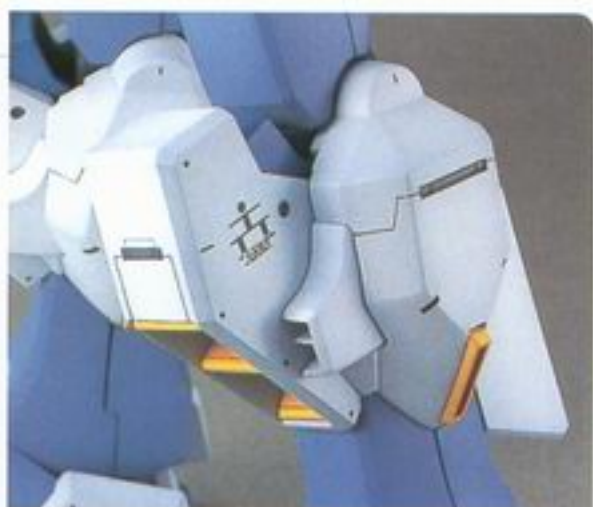
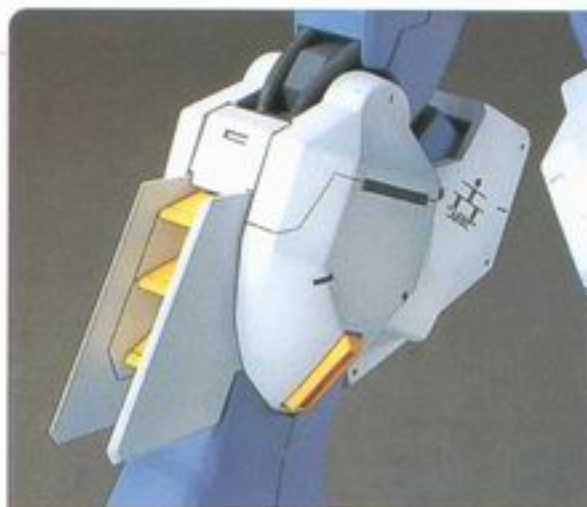
ヒザ関節の可動

脚部スラスタブロックはデザインどおりに立体化するとヒザ関節が曲がらなくなるため、ヒザ裏装甲を外して90度近く曲げられるようになっている。



太モモの改修

基本的にはジム・クゥエルのキットをそのまま使用。可動範囲拡大のための股関節回転軸を追加したのみ。



脚部強化スラスタ

プロペラントと推進用スラスタを兼ねたブロック。一見するとRXタイプで実験的装備として研究が進められてきた増加装甲に見えるが、通常の装甲にさらに外装を加えるタイプではなく、専用の設備のもとでユニットごとに換装を行う必要がある。輝光氏が担当したこのブロックは塗装の便を考えた結果、内部フレームを含めて80パーツを超える分割となっている。

## ■PROFILE

いわた・としお…近況/先月号のEDITORS'S NOTEを見て、HSに物語をなくす方法を探ねたら、「衝動買いをしないのが秘訣」とのこと。で、「食玩は一期一会」が信条のボクにはとてもムリな方法でした。残念。[ドム]

⑦ 足首の形状はデザインどおりジム・クゥエルの設定に合わせた平らな形状に変更。つま先とカカトを分割し可動するようにした。

⑧ 足首関節は三重関節に変更することで、デザインのままでは大きく干渉するという問題を解消、高い接地性を確保している。

⑨ 足首アーマーは干渉をふせぐために左右で幅増し。両サイドのアンクルサポートユニットはプラ板製のパーツを自作・複製して使用。

⑩ 白い外装部はプラ板の箱組みを基本工作として製作。一見すると左右共通に見えるフクラハギ部は干渉を避けるため、内側をひとまわり小型化して製作。ほとんどのパーツは塗装後に接着できるように考えられている。

⑪ 外装で使用するものはわずかにこれだけ。そのパーツですら、全体のバランスを調整するために形状その他が大きく変更されている。

⑫ 脚部フレームは太モモ側に回転軸を追加。スネは全体で2ミリ延長しているが、足首が薄くなったことで全高は変化していない。





## RX-121 ガンダムTR-1 "ヘイズル"

バンダイ1/100スケールプラスチックキット  
"マスターグレード" RGM-79Q ジム・クゥエル改造  
脚部製作・文: 輝光彰

今回はDHM2002年1月号の胸像以来久々の岩田、桜井、空山氏との共作。僕の担当はガンダム、ジム改のEバックとガンダムの下半身。

さてこのガンダム、設定的にはジム・クゥエルにガンダム頭を載せた改良機なので、当然ベースキットはMGのジム・クゥエルを使用しています。…が// 設定画を見ておわかりのように、MGのジム・クゥエルがガンダムNT-1からの流れを汲んだリファインでMGシリーズ独自の世界観を演出しているのに対し、このAOZ「ガンダム」もデザイナー藤岡建機氏独自のMS観でリファインされたジム・クゥエルが基になっているため、キットと設定画双方に共通点はほとんどなく、結果スネから下はほぼスクラッチ。プラ板とパテで原型を作り複製、再加工を繰り返しながら両脚のパーツを揃えました。

岩田さんが塗装を担当されるので面倒なマスキングの手間を省いておいたほうがいだろうと、色やブロックごとにパーツ分割した「やさしさモデリング」のほすが、気が付けば両脚でパーツ数が80を超え、かえって岩田さんの仕事を増やすために…。

EバックはガンダムMk-IIのパーツから改造。ホルダーはプラ板で原型を作って複製、再加工したものを空山氏と岩田氏に供給。複製の工程をP.84からの「すくすくスクラッチ」で紹介していますので、そちらもヨロシク。

ということで桜井総統改めバキューム桜井氏にバトンタッチ。

■シールド製作・文: 桜井信之

当初、この大型シールドを保持したまま本体を自立させるため、できる限り軽量化すべくバキュームフォームでの製作を依頼されたのですが、バキュームフォームを前提とした原型を製作するにはあまりに時間が足りないもので、いつものようにエポキシパテで原型を製作です。本体を2パーツで構成し、形状が出た時点で内部をモーターツールで極限まで薄く削り中空で製作。さらにレジンに反転し軽量化しています。この方法でもエポキシパテ原型に比べ半分近くまでは軽量化する事は可能です。実重量は原型の3/5といったところでしょうか。また、L字型のジョイントはレジンパーツでは強度に不安があるので、2ミリのシンチュウ線2本を芯にパテで製作。



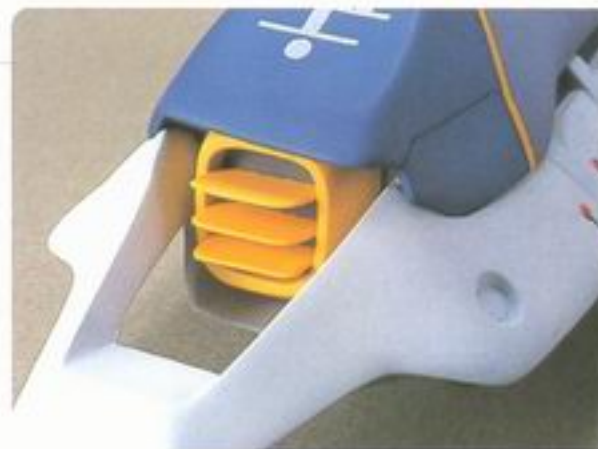
ビーム・ライフル

1後にRX-178が使用するビーム・ライフルと同型のショートバレルタイプ。MSの運用としては珍しく、両手にそれぞれ1門ずつ装備するのがウェスのスタイルらしい。



Eバックホルダー

1 T3部隊が試験的に使用しているEバック対応型ビーム・ライフルのためのEバックホルダー。1号機のは2、3号機のものとはカラーリングが異なっている。



シールド・ブースター

通常のものに比べ、格段に厚みがあるこのシールドの内部には、プロペラントタンクとスラスターユニットが内装されている。低可燃性のプロペラント（推進剤）を使用しているため、被弾しても誘爆の危険は少ない。

## マーキング



B 小隊マークであるウサギをアレンジしたウェスのパーソナルマーク。飛行機を被っているのはヘイズルのアーマーを模したためらしい。



A T3部隊を示す部隊章「Titans Test Team」を示すもので、上にある●は1号機(隊長機)を示している。

## ■PROFILE

みさき・みつあき…近況/最近なぜか連邦系の作例が続いています。このままだと、連邦系モデラーの肩書きが付きそうです。爪の生えた茶色いドラえもんが作りたいなあ…。[フルアーマー・ガンダム] さくらい・のぶゆき…近況/先日会社の女子社員から電話があり「実家の倉庫を整理していたらイデオアルタという超合金が出てきたんですけど、どうしたらいいですか?」そこで僕は「イデオバスタとノバもあるはずだから探そうよ」と指示。こんな課長と部下、どう思います? (笑) [フルアーマーガンダムらしい…]

①-③ 強化型バックパック&ブースターポッドは、できるだけ重量を軽減するためにプラ板の箱組みを基準にポリパテによる形状修整を繰り返して完成させたもの。  
④ ブースター・ポッドの可動軸にはHGヘビーメタルシリーズのエルガイムのヒザ関節を使用した。  
⑤ Eバックは輝光彰が製作。ガンダムTR-1用のもの以外に、次のページに掲載されているジム改SR(製作:空山竜司)用のものもあわせて複製したものを使用。  
⑥ 桜井信之によって製作されたシールド・ブースター。迫力を出すため大型化と同様に装備するための軽量化を両立させる必要があり、最終的にはパーツの複製で2基製作した。





# 「サイド1は、反地球連邦政府運動の拠点だ。 反乱分子がジオン残党と手を結んでいるという 情報もある。心してかかれ」

人類が、増えすぎた人口を宇宙に移住させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079

地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公園を名乗り  
地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった  
しかし、ジオン軍の残党は各所に潜み連邦に対する抵抗活動を行ったのである

U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。地球圏の治安維持を図った…



www.jp.sfmuseum.com

## EPISODE 2.0

### STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇  
ストーリー：今野 敏  
メカデザイン：藤岡建機  
キャラクターデザイン：斎藤卓也  
マーキングデザイン：藤岡建機&ベッパーストック  
設定協力：片岡大輔  
企画：電撃ホビーマガジン編集部  
企画協力・設定：サンライズ

© 創通エージェンシー・サンライズ

■月からサイド1への軌道上 0083年7月  
「推進剤は極力使わない。生命維持装置もセーブモードだ」  
コクピット内に、マーフィー小隊長の声が響く。  
出撃前の最終チェックの最中だ。エリアルド・ハ  
ンターは、思わず苦笑していた。  
子供の遠足じゃないんだ。  
小隊長は、まだエリアルドやカールのことを予  
供扱いしている。こんな通信は戦艦内の他のクル  
ーには聞かれたくなかった。それでなくても、マ  
ーフィー小隊長の「ウサギマーク」は、酒の入った  
クルーたちの笑い話の種にされる。  
今回のマーフィー小隊長の任務は、月の周囲軌道  
からサイド1に向かう輸送艦の護衛だった。エリ  
アルドは、フリーフィングでのオットー・ペデル  
セン大佐の言葉を思い出していた。  
「サイド1は、反地球連邦政府運動の拠点だ。反  
乱分子がジオン残党と手を結んでいるという情報  
もある。心してかかれ」  
オットー・ペデルセン大佐は、アスワンを中心  
とするコンベイトウ防衛部隊の司令官だ。  
「十分後に輸送艦が加速する。出るぞ」  
マーフィー小隊長の声が聞こえる。カタバルト  
から出撃する小隊長機カントムTR-1の姿がモニ  
ターに映し出される。アーマーを全身に装着して  
いた。小隊長は、TR-1のことを「ヘイズル」と  
呼んでいる。今回はフルアーマー・タイプのヘイ  
ズルの機動性テストを兼ねていた。









DHM2002年9月号に掲載された第1話に登場したヘイズルは、  
実は軽装状態であり今回のアーモア装着型が基本兵装となっている。  
ただし、今回の物語からもわかるようにマーフィーにとっては  
機動力を損なうデッドウェイトだと感じられたようだ。  
このヘイズルの増加アーモアパーツを岩田トシオが製作。  
設定上、RX-78NT-1アレックスと同様のシステムということになっているため、  
マスターグレード「ガンダムNT-1」の  
チョバムアーモアをベースに製作を行っている。

RX-121  
GUNDAM TR-1  
[HAZEL]





ビーム・サーベル

通常ガンダムタイプといえばビーム・サーベル2本装備が伝統であるが、ヘイズルはジム・クウエルをベース機として開発されているため、バックパック部のビーム・サーベル用エネルギー供給デバイスが1系統しか存在せず、1本のみを装備となっている。装備位置が「右手側」にあるのもジム・クウエルをベースにしているなごりである。

## カラーリングデータ

- ①青(濃)……ガンダムカラー・ブルー(23)+ガンダムカラー・ホワイト(1)
  - ②青……ガンダムカラー・グレー(11)+ブルー(23)+ホワイト(1)
  - ③グレー……#37・RLM75グレーバイオレット+ #40・ジャーマングレー
  - ④赤……「ダンバインカラー・オーラレッド1」+ガンダムカラー・ホワイト(1)
  - ⑤黄……#58・黄橙色+ガンダムカラー・ホワイト(1)
  - ⑥白……#1・ホワイト+ #35・明灰白色：少量
- すべてGSIクレオス「Mr.カラー」と「ガンダムカラー」

※青(濃)と青、白の3色についてはさらにホワイトを加えた色を混ぜ、ハイライト色として使用している。



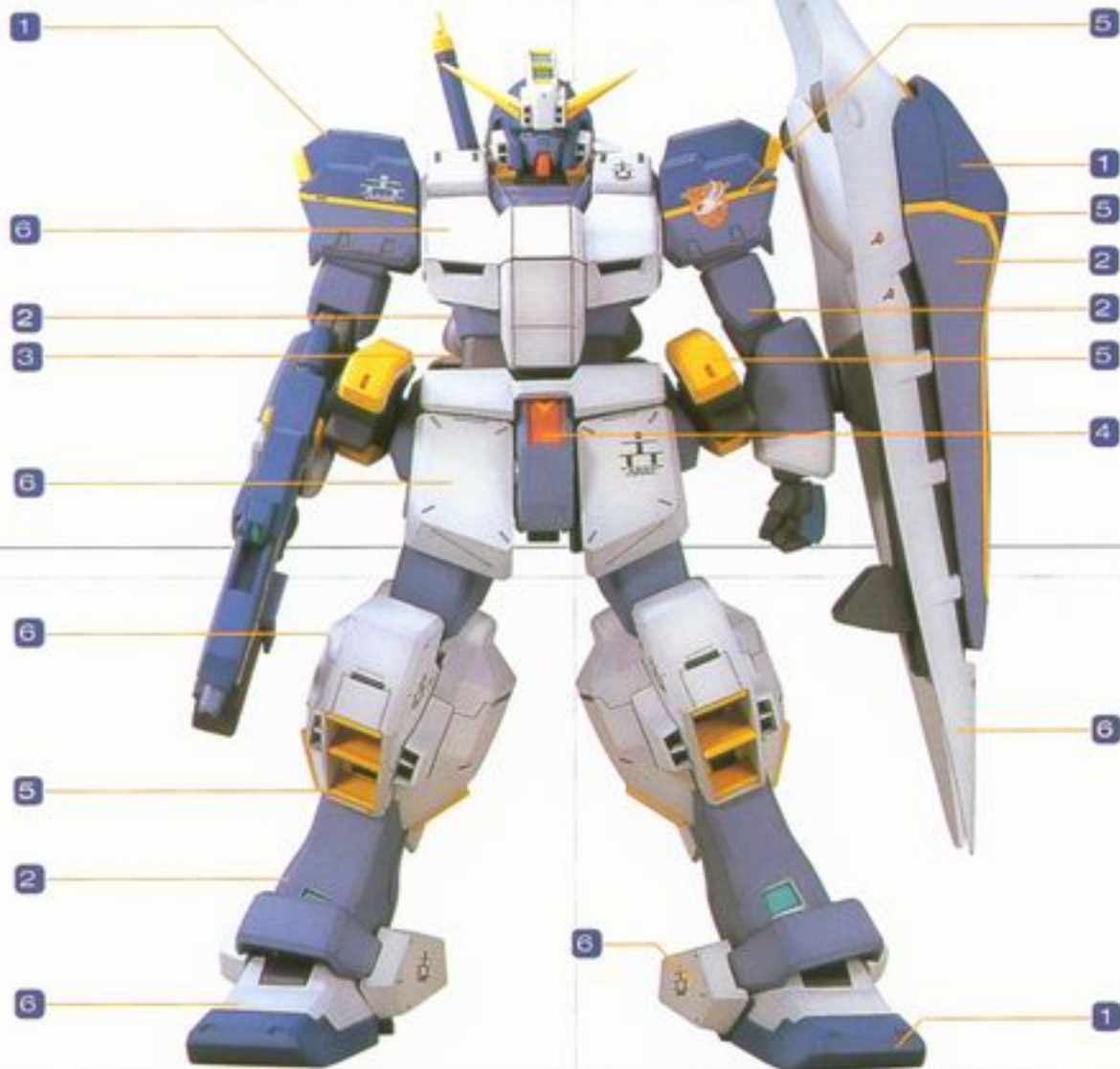
腰部増加装甲

腰部の増加装甲。大腿部と股関節を保護するスカートアーマーを増加装甲でさらに強固にしている。ただし、この増加装甲により脚部の可動範囲がいちじるしく制限されるため、AMBACKによる機動も低下する。



胸部増加装甲

胸部の増加装甲。ジェネレーターなど動力装置が存在する胴体胸部とコックピットを完全に保護している。装甲の薄いエア・インテークもしっかりと装甲で覆われているのがわかる。



- ①今回の作業は胸部と腰部の増加装甲追加のみだが、両肩に設けられたユニットとのつながりなどによって本体とのすりあわせに時間がかかっている。また、ヘイズルの左胸に存在するセンサーは胸部装甲と干渉してしまうため、作例では増加装甲装着用にセンサーを閉った胸部前面パーツを用意して差し替え対応とした。
- ②胸部増加装甲はコックピットハッチごと本体と差し替える方式を採用。こうすることで増加装甲をしっかりと保持できるうえ、ヘイズル本体の塗装を傷つけないようにできるわけだ。
- ③増加フロントアーマーはNT-1のチョバムアーマーのままでは短すぎるため、装甲部で大幅に延長。基部は設定にあわせてノズルのディテールを埋めてある。
- ④増加フロントアーマーはNT-1のようにノーマル装甲に被せるのではなく、換装する設定なので裏側をプラ板で埋めて厚みを表現。脚の動きを防げないよう、基部との接続に可動軸を設けている。ヘイズル本体への接続はセンターアーマーごと差し替える方式を採用した。



ヘイズル用シールド・ブースターを  
「ハイエンド版」で作る。



## RX-121 GUNDAM TR-1 [HAZEL] FINAL FORM

BANDAI 1/100 scale plastic kit "MASTER GRADE"  
RGM-79Q GM QUEL

modeled by Toshio Iwata, Mitsuaki Misaki and Nobuyuki Sakurai

31ページで遂に最終形態を披露したガンダムTR-1「ヘイズル」。

両腕とブースターポッドにシールド・ブースターを装着、  
その推力を一定方向に揃えることでMA並みの加速力が得られるようになっている。  
この最終形態を再現するため、藤岡建機によって新たに描き直された  
「ハイエンド版」シールド・ブースターを峠光彰が製作。  
軽量化を図るためすべてプラ板によってスクラッチされている。  
なお、製作の詳細はP.62からの「すくすくスクラッチ」を参照してほしい。



## RX-121 ガンダム TR-1 "ヘイズル" 用シールド・ブースター 1/100スケールスクラッチビルド

製作・文：神光彰

今回はシールド・ブースターの「ハイエンド版」を製作しました。以前、桜井総統が製作したものは準備稿を基にしていたのですが、先月号で発表されたハイエンド版や各イラストを見ると準備稿とはフォルム、ディテールとも大きく変化しているので、今回「すくすく」で新たに作ることにしたわけでした。

82ページからの「すくすく」でも紹介していますが、基本的にはプラ板と瞬間接着剤で製作してあります。

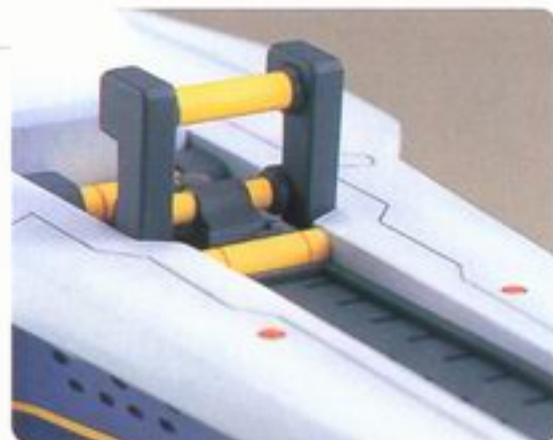
重力圏内では(笑)かなり関節に負担のかかるポリウムなので「できるだけ軽く」を目標にした結果、完成品の重量は31グラムまで抑えられました。

全体のフォルムは2002年9月号18ページのイラストをイメージ。ポリウム感はやや抑え気味にして流線形にまとめてみましたが、どうでしょうか？

各部の丸ディテールはウェーブの新製品「Oボルト2」を使用。側面の楕円モールドは泣きながら20時間かけて彫っています。

### シールド・ブースター

防御用の携行式装甲としてのシールドに補助推進装置としてのプロペラントタンクとスラスターを内蔵した装置。U.C.0080年代後半には、ミサイル射出用プラットフォームとしての機能をはじめ、それぞれの機体特性に合わせた多機能シールドが普及していった。その背景にはビーム兵器がMSの装備として標準化し、シールド防御はあくまでも最終的な手段であるとの考え方が主流となったことが挙げられる。そのため、グリップス戦役時のMSはデッドウェイト化するシールドを持たない機体とシールドそのものを多機能化する機体というふたつの方向に分かれていくことになる。



グリップ

通常は腕部のジョイントに装着されるが、盾として使用する際にはグリップを起して手で保持する。スライド式なので必要に応じて自由にグリップ位置の変更が可能。



スラスター・ノズル

開口部が大きいので、短時間の噴射で大きな加速が得られる。ノズル内部のフィンが上下に可動させることができ、それにより推進力のある程度の指向性を持たせることができる。

### ■PROFILE

みさき・みつあき…「すくすくスクラッチ」講師。近況/2月に発売される別冊の再構成のため超多忙な年末を過ごす予定です。82~85ページの「すくすく」で紹介している曲面加工①は以前日野氏に教えていただいたモノ。この場を借りて感謝。[フルアーマーガンダム]



マルチ・ジョイント

他用途ジョイント。オプションパーツやハードポイントとして武装を装着することができる。また、専用の給油プラグをつなげば推進剤の補給を行うこともできる。

### カラーリングデータ

- ① 黄(濃)…「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ② 黄(濃)…「ガンダムカラー・グレー(11)」+「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ③ グレー…37番・RLM75グレーバイオレット+40番・ジャーマングレー
- ④ 赤…「ダンバインカラー・オーラレッド1」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ⑤ 黄…58番・黄褐色+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」



すべてGS1クレオス「Mr.カラー」「ガンダムカラー」「ダンバインカラー」を使用。



P R E S E N T S

# SUKU-SUKU SCRATCH

スクラッチ(ビルド)とは…

プラ材やバテ、木材などの様々な素材を使い、全身からオプションパーツまで、キットにはないものを造ること。キットのパーツを一部に使用したセミスクラッチと、キットパーツを使わないフルスクラッチに分けられる場合もあるが、当連載ではそれらをまとめてスクラッチと呼ぶことにする。

第19回:プラ板によるスクラッチビルドの練習

すくすくスクラッチ

講師: 岬光彰

今回は、ガンダムヘイズルのシールド(決定稿バージョン)を「なるべく軽く、簡単に作る」をテーマにお贈りします。もちろん他のキャラ

クターの製作にも応用できる工作なので、是非、最後までお付き合いください。

■PROFILE みさき・みつあき…別冊進行と本誌進行が重なり多忙を極めるベテランモデラー。近況/近所の公園で“ガンダムこっこ”をする子供を発見! 20年前に打ち上げ花火を両肩に架けて、“ガンキャノンこっこ”をしたのを思い出しました。



⑦接着して完成

切り出したパーツを裏返してセンターラインの面で接着すれば、左右対称パーツの完成です。片側を先に切り出してゲージとすることで、左右の角度や寸法を正確に切り出すことができました。

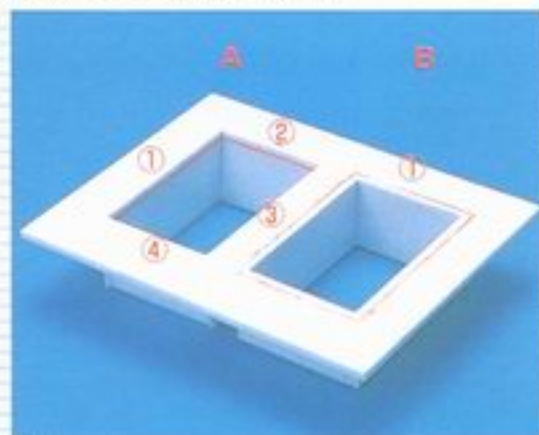
## プラ板工作での厚みの表現

プラ板工作でパーツを表現する場合のL字組みの加工方法を説明します。



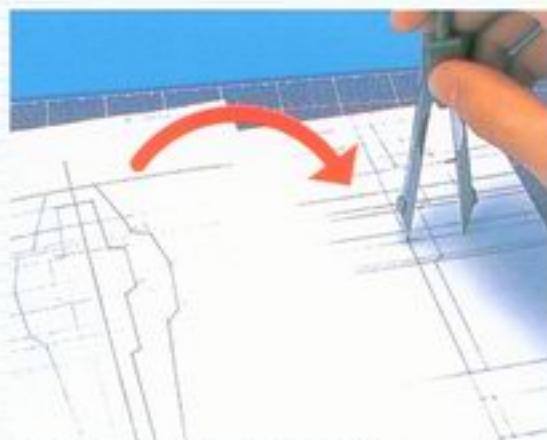
①図解: プラ板の厚み

プラ板の断面に厚みをもたせる場合、図のようにL字型に組み合わせる方法が一般的です。図Aは裏面を接着する方法、図Bは、小口を接着面とする方法です。



②例

写真のように四角い穴に厚みを出す場合、接着した部分を処理しなければならない面数は、Aの場合は4面、Bの場合は1面です。また、A場合は穴の内側を削り加工するので、穴の形状が変形してしまう可能性があります。

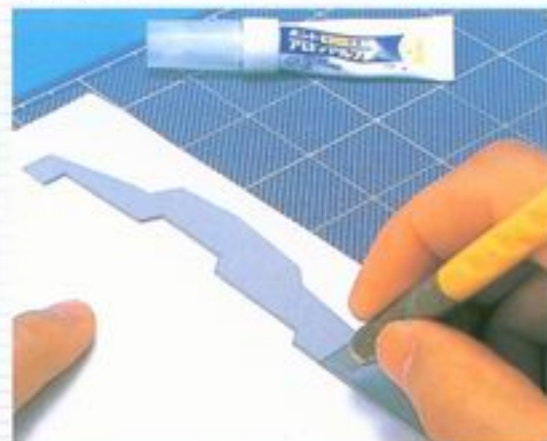


④センターラインからの長さを移す  
ディバイダーかコンパスを使用して、センターラインから、各部の角のポイントまでの寸法を図面からプラ板に写し取ります。



⑤切り出し

各ポイントをつなぐようにして、定規をあてて片側のみを切り出します。



⑥反対側のパーツの切り出し

切り出した片側のパーツ(写真では、わかりやすいようにグレーで塗装してあります)をプラ板に瞬間接着剤で点付けして固定し、ゲージにして反対側を切り出します。

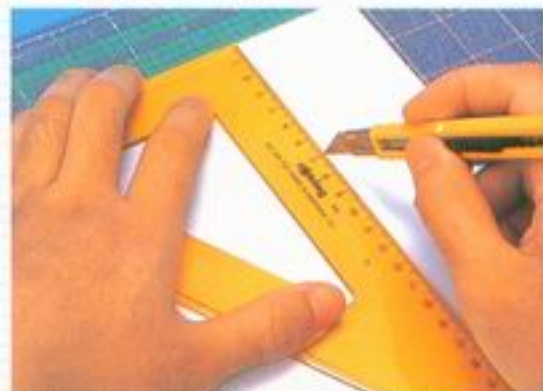
## 左右対称パーツの切り出し

プラ板などを左右対称に正確に切り出すのは、簡単なようでなかなか難しい工作です。ここでは、センターラインを基準にした簡単なプラ板の切り出し方法を紹介いたします。



①図面の作成

今回切り出すのは、ガンダムヘイズルのシールド・プラスターの裏面です。やや複雑な形状をしているので、方眼紙に図面を製作してみました。センターラインとそれぞれの角の位置を正確に計って作図しましょう。



②センターラインに切り込みを入れる

プラ板のフチに定規をあて、これに三角定規を組み合わせて、センターラインにカッターで切り込みを入れます。ここでは、絶対に切り離さないでください。同じ方法で横のフチを直角に切り出しておきます。



③横線を書き込む

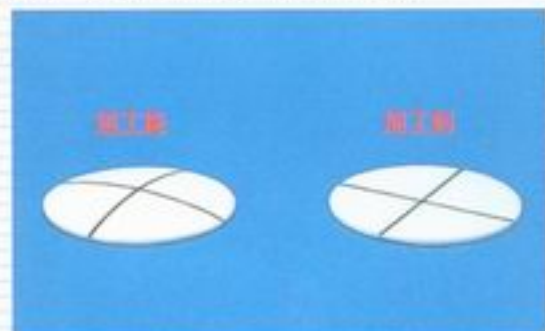
図面を基にして、パーツの各部の角の位置にセンターラインと直角に交わるように横線を書き込みます。





## ⑤完成

右が加工前左のふたつが加工後のパーツです。全体に緩やかなアールがついているのがわかるでしょうか？



## 応用例

サークルカッターで切り出したプラ板を同じように加工して三次曲面を作ってみました。熱加工のように原形を作ったり専用の道具を必要としないので手早く加工することができます。

## 0.3mmプラ板を使った 曲面加工 (重ね貼り法)

薄いプラ板の柔軟性を活かして曲げ加工を行い、曲面を製作します。



## ①プラ板を棒に巻きつけて、クセをつける

0.3mmプラ板を必要な形状に切り出し、棒などに巻きつけて、曲面のクセをつけます。

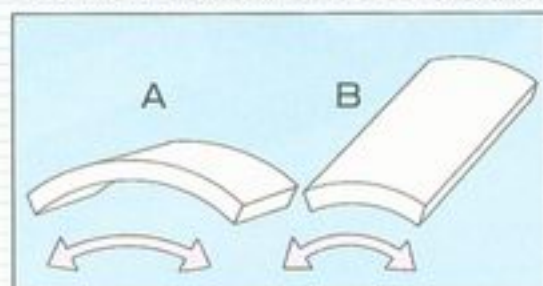


## ②接着

同じ形にクセをつけたものを2枚以上用意して、ゼリー状の瞬間接着剤ですり合わせながら接着します。位置合わせが可能な時間は3〜4秒くらいなので、手早く、慎重に作業しましょう。

## プラ板の曲面加工 (折り曲げ法)

プラ板の曲面加工といえば、熱加工や積層して削り出す方法が一般的ですが、ここではプラ板の柔らかさを活かした加工方法をふたつ紹介しましょう。



## ①図解：曲げ加工の概念

プラ板（スチロール樹脂）は、適度な柔軟性があり、図Aのように曲げる方向に幅があるときは、簡単に曲げることができます。しかし0.5mm以上の厚みの場合、図Bのように幅が狭いと指で曲げ加工をするのが難しくなります。



## ②ペンチで曲げる

ちょっと強引な方法ですが、曲げる方向に幅が少ない場合はペンチを使ってプラ板を挟み、小刻みに折り曲げていく方法が適しています。プラ板の表面がデコボコになりますが、この段階では気にしないでOKです。



## ③失敗例

一度に大きな角度で曲げようとすると、プラ板が割れてしまう恐れがあります。プラ板に加える力加減には注意しましょう。



## ④ヤスリで仕上げる

曲げ加工でデコボコになっているプラ板の表面を、ヤスリで仕上げてキレイにならしましょう。



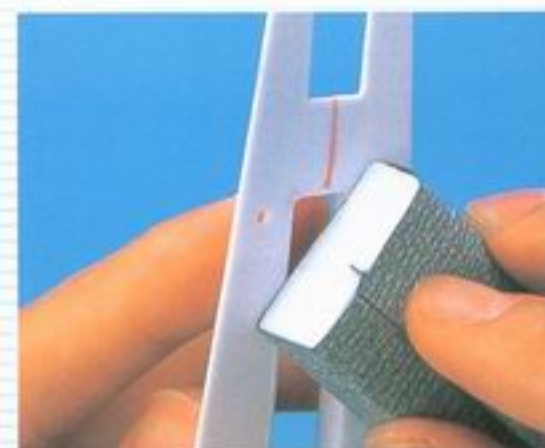
## ③逆エッジ加工の応用

今回は図解Bの方法に以前紹介した「逆エッジ加工」を組み合わせ、厚みの表現の簡単な作り方を紹介しましょう。必要な幅に切り出した0.5mm厚のプラ板に直角に4箇所の切り込みを入れ、割れないように慎重に折り曲げます。



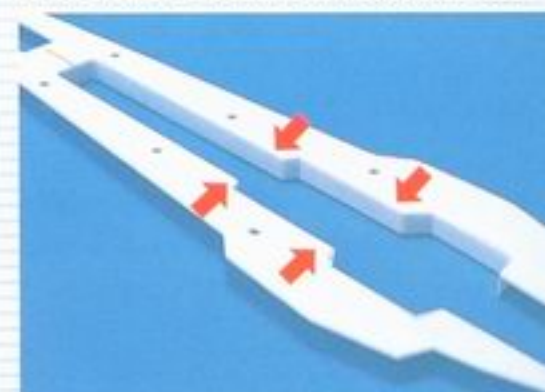
## ④接着+角度の固定

先に切り出したパーツに接着して、切り込み部分を「アルテコSSP-HG瞬間接着パテ」がゼリー状の瞬間接着剤で固定します。



## ⑤ヤスリで仕上げる

接着剤が硬化したら、ヤスリで接着線を仕上げます。平面なので、写真のようにあて木（写真は「スタイロフォーム」のブロック）を使用するとキレイに処理することができます。



## ⑥完成

他の部分も同じように加工して、厚みの表現ができました。今回の作業で、接着線の処理をしたのは、上面と矢印で指示した部分のみです。どうしても作業量が多くなってしまうスクラッチビルドでは、このような作業の簡素化も重要なポイントのひとつです。

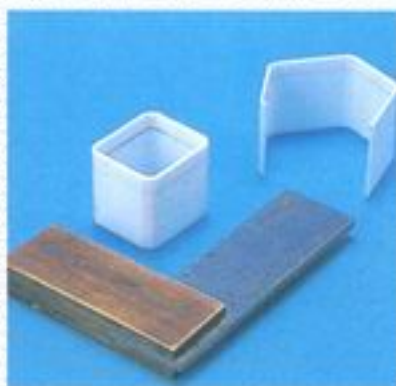


PRESENTS

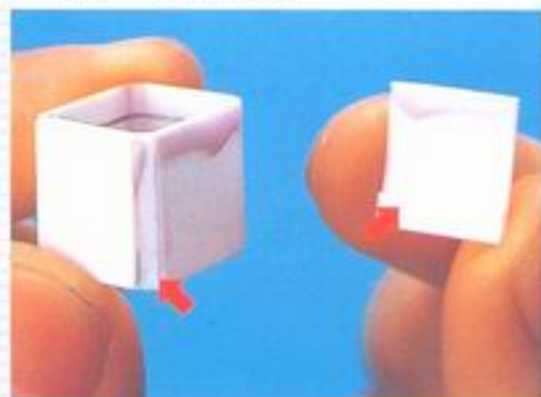
# 角バーニアの製作

シールド・ブースターの後ろ側に付く、角バーニアを、簡単な方法で製作してみようと思います。

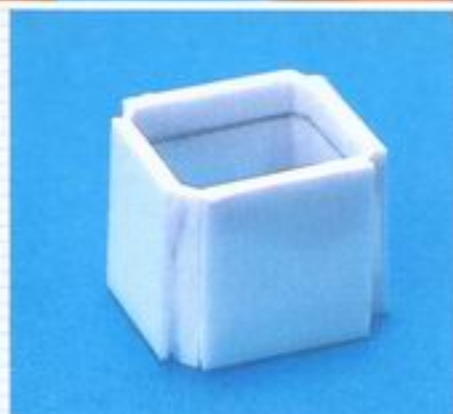
厚み表現のところで紹介した「逆エッジ加工」で内側の面を作ります。各面が台形やひし形に歪まないように、スコヤなどで合わせて角を固定します。今回は、あらかじめ内側にスジ彫りを入れています。



①内側を作る



側面はスジに向かって広がった形状にするので、下側はプラ板の端切りを貼って段を作り、瞬間接着剤でスキマを埋めるように接着します。

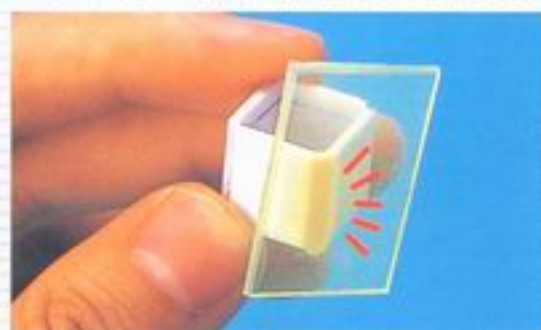


②側面を貼り付ける



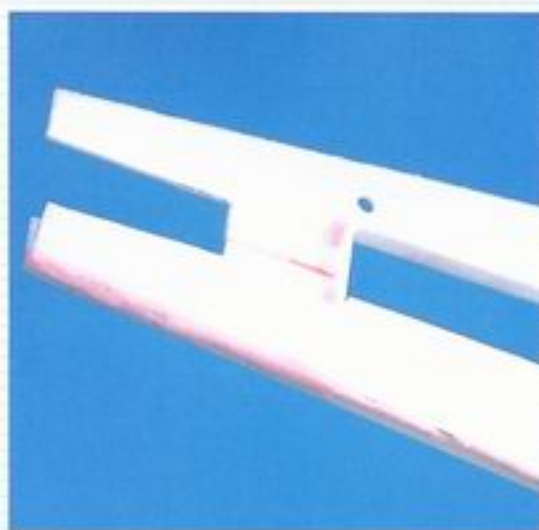
③C面を瞬間接着剤で作る【1】

ポリプロピレンの板（書類ケースなどを切り出したもの）にスプレープライマー（硬化促進剤）をスプレーしておきます。



④C面を瞬間接着剤で作る【2】

先に貼り付けた外側の面と面との間に、瞬間接着剤を少し多めに盛り付け、促進剤を塗ったポリプロピレン板を押しつけます。



④ズレの修整

曲面加工によって生じたプラ板のズレも、「アルテコ SSP-HG瞬間接着剤」を多めに盛り付けて、接着しながら修整します。



⑤C面をつなぐ

C面部分は、多めに瞬間接着剤を盛り付け、面と面をつなぎます。「アルテコ SSP-HG瞬間接着剤」は、多量に使用すると発熱しやすいので、硬化スプレーを併用して固めながら盛り付けるといいでしょう。



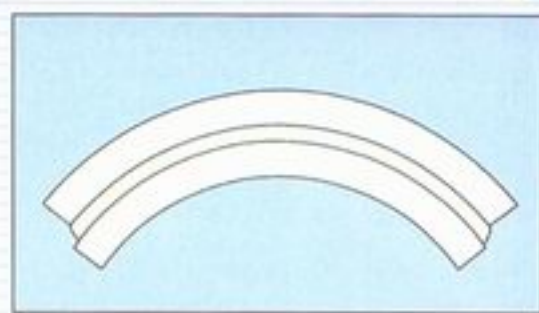
⑥ヤスリで面出し+仕上げ

各面が自然なラインでつながるように、丁寧に削って仕上げていきます。



⑦完成

プラ板と瞬間接着剤の併用で、見た目よりもかなり軽いパーツを製作することができました。



③図解：接着したパーツの断面図

薄いプラ板の柔軟性を利用して、曲げグセをつけたパーツを硬く柔軟性の低い接着剤で固定することで、パーツの形状がグセをつけた状態で安定するのです。



④完成

右が加工前、左が加工後のパーツです。微妙な曲面が再現できました。熱さは0.7ミリくらいですが、瞬間接着剤で接着することで、強度がかなりあります。

## パーツの接着

いよいよ、切り出しや曲げ加工の済んだパーツを接着して組み合わせましょう。



①切り出したパーツ

切り出したシールド・ブースター本体部分の各面パーツです。



②形状試作

作業が前後しますが、全体的なフォルムの確認と各面の構成を把握するために、「スタイロフォーム」で試作を作ってみました。似た形状のパーツが多いので、各面に番号をつけて間違えないようにしています。



③接着

平面と曲面加工をしたプラ板を組み合わせる場合、どうしてもスキマができやすいので、今回は接着に「アルテコ SSP-HG瞬間接着剤」を使用してスキマ埋めも同時に行っています。



## チェックポイント！

■左右対称パーツの切り出し  
○かなり正確な切り出しが可能。  
○特別な工具が不要。  
×センター部分の接着面積が少なく、強度が足りない場合がある。

## ■プラ板工作での厚みの表現

○積層工作でパーツ全体を厚くするよりも、重量を軽くすることができる。  
○プラ板の組み合わせ方によっては、作業量を少なくできる。  
×裏側に見えるパーツには使えない。

## ■プラ板の曲面加工（折り曲げ法）

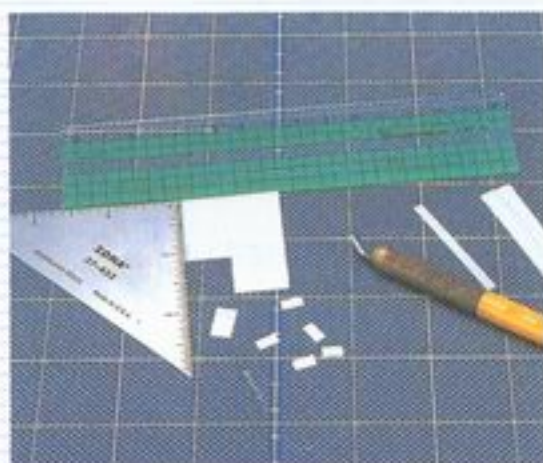
○曲面が簡単に作れる。  
○三次曲面も作れる。  
△微妙なアールしか作ることができない。  
×割れてしまうと修整が大変。

## ■0.3ミリプラ板を使用した曲面加工

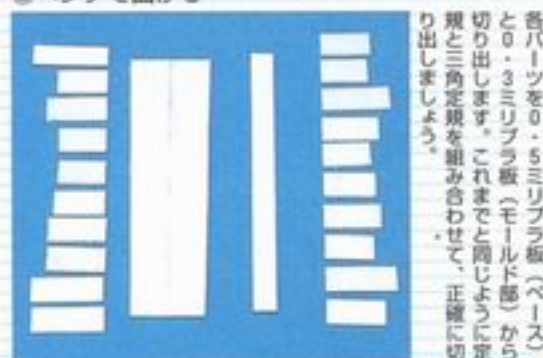
○曲面が簡単に作れる。  
○角度の急なアールも作れる。  
△接着でズレることが多い。  
×スジ彫りなどで割れることがある。

## ■アルテコSSP-HGパテを使用したC面出しなど

○作業が早い。  
○パテ盛り、スキマ埋めが簡単で同時に行える。  
△接着力が強いので、後からの修整がしにくい。  
△値段がやや高い。



②ベンチで曲げる



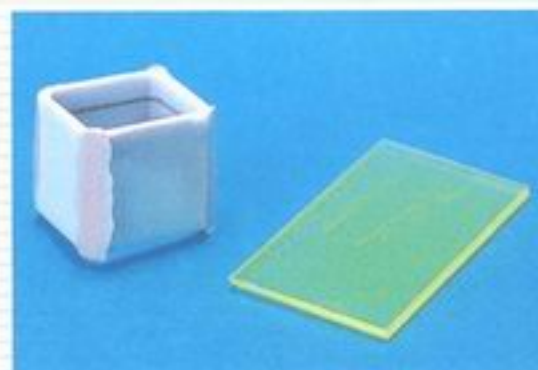
③接着＋仕上げ

各パーツを組み合わせて接着し、硬化後に不要な部分を切り取って仕上げます。接着は通常のプラ用セメントを少量付けて、仮止めし、位置を合わせてから、流し込みタイプのプラ用セメントを横から流し込んでいます。



完成

大まかな形状が完成しました。この後さらにディテールを加えたり、形状の微調整をしています。詳しくは、作例が掲載されている60～61ページを御覧ください。



⑤C面を銅箔パテで作る【3】

1～2分ほど硬化を待って、ポリプロピレン板を外します。写真のように銅箔パテが平面に盛り付けられました。



⑥ヤスリで仕上げる

はみ出した銅箔パテを、ヤスリで削り落して各面を仕上げます。

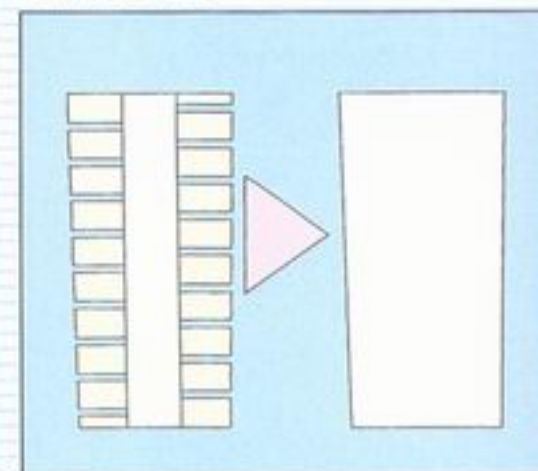
⑦角バーニアの完成



「逆エッジ加工」の応用と銅箔パテとポリプロピレン板を使ったC面出しで、プラ板から切り出すパーツの数を、接着線の処理を少なくすることができました。このパーツは、約1時間ほどで製作でき、かなり作業量と時間を節約できています。

ハンドグリップの  
レール部を作る

シールド・ブースター内側の複雑なディテールの中でも、作るのが難しそうなレール部の製作方法を紹介しましょう。



①図解：プラ板の分割図

レール部のディテールは、細い凹部分が左右に入っていて1枚のプラ板から切り出すのは、手間がかかります。そこで、この部分はプラ板の組み合わせで製作することにしました。

すくすくスクラッチが  
別冊になった！ その名も…

**GUNDAM**  
SCRATCH BUILD MANUAL

**GUNDAM**  
SCRATCH BUILD MANUAL



この本を読めば  
君だけのガンダムが作れる!!

価格：2,500円 総ページ数：118ページ

**好評発売中!**



RGM-79Q ジム・クウエル  
[ガンダムTR-1ヘイズル予備機]  
電撃ホビーマガジン2003年1月号付録キット改造  
製作・文:若田トシオ[チームTACO]

DHM2003年1月号付録のヘイズルヘッドは、MGジム・クウエルに取り付けるだけで、ヘイズルの予備機が作れます。あとはスネとバックパックが付録になれば完璧(笑)。

今回は付録の頭部を製作。各パーツを丁寧に磨き上げたのみのストレート組みです。

クウエル本体は個人的に気に入った部分を少々いじっただけのストレート組み。

カラーリングはクウエルのノーマルカラーにイエローラインとウサギマークを加えたのみのので、色を塗るのが苦手な人もキットの成形色と先月号の付録シールで手軽に作れます(持っていない方は書店でご注文を:担当)。作例では色味をA0Z版に合わせているので明るめですが、配色はキットのままです。

ヘイズルヘッドは「実験パーツ」という設定なので、作例以外にもいろいろと遊べそうです。クウエル本体を小林とおるさんが作ったアドバンスドタイプ(DHM2002年3月号掲載)にしたり、ヘッドをガンダムMk-IIにつけてみるのも面白そう。時代の異なる他のガンダムにつけてもいいかも。みんなも自由な発想で楽しんでみてください。

#### ■PROFILE

いわた・としお…近況/ウェーブのファイアボールSGが早く作りたい/とりあえず10個買いたい/(でもボクはシュトラール派)【ドム】



頭部

付録のヘッドパーツを使ってヘイズルカラーに合わせて塗装を行った。パーツ自体をシャープに磨き込んではいないものの、基本的にはストレート組み。右ページに付録解説にもあるようにパーツ単位で塗り分ければOKだが、作例ではヘイズルの頭部設定に合わせて黄色のピンストライプで分かれた上下の塗り分けを再現。



肩

胸部とは異なり、黄色いラインを入れただけの肩アーマー。塗り分けが難しいと感じるのであれば、こうしたアレンジもあり。部隊マークは本誌先月号の付録シールを使用。



胴体

胸部側面の配色パターン。黄色いラインで上下に塗り分けられているが、ジム改やヘイズルと同様、基本的にはパーツの構成に準じたラインになっているのでラインをきれいに引きさえすればそれほど難しい塗り分けではないはずだ。

#### CHECK THIS BOX!



1999年12月発売。  
価格…3000円(税抜)。



※ホビーショップなどでこのキットを買ってきて、「ヘイズルヘッド」を取り付けるだけで、A・O・Zの設定にある「ヘイズル予備機」が完成します!

#### カラーリングデータ



- ①青(濃)→「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ②青(淡)→「ガンダムカラー・グレー(11)」+「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ③グレー→37番・RLM75グレーバイオレット+40番・ジャーマングレー
- ④赤→「ダンバインカラー・オーラレッド1」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ⑤黄→52番・黄橙色+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

すべてGSIクレオス「Mr.カラー」「ガンダムカラー」「ダンバインカラー」を使用。





ジム・クエル用ヘイズルヘッドを  
改造してみる。



## RGM-79Q GM QUEL

RX-121 GUNDAM TR-1[HAZEL]HEAD PARTS  
DENGEKI HOBBY MAGAZINE special kit  
modeled by Toshio Iwata[TEAM TACO]

今月号の付録「MGジム・クエル用ガンダムヘイズルヘッドパーツ」。  
このパーツを使えばヘイズルの予備機として小説に登場した  
ジム・クエルを誰もが簡単に作れるようになっている。  
この頭部パーツを岩田トシオが  
9月号で自作したヘッドパーツをイメージして改修を行った。  
※電撃ホビーマガジン2003年1月号付録  
「MGジム・クエル用ガンダムヘッドパーツ」は現在入手不能です。



## 特別付録

塗装見本

1/100スケール  
ガンダムTR-1 “ヘイズル”  
ヘッドパーツ

今月の特別付録は「ガンダムTR-1 “ヘイズル”」のヘッドパーツ。マスターグレードシリーズの「ジム・クゥエル」(発売中: 価格3,000円/バンダイホビー事業部)に取り付けるだけで簡単にカスタム化できます。ここでは初心者向けにランナーにつけたままの筆塗りでの塗装を紹介します。

監修: サンライズ

制作・製造協力: バンダイホビー事業部

塗装・解説: 佐藤忠博(オヤジガンブラーズ1号 /)

## 用意するもの

このパーツは通常のガンダムプラモデルと同じように接着剤なしで組むことができます。主な工具類、塗料等は以下のものを用意してください。

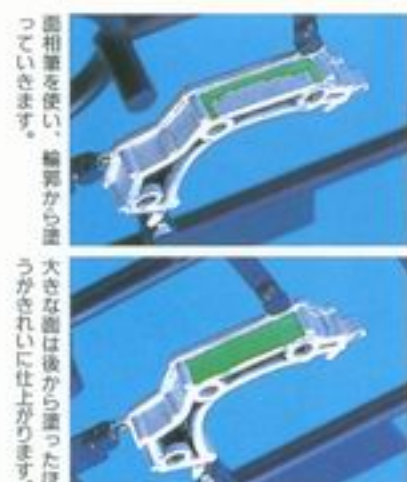
- ①ニッパー(模型用)②カッターもしくはデザインナイフ③ガンダムカラー(使用するカラーは別項目で掲載)④ガンダムカラー用うすめ液(シンナー)⑤ガンダムマーカー⑥エナメルカラー(スミ入れ用)⑦エナメルカラー用うすめ液(シンナー)⑧筆(平筆、面相筆)⑨ピンセット⑩綿棒⑪塗料皿⑫紙ヤスリ

## 使用したカラー

- A: CG39 ホワイト5 (半光沢)  
B: CG85 イエロー2 (半光沢)  
C: CG92 レッド1 (半光沢)  
D: CG73 ブルー18 (半光沢)  
E: GM08 ガンダムアイグリーン  
※「ガンダムアイグリーン」のみ「ガンダムマーカー」です。



塗装例では、基本成形色(ティターンズブルー)は活かしたまま、必要箇所のみ筆塗りでの塗装をしています。カラーはすべて「ガンダムカラー」(GSIクレオス製)を使用していますが、いくつかセッティングで購入して集める必要がありますので、ご注意ください。

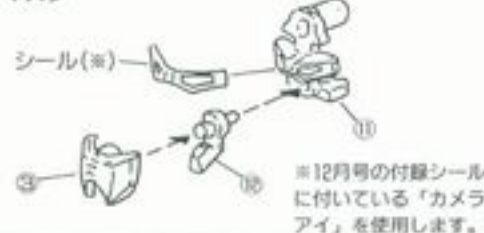


塗料は「塗料皿」に取って薄めて使います。平筆で筆塗りしないので、乾燥後、別の向きから塗り重ねていくようにします(詳しくは2002年11月号に掲載されている「ガンダム」のページをご覧ください)。



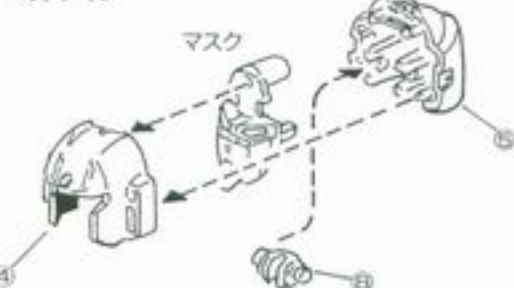
## 1 筆塗り

## 1 マスク

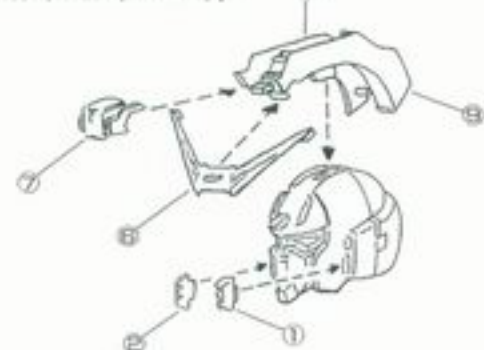


※12月号の付録シールに付いている「カメラアイ」を使用します。

## 2 ヘッドメイン



## 3 カメラ・センサーユニット



基本の塗り分けが終了し、よく乾燥させたら「スミ入れ」を行います。エナメルカラーを使用します。



専用うすめ液で薄めたものをモールドの上に少しずつ流し込む感じで塗っていきます。

## 2 スミ入れ



今回は本体の2色による塗り分けは行っていないですが、12月号の付録シールを使ってドレスアップさせます。ラインのシールは2ミリ幅のアタリになっていますが、ヘッドには半分の1ミリ幅が合っているようです。また切り取ったシールはピンセットで慎重に貼り、綿棒等でなじませてください(詳しくは今月号81ページを参照のこと)。

## 5 シール



すべての塗装、スミ入れが終了したら、ランナーから切り離して組み立てます。ただし、ゲート跡が残りますので、丁寧にカッターやデザインナイフで処理し、必要なカラーでリタッチして仕上げていきます。

## 4 リタッチ



上の塗装見本ではカメラアイを塗り分けていますが、ここでは12月号の付録シールを貼り付けています。丁寧に切り取ったら所定の位置に貼り、綿棒でなじませていきます。

## 3 カメラアイ



## A.O.Z OUTLINE

U.C.0088年。グリプス戦役集結後、壊滅したティターンズに所属していた人々は戦争犯罪人として厳しい扱いを受けていた。MS実験小隊に所属していたエアリアル・ハンター中尉もいくつかの罪状によって軍法会議にかけられることになった。ティターンズが行っていた悪行の事実を知って絶望に沈んでいたエアリアルだったが、彼の弁護を引き受けたという法務官のコンラッド・モリス

『アドバンス・オブ・Z』には、本ムックに掲載された0084~0088までのエアリアルたちティターンズ・テスト・チームの活躍を描いたストーリーのほかに、もう一つのドラマがある。電撃ホビーマガジン誌上で、隔月掲載されているこのエピソードでは、0088年、グリプス戦役後に行われたティターンズ裁判について語られている。

[www.jpshfmuseum.com](http://www.jpshfmuseum.com)

## CONRAD MORRIS

コンラッド・モリス

連邦軍法務局所属の法務官で、軍人でありながら弁護士を務めている。表面は冷静だが、熱い心を秘めている正義漢。左足が悪いため、いつも杖をついて歩いている。グリプス戦役後に行われたティターンズ構成員の軍事裁判のひとつであるエアリアルの裁判を受け持つことになった。40歳(U.C.0088年時)。

実を証明するため、まずは現在行方不明となつていくエス・マフィア大尉やカール・マツバラ中尉といった、彼の所属していた部隊の僚友を探し始めた。だが、エアリアルを有罪にしようとする連邦上層部の動きにより、彼らの行方はまったくつかめなかった。やっとなことなかつての部下から手がかりを得たコンラッドは月へと向かい、もとアスワンのメカニックだったヘンドリック・ネスと出会う……。

【電撃ホビーマガジン6月号までのあらすじ】

アドバンス・オブ・Z『A.O.Z』U.C.0088パート





**RGM-79CR  
GM TYPE-CR**

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"MASTER GRADE"  
RGM-79C GM TYPE-C  
modeled by Ryuji Sorayama



連邦軍の次世代主力MSである“RGM-79RジムⅡ”  
に対するティターンズ用の評価試験機。  
この機体を空山竜司が製作。  
RGM-79Cジム改がベースになっているという設定に  
合わせて“マスターグレード ジム改”に  
RGM-79RジムⅡ仕様の各種センサーや  
スラスターなどを追加して、  
主人公、エリアルドの乗る高機動型を再現。  
さらに頭部をはじめとする各パーツを  
差し替えてカールの乗る  
ジム・スナイパーⅢにも  
換装可能とした。

RGM-79CR  
GM TYPE-CR





RGM-79SR  
GM SNIPER III

BANDAI 1/100 scale plastic kit  
"MASTER GRADE"  
RGM-79C GM TYPE-C  
modeled by Ryuji Sorayama

RGM-79SR  
GM SNIPER III





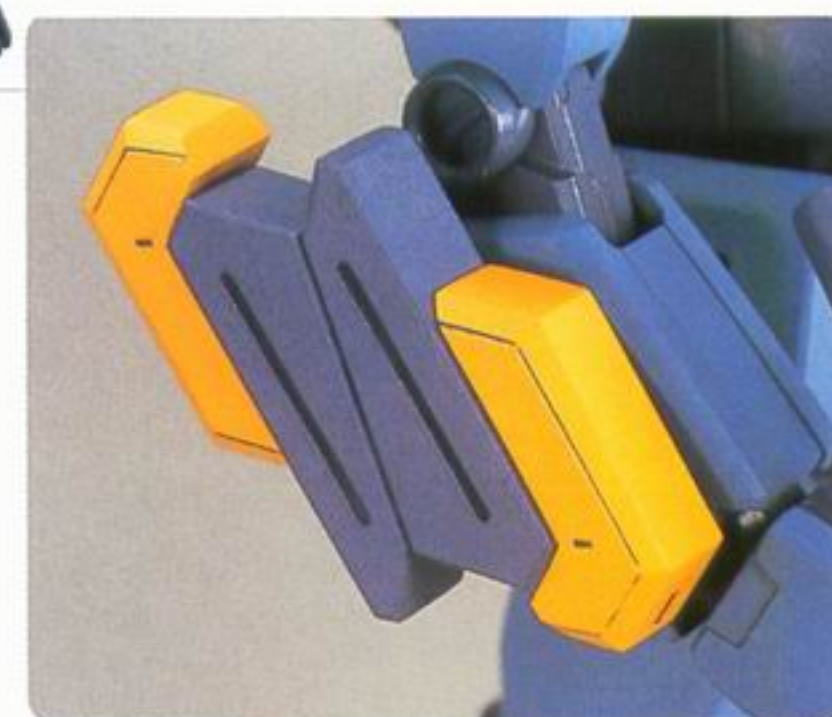
#### 頭部ユニット

頭部はベース機となったジム改のものがそのまま流用されているが、カラーリングの違いからまったく別の機体のような印象を受ける。



#### 胸部

高出力ジェネレーターを装備したことに対応し、右肩には放熱用ダクトを増設。左胸には強化されたセンサーが追加されている。



#### Eバック・ホルダー

ジョイント規格が統一されているため、Eバック・ホルダーはウェポン・ラッチであればどこへでも装着が可能である。



#### ヒザアーマー

スネの上部前面は脆弱な関節部を保護するための措置として、装甲厚の増加にともなう大型化が行われている。



#### 脚部スラスタ

脚部には推進用のバーニアスラスタを増設。それにともない脚部に設けられたジェネレーターも強化されている。これにより宇宙での機動力が飛躍的に向上している。





狙撃型用頭部ユニット

狙撃型にはジム・スナイパーⅡで使用されていたバイザー・センサーの強化版が装着され、最大望遠、射撃精度などが向上している。射撃時にはバイザーを下ろして使用。



バックパック

バックパックに内蔵されたジェネレーターにはベースとなったジム改のものの強化改良型を使用。後方索敵能力を強化するため、右肩には高性能センサーが増設されている。



ビーム・ライフル

Eバック方式の試作ビーム・ライフル。運用実験のために短銃型や狙撃型などさまざまなバリエーションが存在する。

RGM-79SR  
GM SNIPERⅢ

①②右肩の増設廃熱ダクトはキットの胸部装甲をくりぬいて、裏から押し付けたポリパテを加工して接着。  
③左胸の追加センサーはジム・クウエルのキットから切り離したパーツを加工して移植。  
④脚部装甲は分割方法を変更。全長で5ミリ延長し、フレームは途中で分断し延長部分に固定するようにした。  
⑤⑥脚の形状をデザインに合わせて修整している。





## マーキングバリエーション



C カール・マツバラ機のパーソナルマーク。小隊マークのウサギを自分用にアレンジしたもの。エリアルド機にはこうしたパーソナルマークは施されていないようだ。



B T3部隊の部隊章。「Titans Test Team」のイニシャルがベースになっている。



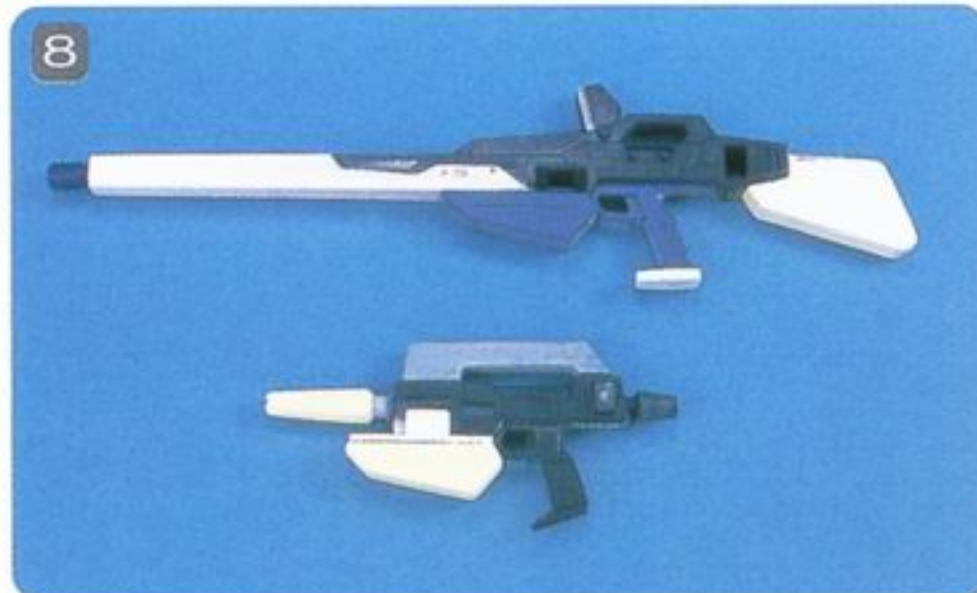
A マーフィー小隊の部隊章。ウサギがモチーフになっている。



E・F 数字以外の個別機体識別用マーク。●の数で機体番号を表している。



D ティターンズ機を表す濃淡2色の「ティターンズブルー」とマーフィー小隊を示すオレンジのピンストライプ。他の小隊ではそれぞれオレンジ以外の個別色を使用している。



①～③狙撃型用頭部。この段階ではバイザー部のみ製作。当初は開閉を省略する予定だったが、最終的に差し替えによって再現。後頭部はこの後で設定に合わせて修整が行われた。  
④バックパックの後方索敵用センサーはプラ板とパテで作ったブロックを取り付けたのみ。設定どおり外装部は削って開孔してある。  
⑤肩アーチャーはノズル部に市販パーツを埋め込み、先端をパテでシャープに造形。内側のフックはこの後でプラパイプを使って形状変更が行われた。  
⑥⑦途中段階全身。肩関節軸の角度を変更したことで胸を張ったポーズが基本となっている。スネや肩のノズルなど左右共通パーツは複製したものを使用した。  
⑧2号機が使用する武器（写真下）はジムⅡやジム・クゥエルが使用したビームライフルのEバック試験型。3号機はガンダムMk-Ⅱと同タイプのライフルのスナイパー仕様。どちらもマスターグレードに付属の武器を加工して製作。





RGM-79CRジム改高機動型  
RGM-79SRジムスナイパー III

バンダイ1/100スケールプラスチックキット  
"マスターグレード"RGM-79C ジム改改造  
製作・文:空山竜司

ついに連載開始となった「A.O.Z」。ティターンズカラーのNinjaを駆るソラリュウとしましては非常に親近感を覚えます。でもって自分が担当したのがエアリアルド・ハンター中尉とカール・マツバラ中尉の搭乗する「ジム改」とその「スナイパー仕様」。

使用したキットはMGのジム改ですが、藤岡氏のイラストから受ける印象はスリムかつスバルタンな感じ。一応キットベースでということだったのでスクラッチパーツは極力避け、頭部とマーキングの異なるパーツのみの差し替えてそれぞれに対応しました。

## ■頭部

エアリアルド機は先月号のジム改を参考に後ハメ加工をしました。耳インテークの合わせ目はモールドと解釈。スナイパー仕様は大幅に形状を変更。まずインテークまわりをすべて削り落とし、後頭部は設定画から読み取りにくい部分のみオリジナルで処理しました。バイザーはプラ板の箱組みで、耳の丸パーツはコトブキヤのバーニアパーツを使いました。

## ■胴体

ジム改との違いは右胸のダクトと追加センサー。ダクトは胸パーツに穴を開け裏側からポリバテで作ったパーツを組み込みました。センサーはジム・クウエルからの流用です。

首まわりは削り込んで中のフレームが見えるように改造。けっこう印象が変わるオススメ工作です。首の取り付け位置は後方にずらし、胸の出っ張りを強調しました。

バックパックにはプラ板で作ったセンサーを追加。隙間はプラ板で調整しました。

## ■腕部

肩パーツのみを改造。ダクトの出っ張りを強調しフックをイラストに似せた形状に変更しました。胸を張ったように見せるために、肩関節をななめ後方にずらしてあります。

## ■脚部

イラストのイメージ優先で大幅に改造。スネで切断してプラ板で5ミリ延長。トリ脚に見えるように若干角度をつけました。フクラハギの赤いバーニアはコトブキヤのパーツを使い、ヒザの出っ張りはポリバテで成形。足首は先月号の「Ver.Ka.」を参考につま先を延長しました。

## ■武器

ビーム・ライフルはクウエルのものを接着面で1ミリ幅増し、センサー部分を大型化しました。エネルギーバックはガンダムMK-IIから。スナイパー仕様はガンダムMK-IIのライフルバレルをプラ板で延長し、ストックもプラ板積層からの削り出しです。腕と腰に付いているEバック・ホルダーは「ヘイズル」で岬さんが作ったものの複製品です。

## ■塗装

この作例で一番の難所となったところ。まずオレンジを塗装しラインを1ミリのテープでマスキング。胸と肩とのつながりを調整するのに苦労しました。しかしパーツ単位で色を分けないカラーリングは斬新でいい勉強になりました。

## ■PROFILE

そらやま・りゅうじ…近況/ようやく「PS2」を購入。しかし箱から出せない日々が続いています。「ギレン」やりて～と思いつつポリバテを削る毎日です。[プラウ・プロ]

## カラーリングデータ



- ①濃紺…#5・ブルー：45%+ #322・フタロシアニ  
ンブルー：45%+ #68・モンザレッド：10  
%  
②ブルー…#72・ミディアムブルー：90%+モンザ  
レッド：10%  
③黄橙色…#58・オレンジイエロー：50%+ #203・  
蛍光オレンジ：50%  
④赤…モンザレッド：90%+ #1・ホワイト：10%  
⑤関節…#37・グレーバイオレット：50%+ #2・  
ブラック：50%。#153・レッドパールで  
コート。  
⑥センサー…#201・蛍光レッド



## ●オリジナルのマーキングに挑戦!

今回のガンブラ兄弟は、『A.O.Z』を読んで“自分もカッコイイMS部隊を作りたい”と思ったキミに贈る特別編だ!! キミだけのオリジナルマーキングの作り方を教えちゃうぞ! ちょっとコツがいるけど、丁寧に作業すればOKだぞ。

# ガンブラ兄弟

## ～A.O.Z 特別編～



デン: それぞれ! 連載9回目にボクがゲキに教えてやったのはそれだよ!! マーキングシールの端を使うんだよね。どうだゲキ、思い出したか?



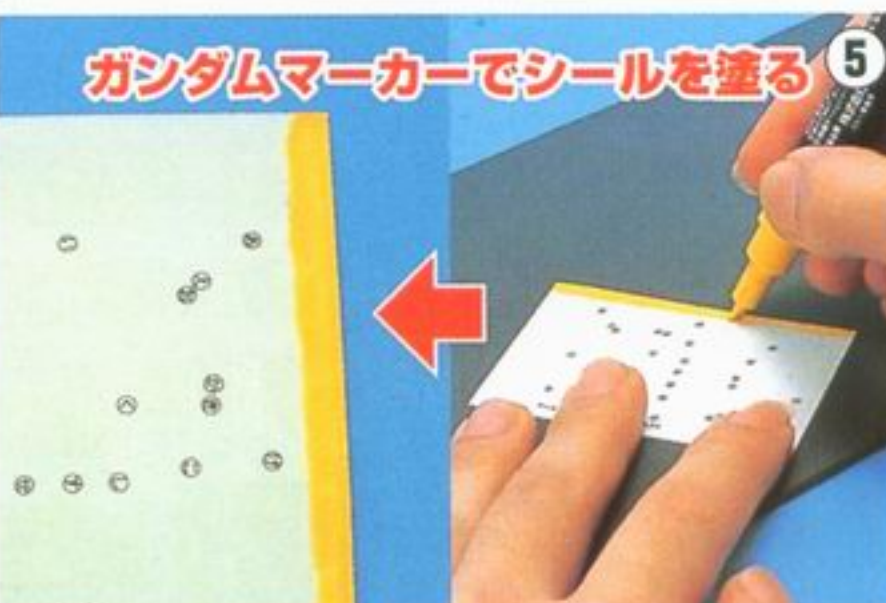
ガンタマ王: じゃからマーキングシールを使うと、言っておるじゃろう。オヌシが無残に破壊したガンブラの、残ったマーキングシールがこんなにあるんじゃ。だいたいオヌシにあんなプロモデラー並みの塗装ができるわけなから。今回は塗装しないで、マーキングシールを使った識別ラインの作り方を教えてやろうかの。



ゲキ: いてーなあ、もう…。それはそれとして、このGM改って今まで見たことないマークがいっぱいあるよな。オレンジのラインとかもあるし。なあガンタマ王、作例は塗装してみたいんだけど、またエアブラシ塗装とかすんのか?



ガンタマ王: ガンダムマーカーが乾燥したら、デザインナイフでシールを切り取るんじゃ。ちゃんと定規を使って、長さや太さを計ってから切るんじゃぞ。切り出したシールをパーツに貼ればいいんじゃが、ゲキ、コレを右肩に貼ってみい。



ガンタマ王: ニョホホー、マスキングも何もしないとは、さすがゲキじゃのう。そういう失敗をしても簡単に直せるようにマーキングシールを使うんじゃよ。まあ、とにかくガンダムマーカーでシールの端に色を塗って、乾燥させるんじゃ。



ゲキ: いや、さっぱり。だいたいなんでマーキングシールを使うんだよ。こんなのガンダムマーカーとか筆で、さっと塗っちゃえば簡単だろ! ……スイマセン。失敗してしまいました…。





色がにじんだ!?

油性を使うと...

9

ゲキ:あー、なんで水性なんだよ? べつに油性の「スーパークリアースプレー」でもいいじゃん。それ、プシューとな…。ギャー!? なんかマーカーがにじんできたー!!



水性トップコートを吹く

8

ガンタマ王:そんなに曲がる前に気がつかんかい! ガンダムマーカーの塗料は、マーキングシールに完全には食い付かんじゃ。無茶に剥がしたりすると塗料が剥がれてしまうことがあるんじゃ。念のため水性の「トップコート」を吹き付けておくといいんじゃぞい。



シールを曲げちゃった!?

7

ゲキ:これを貼ればいいのか? こんな簡単だろ、プツプツ…。ぎゃー! シールが曲がっちゃった!? また貼り直せば…。ああ! シールの端がボロボロになってる!?



余っていた変なシール

12

ガンタマ王:オリジナルの部隊章ということは、自分の好きなマークを作ればいいんじゃ。最近ではマーキングシールと同じ材質のシールも売ってるから、好きなものを使ってもいいんじゃよ。おや、こんなところ変わったシールがあるの。ちょうどいいわい、今回はこれを使ってみるかの。

部隊マーク  
パーソナルマーク

11

ガンタマ王:フォウ、次はオリジナルのマークの作り方を教えようかの。A.O.ZのGM改に使われていたマークは部隊章とパーソナルマークというもんじゃ。ようするにどこの部隊の誰が乗ってるMSかわかるように、ああいうマーキングをしているというわけじゃ。まあ、詳しくは下のコラムを読むんじゃぞ。



完成

10

デン:…なんでお前は人が言うことの反対をするんだ? 油性のスプレーだと、一度乾いたマーカーを溶かしちゃうんだよ。まあ、ゲキらしいっちゃ、ゲキらしいけど。ほら、僕の作ったシールはちゃんと貼り終わつたよ。



完成

15

ガンタマ王:シールに塗られている塗料が薄い色のときは、下地が透けて色が暗くなってしまうことがあるんじゃ。下地に白を塗る方法などもあるんじゃが。それは次回以降に教えようかの。気にならないならそのままでもいいんじゃし、下地の透けないシールを選んでもいいんじゃからの。



パーツに貼る

14

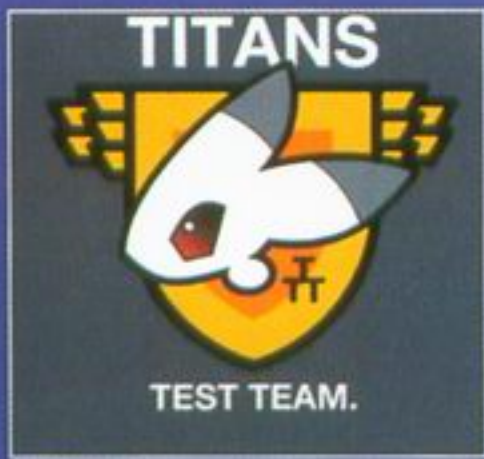
ゲキ:へえ。確かに面白いマークのシールだな。んじゃシールドに貼ってみるか。位置はこの辺で…。あれ、なんかシールが暗い感じがするんだけど…。まあいいか。



余分なところをカットする

13

デン:ふーん、なんか変なシールだね。この電撃マークは、けっこういいかも。ボクらも「デンゲキ」だしね。まわりの赤い部分はいらなから切って使おうかな。



## A.O.Z COLUMN

通常、MSは部隊識別のために部隊のシンボルマークやアルファベットの部隊略号を機体の一部（主にショルダーアーマーや腰部のスカートアーマーなど）にマーキングしている。ティターンズも原則的にこの方法に準じた部隊識別塗装を行っているが、一部の部隊では一風変わった部隊識別のマーキングを採用している。それは、部隊ごとにシンボルカラーを決め、それを機体の一部に塗装するというものである。同じ部隊に所属するMS小隊でシンボルカラーが同一でも、小隊によってマーキングの部位や塗装パターンが異なり、その違いによって所属を識別することができる。例えば、実験機のテストを主任務とする「ティターンズ・テスト・チーム」のマーフィー小隊では、テスト機を意味する「オレンジ」が部隊カラーとなっている。マーフィー小隊は、そのオレンジを機体各部に鮮やかなピンストライプのラインによって塗装し、部隊識別章としている。

このシンボルカラーによる部隊識別は、ティターンズの戦力が拡大し始めたU.C.0084年末から実施された方法で、それ以前に発足したバスク・オム大佐率いる「ティターンズ第1戦隊」などではこの識別塗装法は採用されていない。

Logo Mark Design:Fujioka Kenki/PEPPER SHOP



## 普通のシールも消せる

18



デン:ホビマガに付いてるマーキングシールもMGに付いてるマーキングシールも同じ材質だから、大丈夫だよ。ほら、写真のGMクウエルのシールだって文字を落とせるよ。

## 文字が消えた!

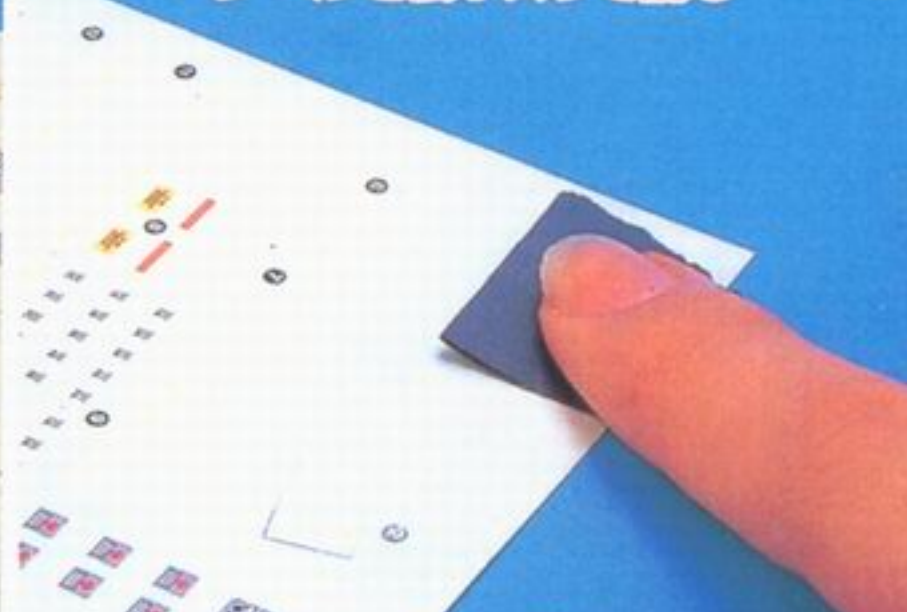
17



ゲキ:おお、文字が消えてる!? そっかマーキングシールの文字って削り落とせるのか。あれ、このマーキングシール、ホビマガの付録じゃんか。これって切り取り線がないやつだけけど、MGに付いてるマーキングシールも同じことができるのか?

## シールを紙ヤスリで削る

16



ガンタマ王:次はちょっとだけレベルを上げるぞい。まずはマーキングシールの文字を紙ヤスリで削って落とすんじや。紙ヤスリは800番以上のもので丁寧に削るんじやぞ。

## マスキングテープを使う方法

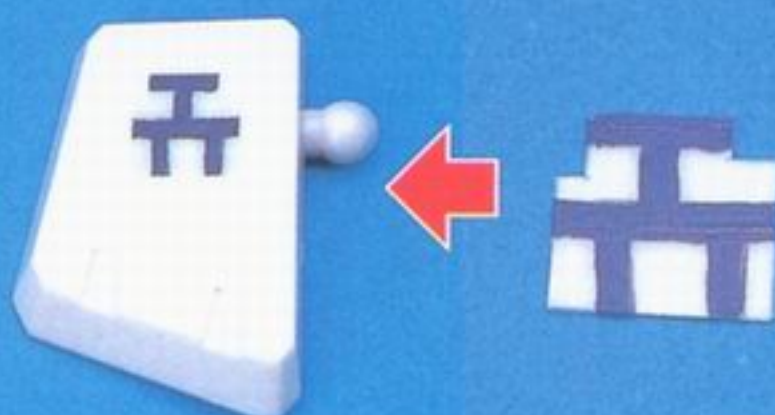
21



ガンタマ王:先月まで、せっかくエアブラシ塗装を教えたんじやから、ちょっとだけやっておくかの。まずはマスキングテープに作りたいマークのアタリ線を描くんじや。ちゃんと定規を使って長さや太さを計って描くんじや。

## 余白をカットして貼る

20



ゲキ:うるさいな。いちいち言われなくてもわかってるよ! よし、筆塗り終了!! あとは、余白をカットして貼ればいんだろ。腰のアーマーに貼ろっかな。こんな感じかな。

## 筆塗りでマークを塗る

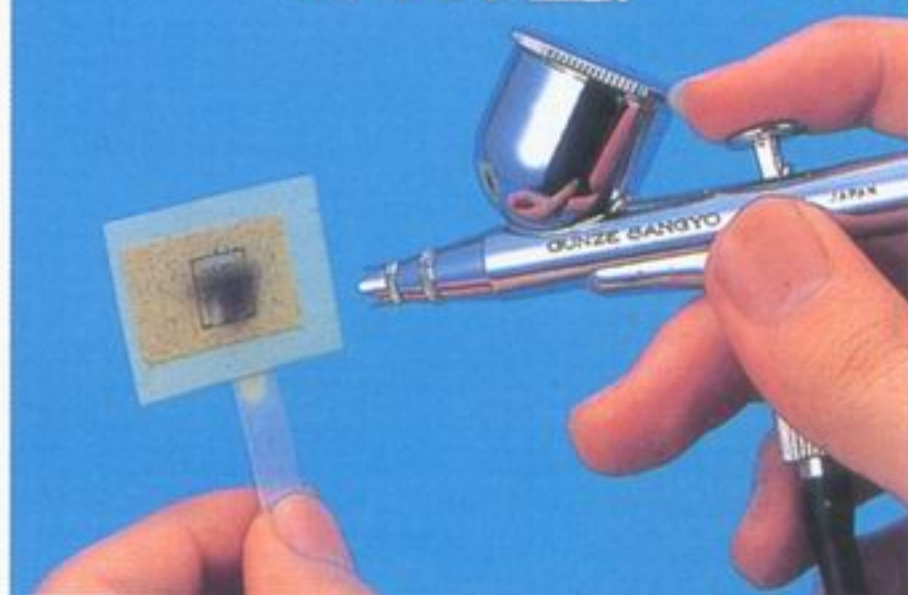
19



ガンタマ王:マーキングシールの文字を落としたら、筆塗りでマークの描き込みに挑戦しようかの。A.O.Zで使われているディターンズマークでも塗ってみるかの。ほれゲキ、やってみい。カットされてシールの大きさが決まっているものは、その中にマークを描き込むようにするんじやぞ。

## エアブラシ塗装

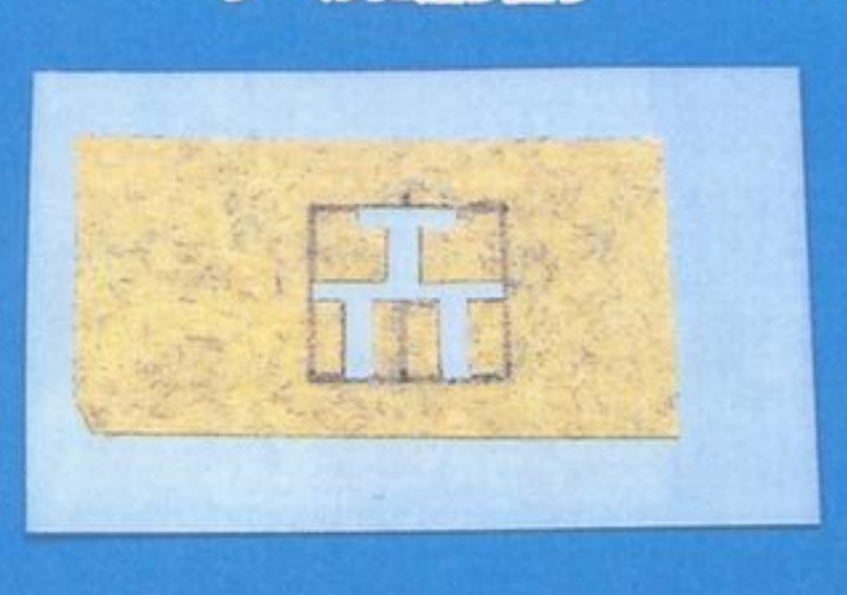
24



ガンタマ王:マスキングテープを貼り終えたら、プラ板の切れ端で持ち手を付けるんじやよ。シールを固定したら、ハンドピースで吹き付け塗装をすればいいんじや。ちなみに塗料をいきなり吹き付けしないで、先に試し塗りしておいたほうがいいぞい。塗料が乾燥したらマスキングテープを慎重に剥がすんじや。

## シールに貼り直す

23



ガンタマ王:切り抜いたマスキングテープは、破れないように丁寧に剥がして先に文字を落としておいたマーキングシールに貼り直すんじや。スキマができないように綿棒などでしっかり圧着させておくんじやぞ。

## アタリに合わせてカットする

22



ガンタマ王:アタリ線を描いたら、黒く塗った部分だけをデザインナイフで切り取るんじや。マスキングテープを切り過ぎないように注意して切るようにの。ちょっと面倒じゃが、ゆっくり丁寧にやれば大丈夫じゃぞい。

## トップコートを吹く

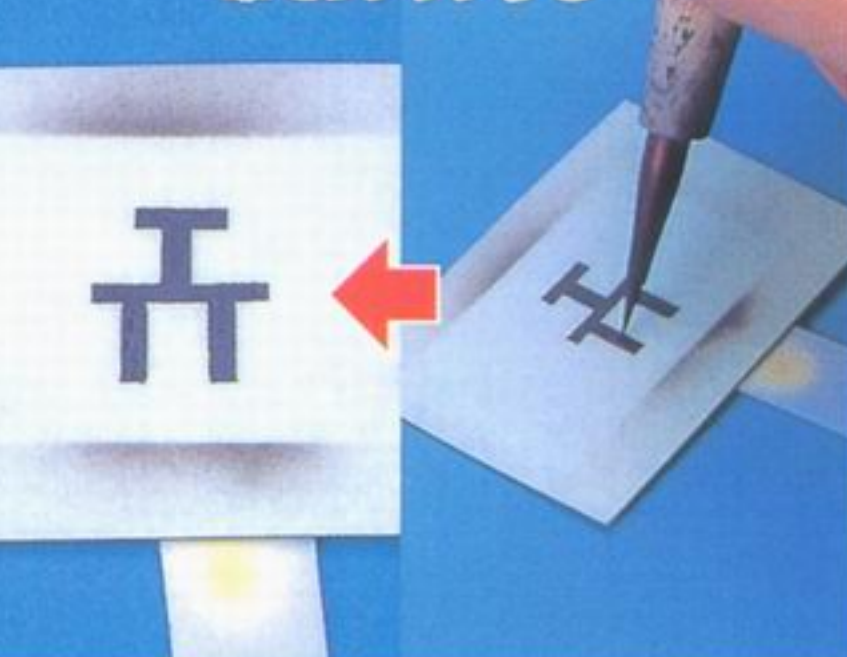
27



ガンタマ王:ハンドピースで吹いたところと、面相筆でリタッチしたところは、ツヤの出方が違うんじや。そのツヤを整えるのと塗膜の保護のために、また「トップコート」を吹き付けておくんじや。

## 筆でリタッチする

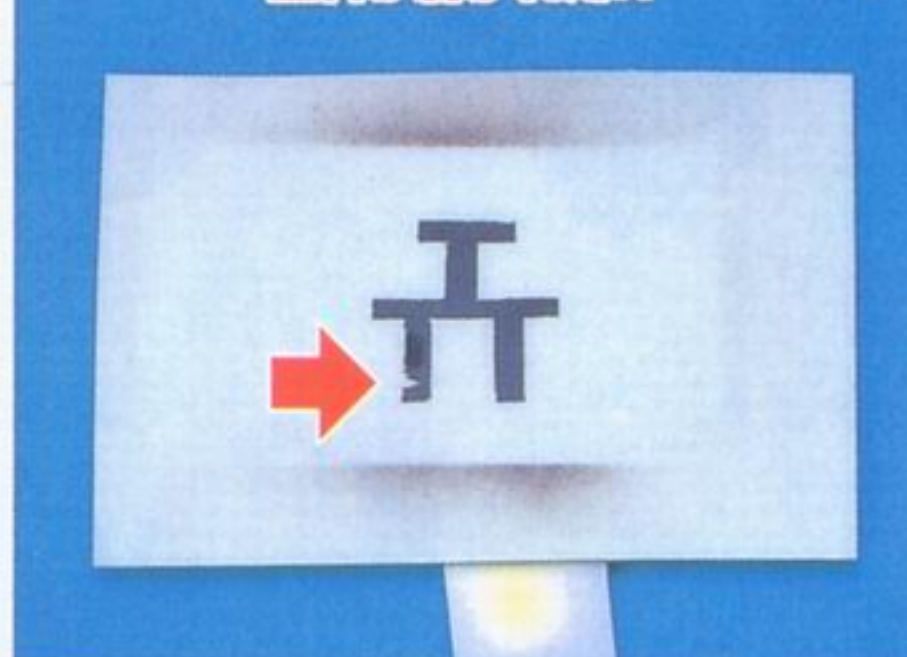
26



ガンタマ王:まあ、そうじゃろうの。粗雑なゲキにできるわけがないから。言ってみただけじゃ。そういうときは慌てずに面相筆でリタッチしてやればいいんじやよ。

## 塗料が剥がれた!?

25



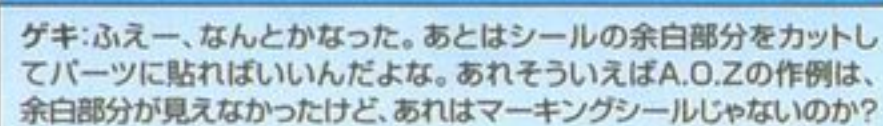
ゲキ:はいはい、わかったってば! マスキングテープを剥がすのね。誰でもできるだろうがこんなの。あれっ!? なんか塗料が剥げちゃったみたいなんだけど? ...スイマセン! 失敗しました!!



30

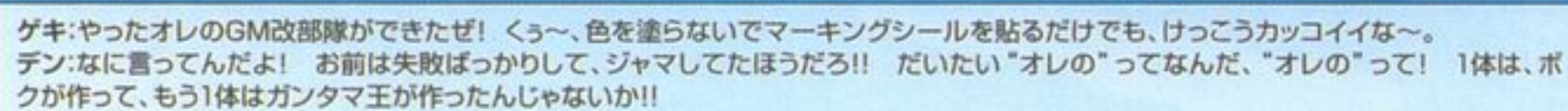


28

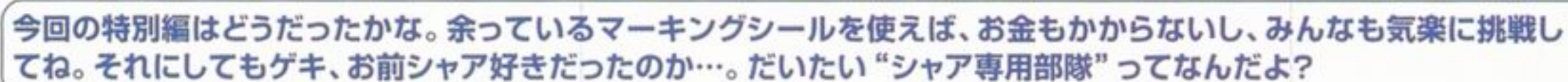


**パソコンプリンター  
専用デカール**

29



デン:A.O.Z.の作例で使われているのは、パソコンプリンター専用のデカールを使ったものなんだ。まあ、こうした材料は、まさに“プロ用”ってとこだよね。だいたいボクたち、パソコンを持ってないしね。



つ・づ・く



# ふはスラモのフ

講師:越智信善

## 第45回 「マスキング塗装法」 マーフィー小隊の カラーリングを再現

今回は「A.O.Z」のマーフィー小隊のカラーリングを再現するための、「マスキング塗装」の作業手順を、バンダイの新製品「MGジム改」を使用してご紹介しましょう。マスキング塗装とは複数の色を区別して塗装する際に、重ね塗りをしたくない部分を覆って(マスキングして)塗り分けを行う方法で、航空機モデルやレーシングカーモデルなどでよく使用されます。作例ではマーフィー小隊の機体に施される紺、紫、オレンジの3色をそれぞれマスキングして塗り分けを行います。マスキング塗装においても着色する順番は明るい色から行うことが基本です。マーフィー小隊ではティターンズブルーと呼ばれる紺と紫以外にラインカラー(オレンジ)が加えられており、このラインカラーから先に塗装を行います。

マスキングに使用するテープは模型用マスキングテープのほかにも、厚みの少ないセロファンテープも用いられます(ただしセロテープは透明なのでマスク箇所が確認しづらいため、上級者向き)。また、マスキング塗装は上塗りされた塗料が完全乾燥してしまうと「マスキングテープがキレイに剥がれない」というアクシデントが起こるので、塗り重ねる塗料の乾燥時間とマスクを剥がすタイミングがポイントになります。

おち・のふよし…「模型は塗装が命っ!」を信条とする「百戦錬磨の塗り奉行」。近況「ファーストガンダム」しか知らない私はここに来て「Z」の世界を勉強中! 元タミタリーモデル畑出身(?)なので、「ティターンズ」はドイツの「武装SS」と同じ雰囲気、違和感なく受け入れることができました。しかし、年表を覚えるのは歴史を勉強させられている中学生状態(笑)。



③イエロー系の色は隠ぺい力が非常に弱い色なので、下地色に影響されることがないようにサーフェイサーの上に塗装する必要があります。



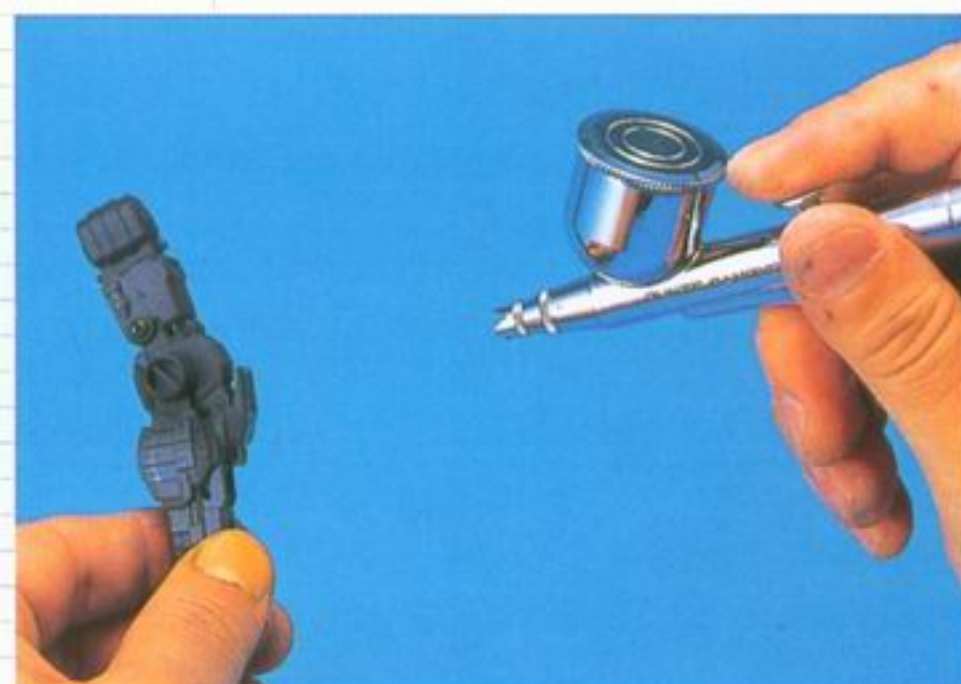
②最初に塗装する色は発色率が必要な「オレンジ」です。他の機体色と色合いを合わせるために「イエロー」に「オレンジ」を加えて「オレンジイエロー」を混色します。



①キットの下地処理を終えたら全体にサーフェイサーを吹き付けます。「色の透け」防止やマスキング作業での着色塗料の「定着力」を確保しておきます。



⑤「パープル」部分は3種の青みのあるグレーを基本に、少量の「シャインレッド」を加えて色味を調整します。

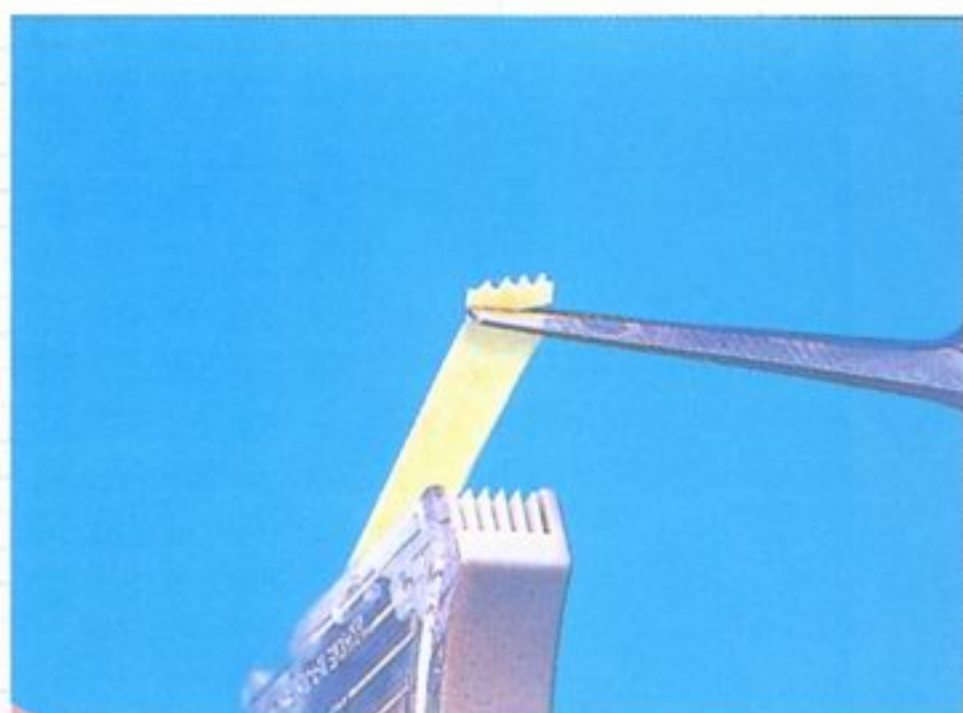


⑥フレームや装甲の内側は暗いグレーで塗装しておきます。

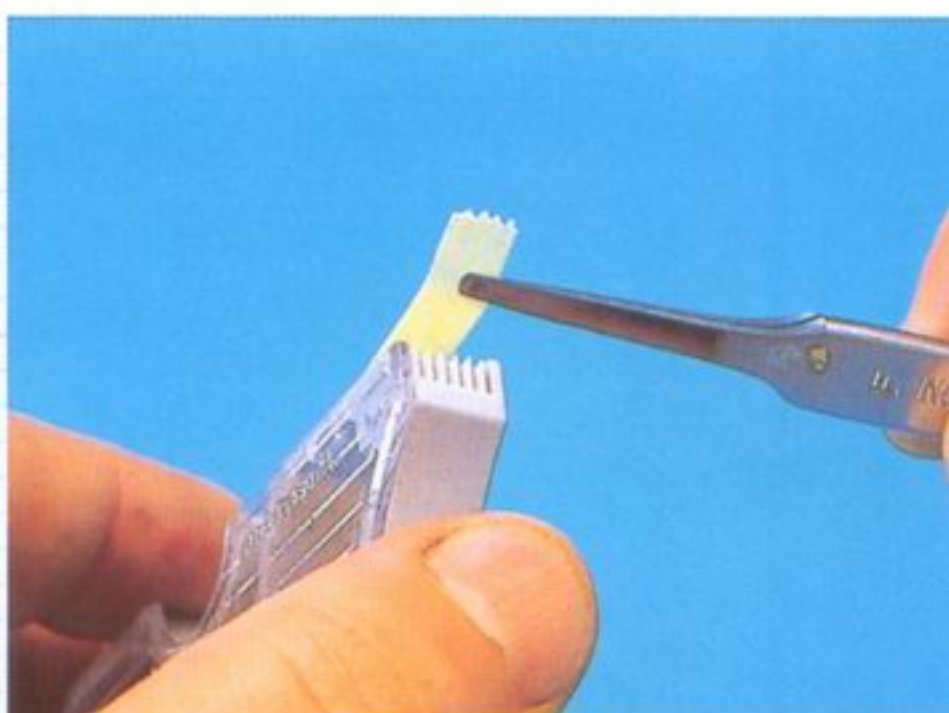


④イエロー系の色はムラになりやすい色でもありますから、注意して丁寧にラインが入る箇所を中心に吹き付け塗装を行い、3時間ほど乾燥させておきます。



MONTHLY DENGAKI HOBBY MAGAZINE  
NOBUYOSHI OCHI PRESENTS

⑨マスキングテープの端はハサミなどで丁寧にカットして使用します。



⑩マスキングテープは指で触ると貼着部分に指の脂などが付着して貼着力が落ちてしまいますから、ピンセットなどを使ってできるだけ触らないように心掛けてください。



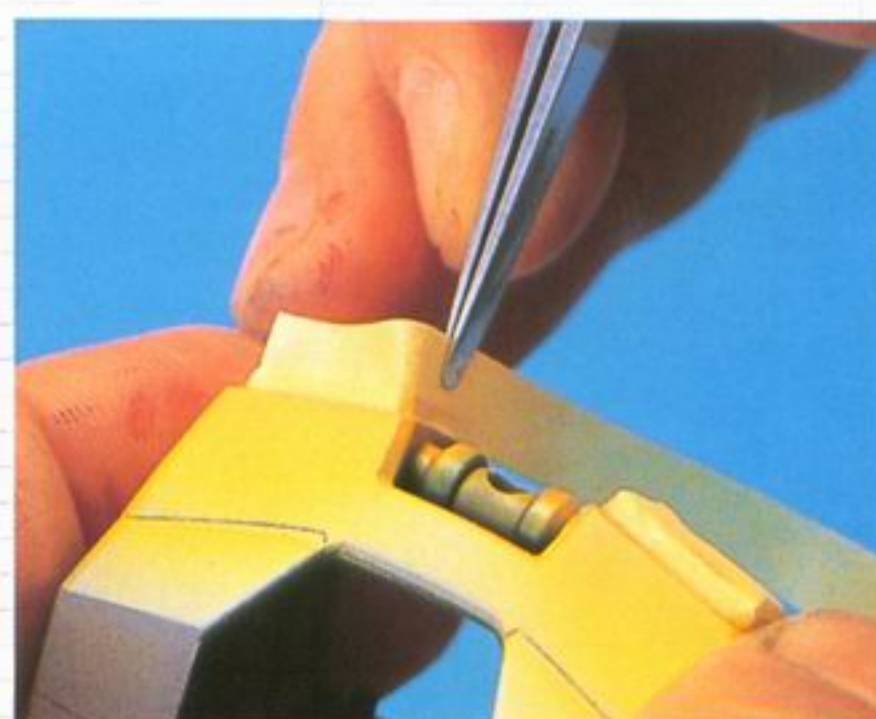
⑪塗装乾燥後、仕上がった部分を組み立て、色調をチェックしましょう。



⑫余分な部分を折り込んでおきます。



⑬このような形状の場合はテープで包み込む要領でマスクしていきます。貼り付けの際は曲がりや貼り残しがないか充分チェックしましょう。



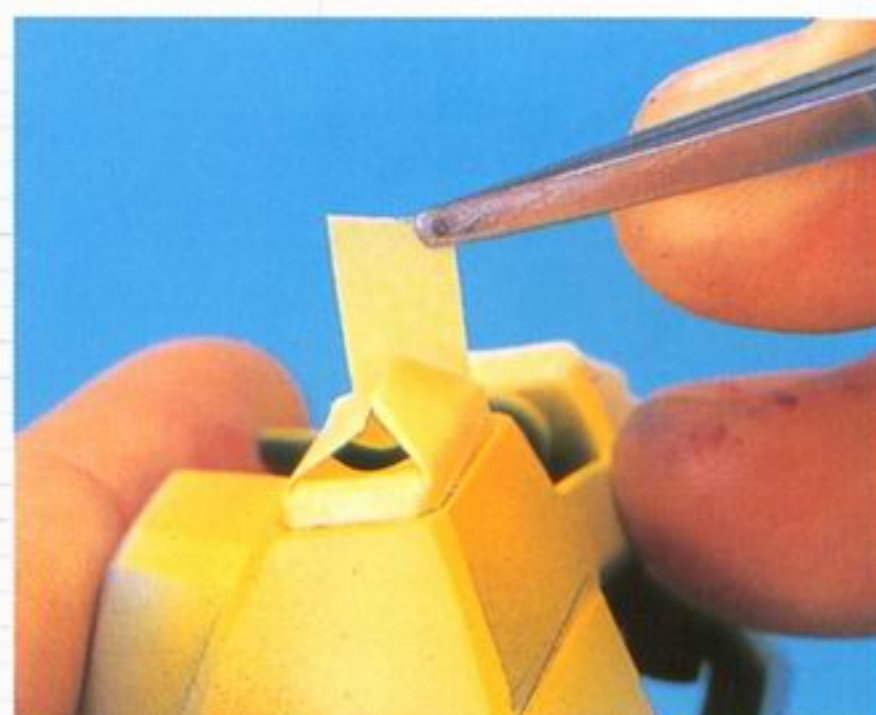
⑭胸のダクト部分はイエローを残すので、マスキングテープをディテールに沿って貼っていきます。



⑮ラインの部分はアイズプロダクション製「マイクロマスキングテープ（1ミリ）」を使用します。



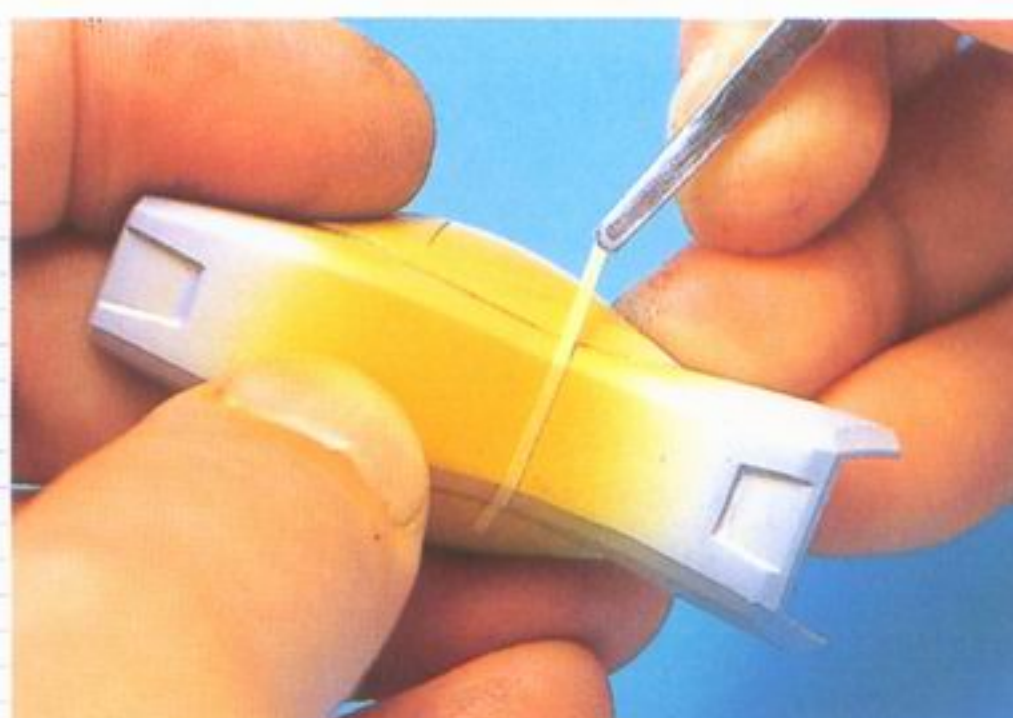
⑯張り出した部分のマスキング作業は、上塗り塗料の霧がマスキング箇所以外に充分吹き付けられるようにできるだけ小さく、邪魔にならないよう仕上げるのが肝心です。



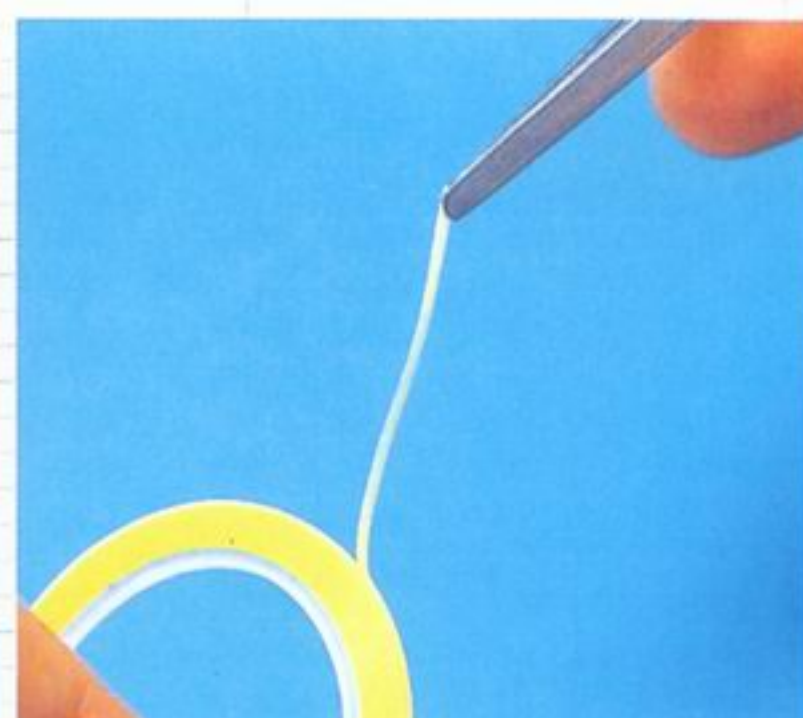
⑰最後に上面にテープで蓋をします。



⑱テープにシワができないように、ピッタリと貼っていきます。特に曲面で構成されている面は曲がりやすいので注意してください。

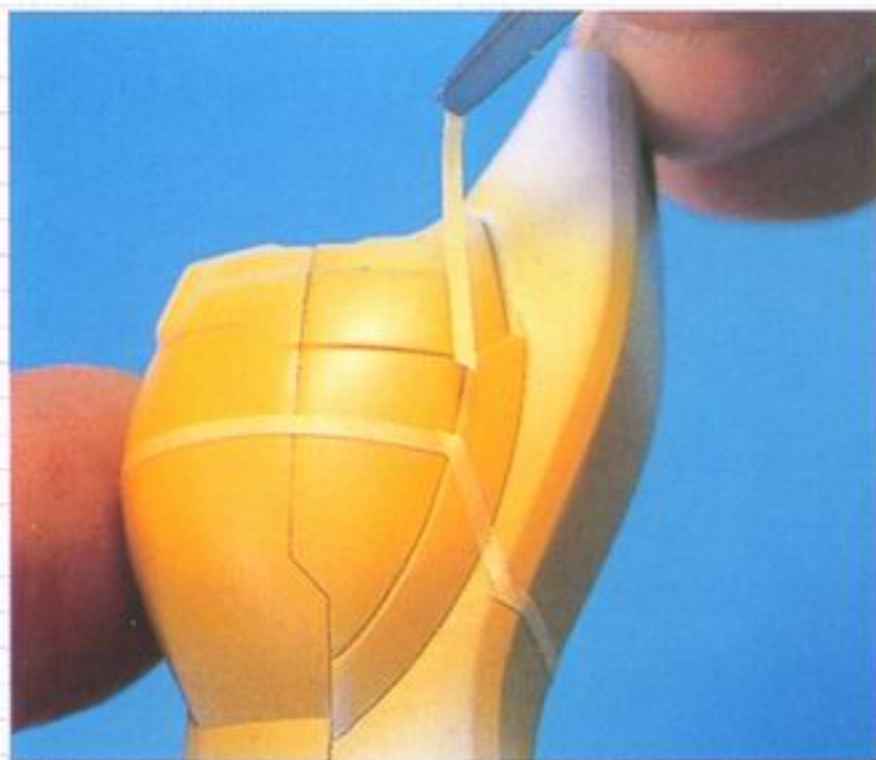


⑳先のマスキング作業同様、直接指で触れないように注意して貼っていきます。ラインが曲がって貼り付いていないかチェックしながら作業しましょう。慣れない間は鉛筆などで印を付けながら作業するといいいでしょう。

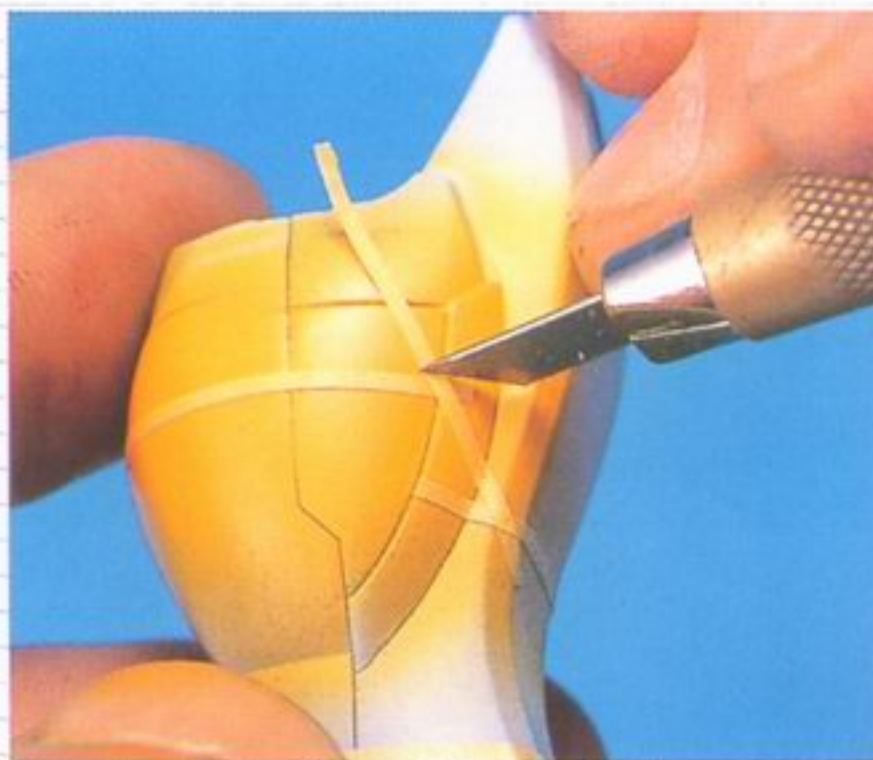


㉑極細のテープはピンセットで丁寧に取り出します。

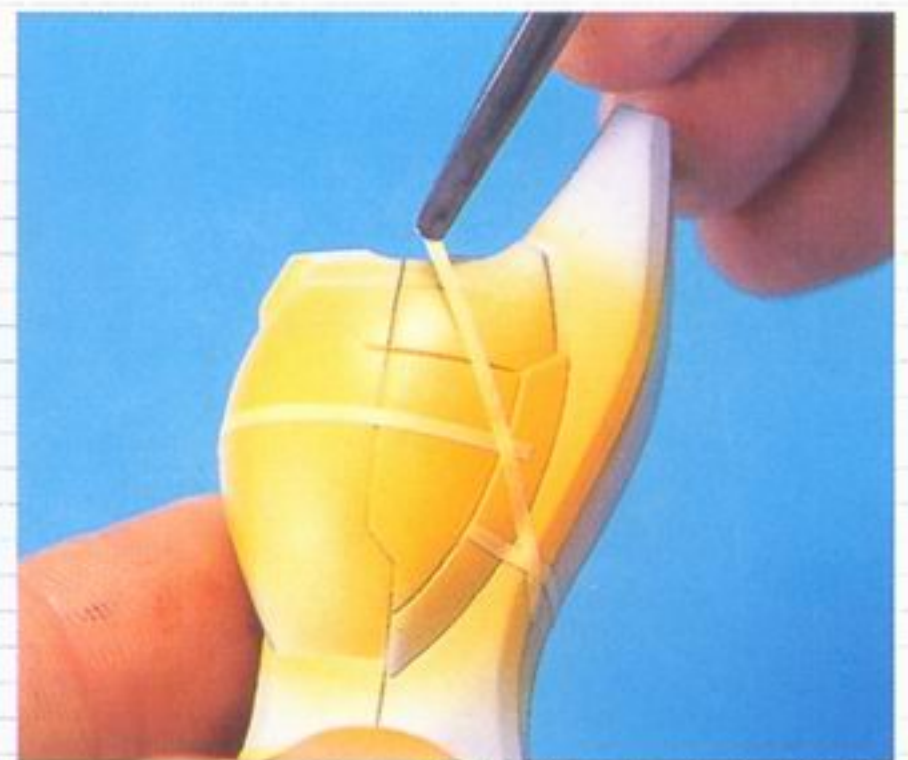




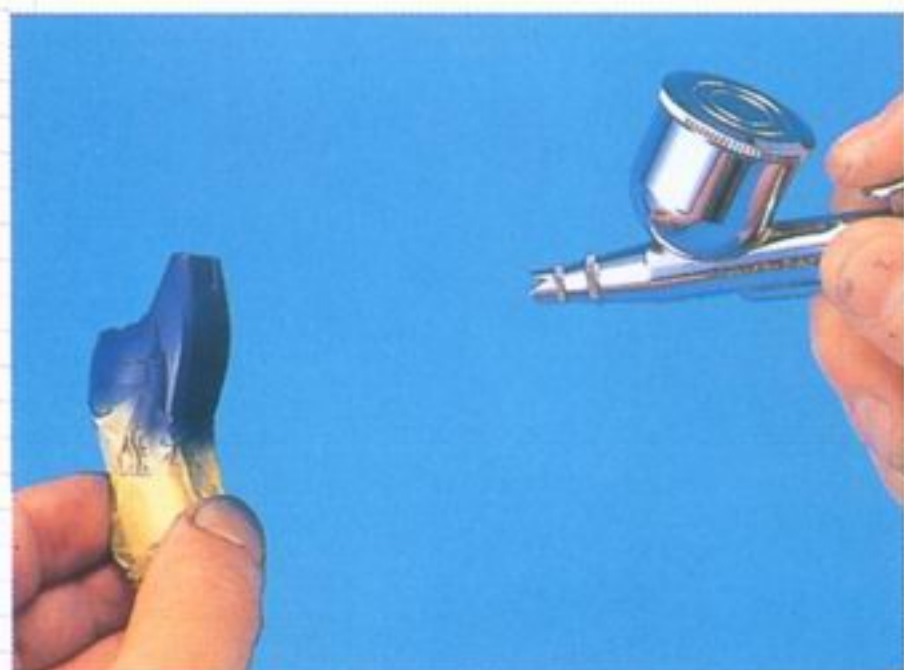
⑪焦って本ラインを剥がしたり、浮かせたりしないようにピンセットを使って丁寧に余分なテープを取り除きます。



⑫デザインカッターを使って塗装面に傷が付かないように、丁寧に余分な部分をカットしていきます。



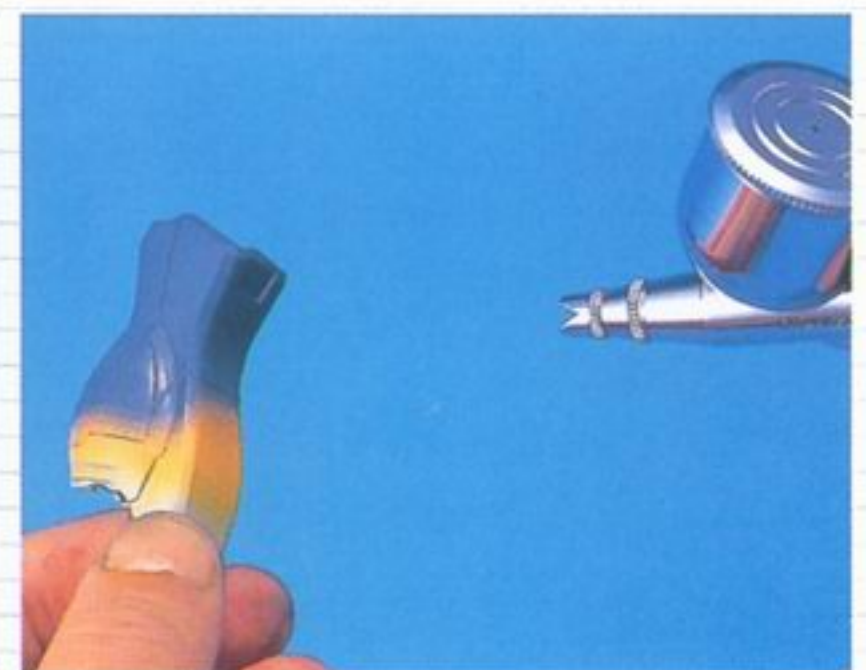
⑬ラインのマスキング作業は線と線を先に繋いでおき、後から余分な部分をカットします。



⑭ブルーを上塗りし、1時間ほど乾燥させます。



⑮ラインマスクの上からパープル部分をマスキングテープでマスクします。



⑯パープルを上塗りして、1時間ほど乾燥させます。

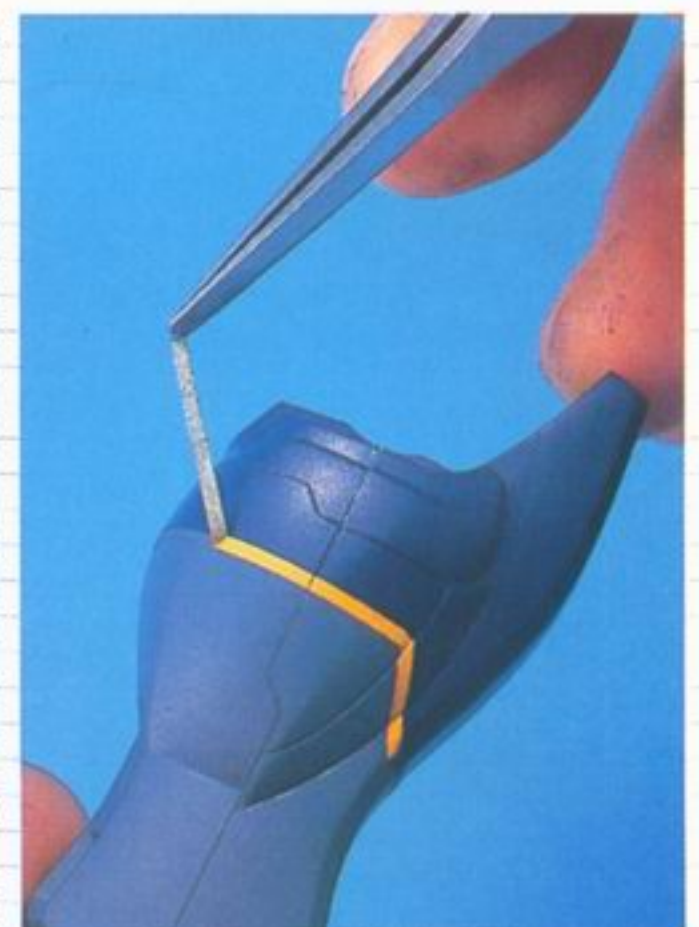


⑰カメラアイシールドや細部パーツを組み立てて完成。

⑯マスキングテープを剥がすタイミングはマスキング作業をして塗装を開始してから5時間以内に行いましょう。塗料が完全に乾燥してからでは塗膜が硬化してテープがキレイに剥がれない場合があります。



⑰乾燥したら組み立てて、マスキング部分やラインをチェックしましょう。



⑱テープを剥がす時は焦らず丁寧に作業しないと、上塗り塗料が完全に硬化していないので表面に思わぬ傷を付けてしまいます。



# RGM-79C GM

## A.O.Z SPECIAL

**BANDAI 1/100 scale plastic kit**  
**"Master Grade"**  
 modeled by Nobuyoshi Ochi



## A.O.Z COLUMN

### ■ティターンズカラー

ティターンズのイメージカラーは「黒」。そして、ティターンズMSの塗装色は「ティターンズカラー」と呼ばれている。正確な塗装色は「濃紺」であるが、その色は限りなく黒に近い。黒は相手に恐怖心や威圧感を与える色であり、地球圏の治安維持を目的とするティターンズにとって、これほど都合の良い色は他になかったといえる。事実、旧世紀から特殊部隊というものは、その意匠に「黒」を好む傾向がある。全身を黒く塗られた、18メートルを超えるティターンズMSの威容は、対峙した敵に強烈な畏怖の念を抱かせ、その姿を目の当たりにしたジオン軍残党兵の戦意を著しく失わせただろう。

試作機であるRX-178ガンダムMk-IIも、他のティターンズMSの例にもれずティターンズカラーに塗装されている。試作機のカラーリングにまでこだわるこの姿勢からも、彼らの志と任務への決意のほどがうかがえる。



■ワンポイント  
 マーファイ小隊のカラーリングは、赤系の色味を加えられることで暗く映る「紺色」と、紺色をベースにグレーを加えたパープル、そしてオレンジの3色で構成されています。主色が赤系の色合いを持つ紺色なので、イエローにも赤みを加えることで色調の足並みを揃える必要があります。この場合、塗料に含まれる顔料の特性でイエローに直接レッドを加えると「朱色」に変化してしまいます。レッドの代わりにオレンジを加えて「橙（だいだい）色」を作ると、紺と紫との色合いの違いが極端にならずに済みます。





PRESENTS

SUKU-SUKU  
SCRATCH

スクラッチ（ビルド）とは…

プラ材やパテ、木材などの様々な素材を使い、全身からオプションパーツまで、キットにはないものを造ること。キットのパーツを一部に使用したセミスクラッチと、キットパーツを使わないフルスクラッチに分けられる場合もあるが、当連載ではそれらをまとめてスクラッチと呼ぶことにする。

## 第16回:パーツを複製する。~その2~ すくすくスクラッチ

## 講師: 岬光彰

今回は、両面取りのシリコン型製作と、レジン複製です。連載「A.O.Z」に登場するMS専用のパーツを複製してみましょう。前回紹介した「片面取り」に比べ手順はやや複雑になりますが、原型の形状に制約が少なく、ガ

レージキットなどの製造にも用いられている、複製の定番工作ともいえる方法です。スクラッチの技法としても使用頻度が高いこの工作法を、基本・応用と2回に分けて紹介してみようと思います。

■PROFILE みさき・みつあき…How Toモデラー。近況/先日酔った勢いで友人3人と「カワラ割り大会」を開催。仕事柄、手を怪我するわけにはいけないので、頭突きて勝負。痛いだけで全然割れませんでした。一気に酔いが覚めました。

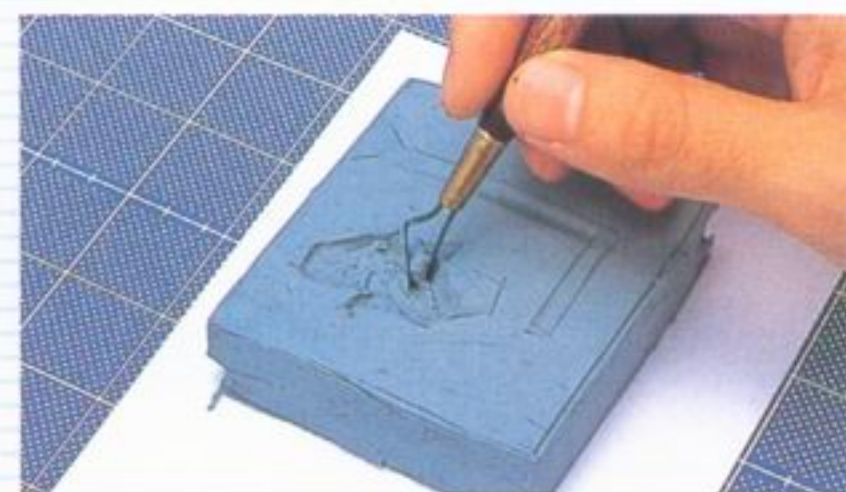


④型の大きさと原型の位置を決める



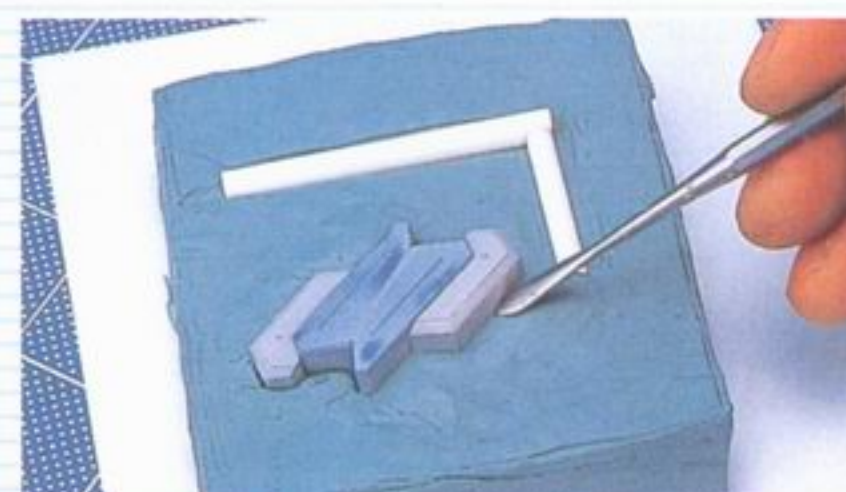
⑤粘土のカット

決めた大きさにナイフなどでカットします。あとで枠を組むので、側面はできるだけ垂直にカットします。



⑥原型の形に掘り込む

原型の厚みの半分程度の深さまで、原型の形に穴を掘ります。



⑦原型を埋める

穴に原型を埋めて、ヘラを使って周囲を整えます。原型と粘土の境目が、型の分割ラインとなり、複製パーツのパーティングラインになります。原型埋めは、とても大切な作業なので、丁寧にいきましょう。



④今回複製するパーツ

原型は、今月号の特集ページで使ったTガンダムのエネルギーパック（Eパック）と、そのホルダーです。原型を製作する際に、ホルダー部分は原型を1つ作り、複製後に再加工して上下をそろえています。

## 油土埋め作業

両面型を作るには、まず原型を油粘土に埋め、片側のシリコンを流すための「仮の面」を作る必要があります。油土埋めは「型の設計」ともいえる作業で、成形品の質に直結する工程ですので、丁寧な作業を心がけてください。

油土埋めには、小学校などで使う油粘土が向いています。なるべくベタつきが少ないものを選びましょう。写真は「ポピーあぶらんど」で、ベタつきがなく、型離れがよいので、油土埋めに適した粘土です。（220〜380円）



①油土埋めに使用する粘土



②粘土を平らにのばす

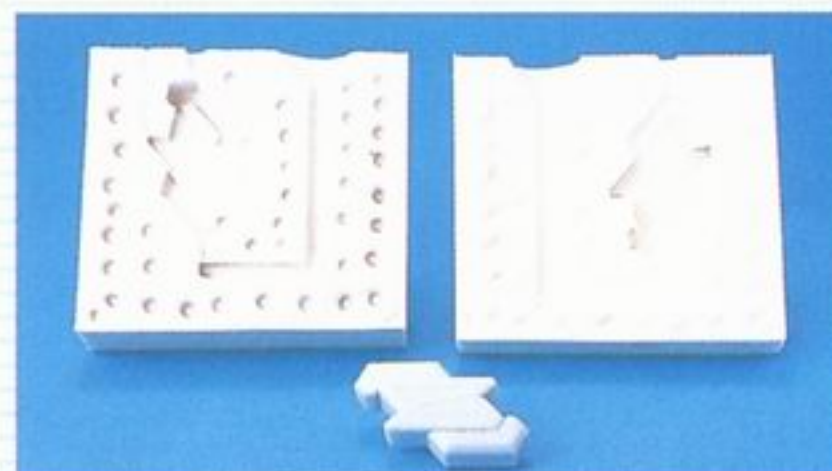
写真左から、削り加工用のワイヤ、2種、スパチュラ（金属ヘラ）、2種、粘土ヘラ、ワイヤーは、スプーンや彫刻刀などで充分に代用可能です。ヘラも、子供用のプラスチック製のものが、意外と役に立ちます。割り箸などを削って作ってもよいでしょう。



③油土埋めに使用する道具

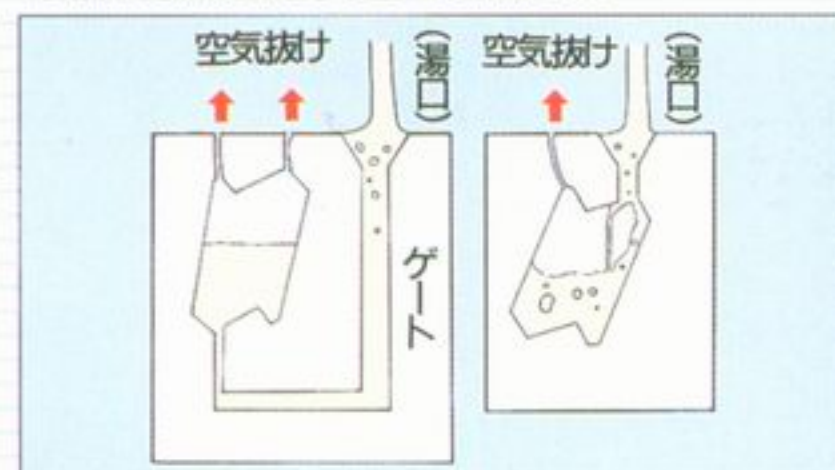
## 両面取りの型

実際に製作に入る前に、両面取りのシリコン型の仕様について説明します。



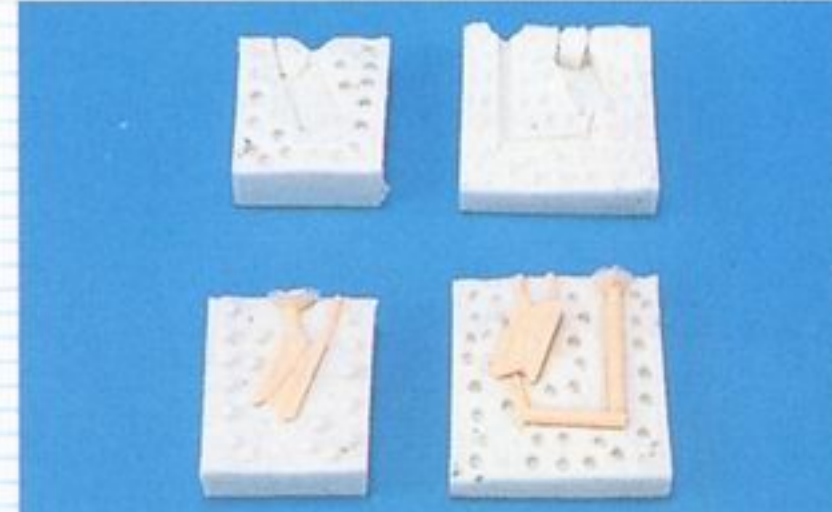
①両面取りのシリコン型と複製品

両面取りとはその名前のとおり、原型を表面と裏面からシリコンで型取りして合わせた型の中に、樹脂などを注入して複製品を作る技法です。前回紹介した「片面取り」は、片面が平らなレリーフ状のものにしていたのに対し、両面取りでは、より立体的な形状を複製できるのが特徴です。



②アンダーゲートとトップゲートI

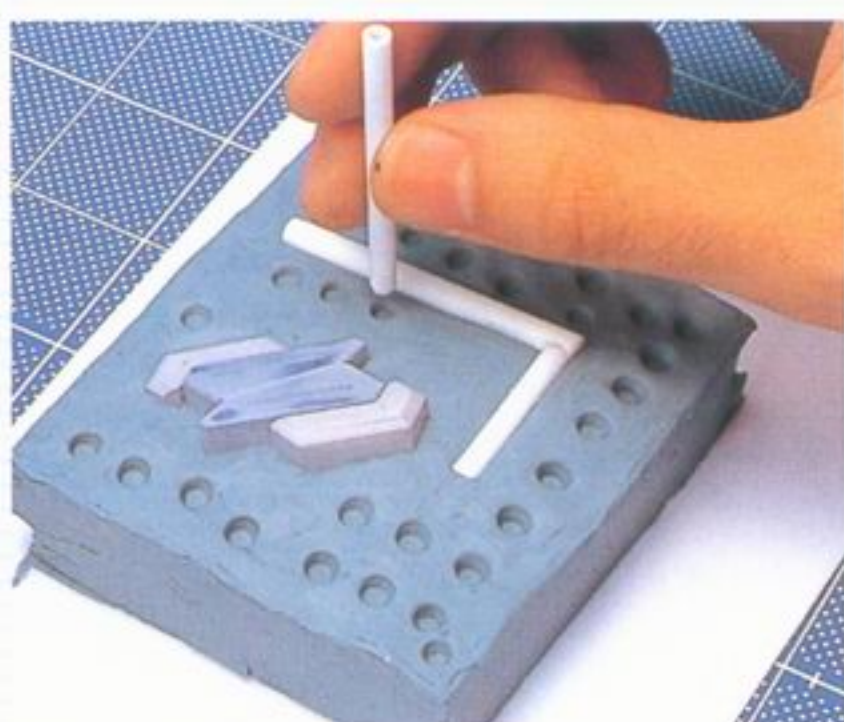
今回製作するような基本的な両面型には、樹脂の流し込み方の違いで、大きく分けてふたつの種類があります。図の左側がアンダーゲート式、右側がトップゲート式です。シリコン型のパーツ部分に、樹脂が下方から満ちていくか上方から流れ込むかが、2種類の型の大きな違いです。



③アンダーゲートとトップゲートII

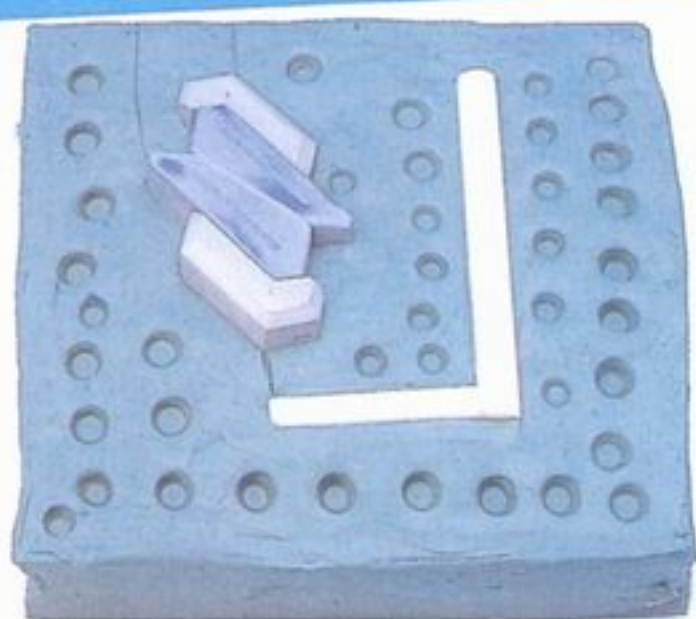
パーツ部分に、樹脂を上方から直接流し込むトップゲート式では、レジンを攪拌したときの気泡や、型の内側を流れ落ちる際に巻き込まれた気泡が、パーツの表面や内部に残りやすいのが難点ですが、型の大きさを小さめに作れるので、大きなパーツを複製する場合など、シリコンを節約したいときに便利です。また、ホワイトメタルなどの低融点の金属を流し込む場合には、アンダーゲート式よりもこちらのほうが向いています。アンダーゲート式は、湯口から流し込んだ樹脂をランナーを通して下部から型内に満たしていくので、型の隅々まで樹脂が流れ込みやすく、気泡も入りにくいのが特徴です。手流しでレジン複製を行う場合、最も適した方式といえるでしょう。今回はこのアンダーゲート式の型の製作法を紹介していきます。





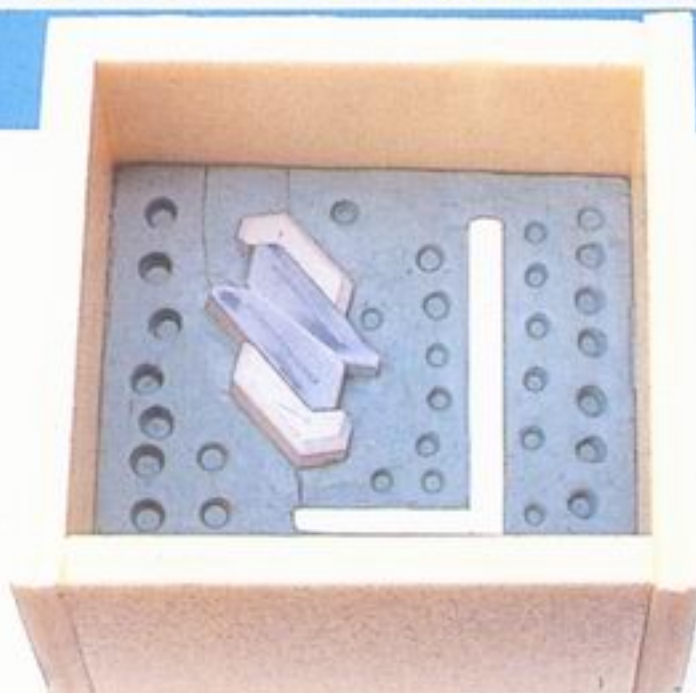
## ⑩スタンピング

粘土の表面に、ダボ穴をスタンピングしていきます。ダボ穴の位置は、原型から近すぎず、湯逃げや空気抜けが必要な場所にかからないように注意して決めます。



## ⑪油土埋めの完了

## シリコンの流し込み



## ⑫型枠を組む

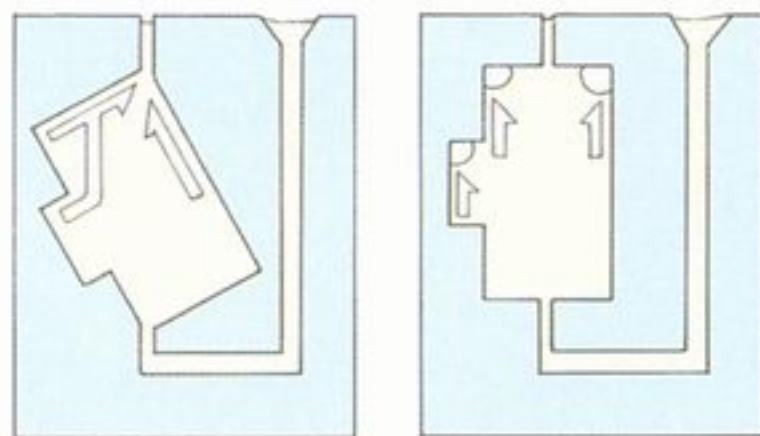
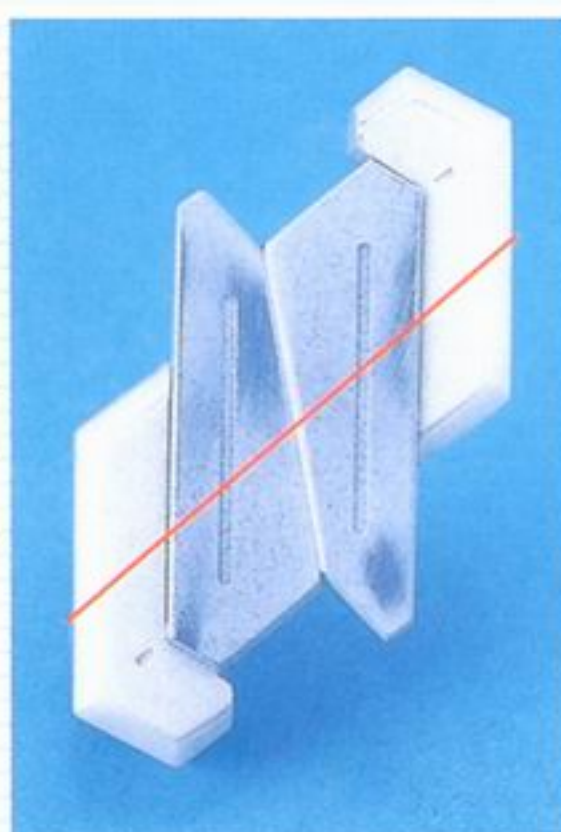
粘土の厚みの2倍に、1センチくらいの余裕を持たせた高さの枠の板を切り出し、粘土の側面に垂直に組み合わせて、隙間ができないように枠を組みます。写真のものは、前回片面取りのときにも使用した、厚めのスチレンボードを虫ピンで固定したものです。プラ板や市販の型枠ブロックを使ってもいいでしょう。

今回使用したのは、信越化学工業の「KE-17」です。比較的硬めのシリコンで、複雑な立体や逆テーパの強い原型には向きませんが、型ズレが起きにくく、両面型取りの入門用には適したシリコンです。



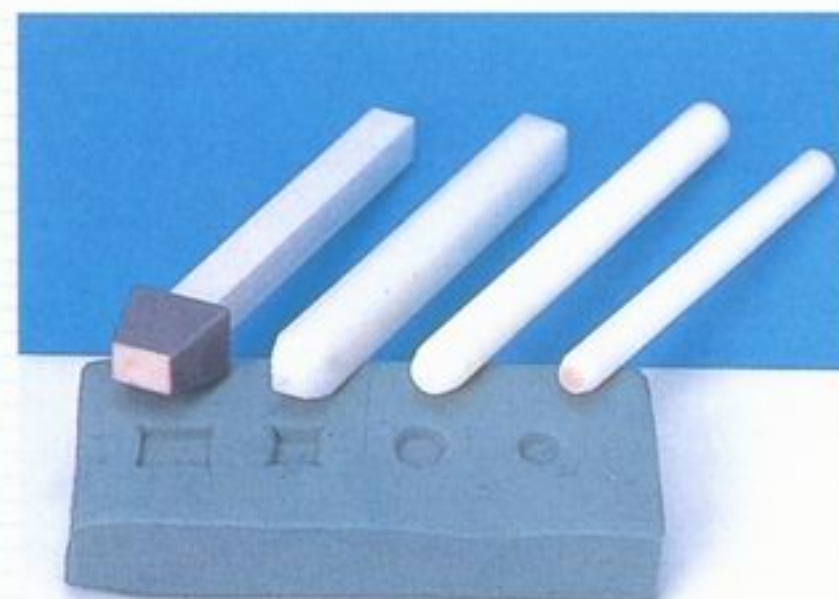
⑫使用したシリコン

⑫油土埋めのラインとディテール  
写真のように、ディテールの入っている部分に油土埋めのラインを設定してしまうと、それがそのまま複製品のパーティングラインとなり、あとの仕上げ作業が困難になってしまいます。油土埋めのラインは、なるべくディテールにかからないようにしたほうがよいでしょう。



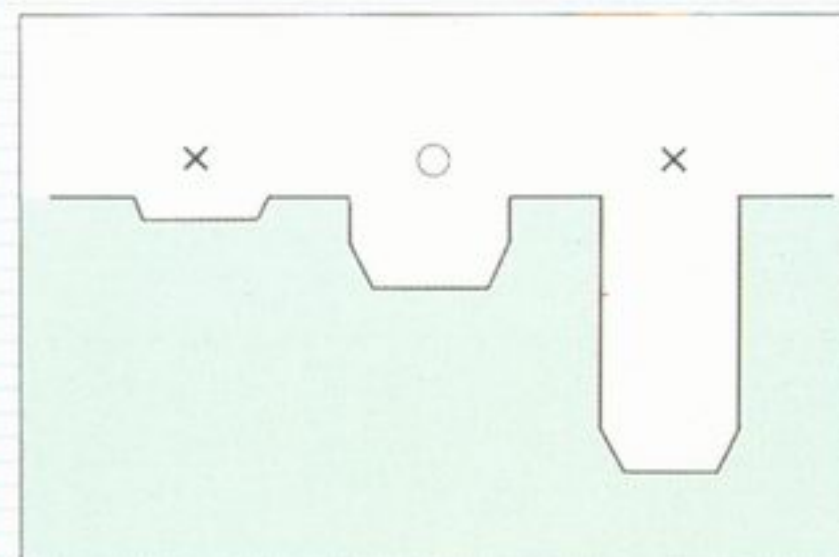
## ⑬原型を埋める角度

原型を埋める角度によって、気泡の抜けやすい型にすることも可能です。図のような断面のパーツを例にすると、型のフチに対して平行に原型をセットした場合、上の角と側面の凸モールドの角に、気泡が入りやすいのですが、原型を斜めにセットすることで気泡の通り道を作り、空気抜けから気泡が抜けやすくなります。原型の形状をよく観察して、その原型に合った位置や角度で、粘土に埋めることが大切です。



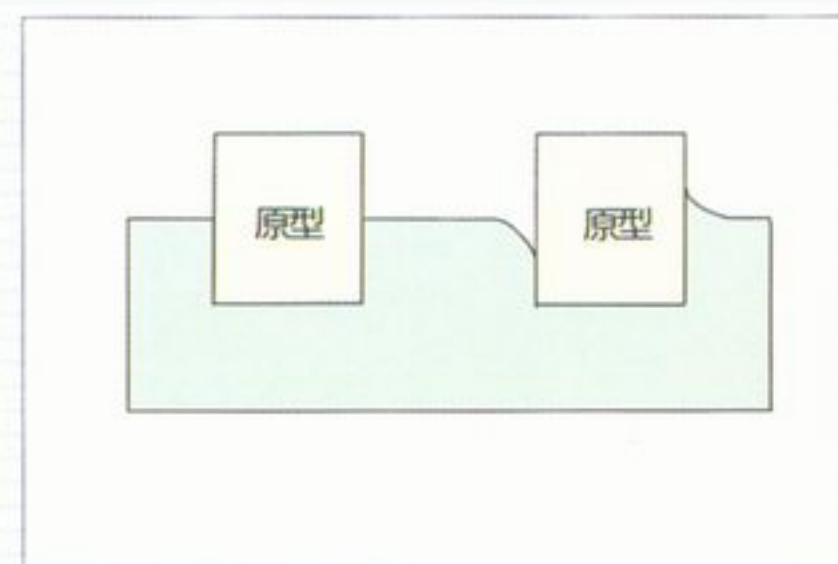
## ⑭ダボ穴を打つ(道具)

シリコン型がしっかりと合わさるように、ガイドとして粘土の表面にダボ穴を打ちます。ダボ穴を打つ道具は、プラ棒や市販パーツなどで作るといいでしょう。必ず先細にテーパのかった形状に加工します。4～8ミリくらいの太さのものを、数種類そろえておくとう便利です。



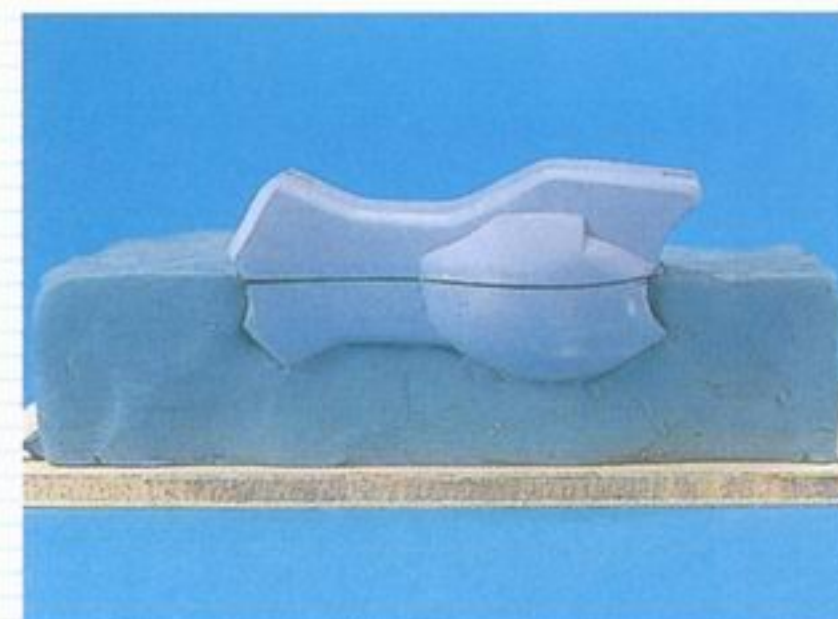
## ⑮ダボ穴の深さ

ダボ穴は浅すぎると型ズレ防止の役に立たず、深すぎるとしっかりととはまらずに型の合わせ目に隙間ができる原因になってしまいます。だいたい3～5ミリくらいの深さが適当です。



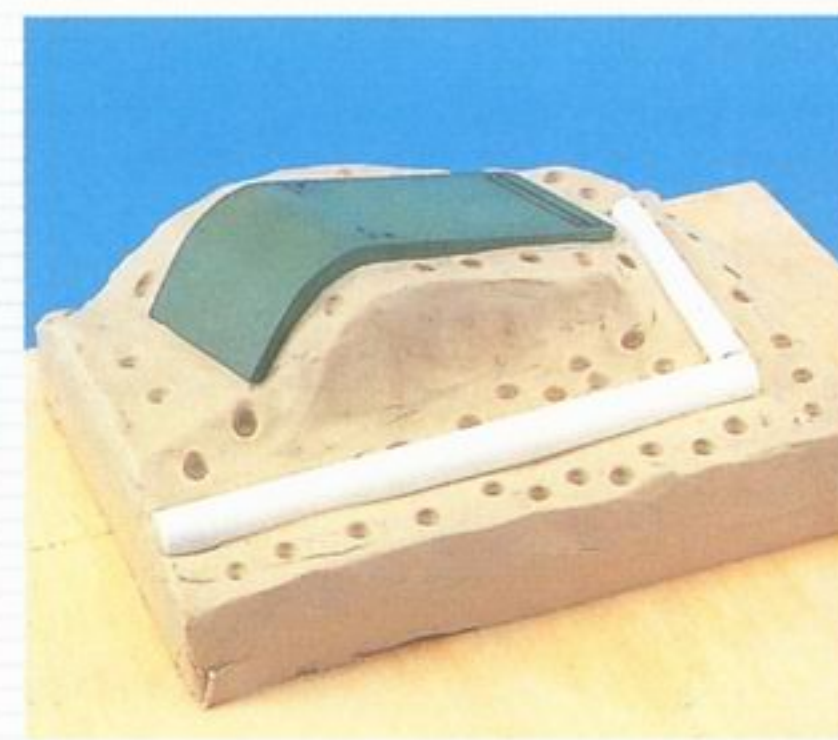
## ⑯原型と粘土の接点

図の右側のように、原型と粘土の接点に隙間があったり、逆に斜めに盛り上がっていたりすると型ズレなどの原因になり、成形品に段差が発生するなどのトラブルが起きやすくなります。原型と粘土の接点は、できるだけ左の図のように、直角に合わさるようにします。



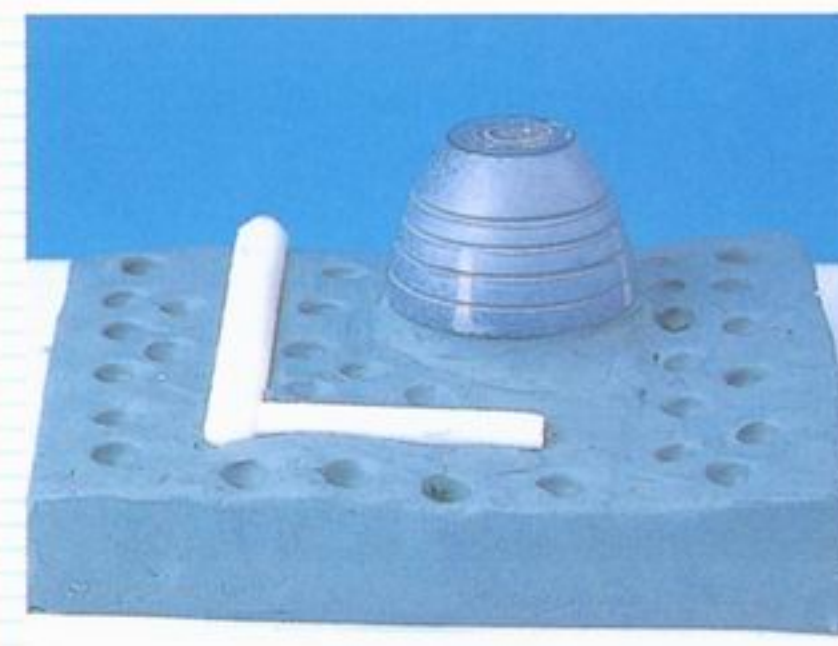
## ⑰油土埋めの基本的なライン

原型と粘土の境目のラインは、なるべくパーツの中央に、まっすぐ水平に入っているのが理想です。この状態だと、シリコン型になったときに、クランプの力が面に対して垂直に働くので、型ズレなどのトラブルが起きにくくなります。



## ⑱パーツの形状によって変化するライン

例として、以前作ったザク改のシールドを、油土埋めしてみました。このように実際の作業では、原型の形状に合わせて油土埋めのラインも変化します。型ズレには、あとで紹介するダボ穴を入れることで、対処が可能です。

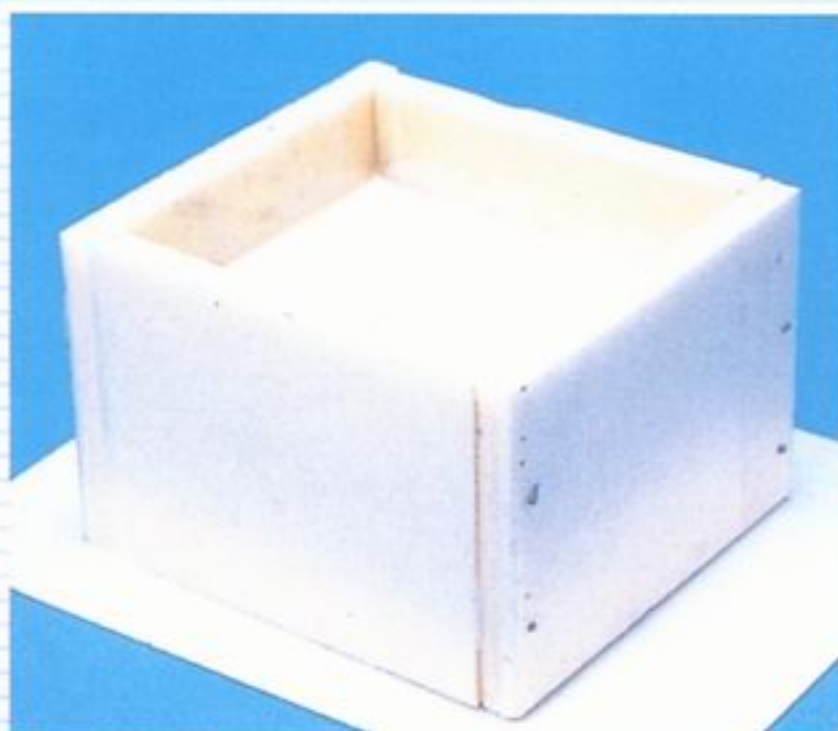


## ⑲バーニア状のパーツ

バーニアなどに見られるお椀状のパーツは、パーツの中央にパーティングラインを設定すると、抜きが難しくなってしまうので、パーツのエッジ部分にラインを設定するとよいでしょう。

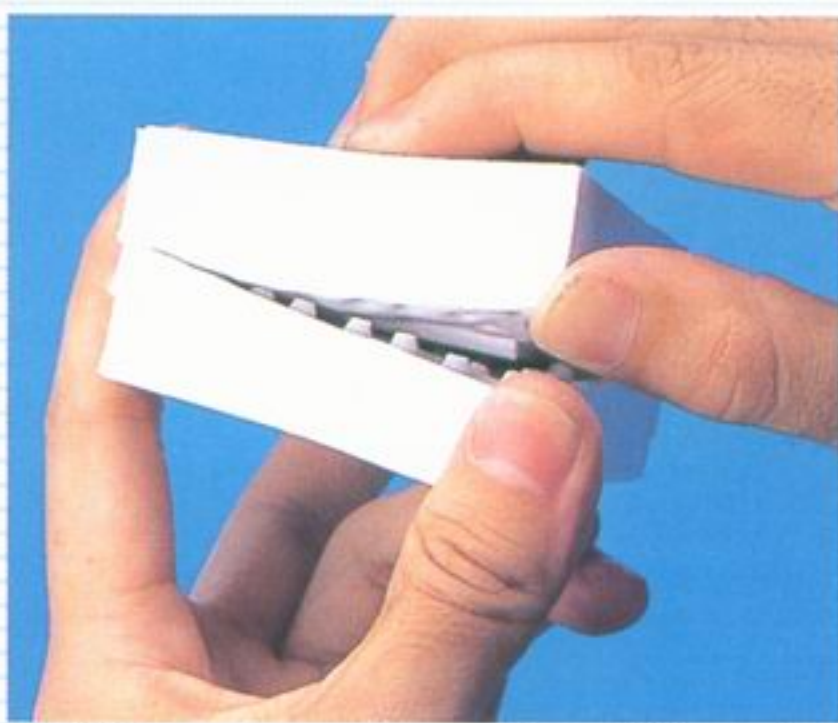


## P R E S E N T S



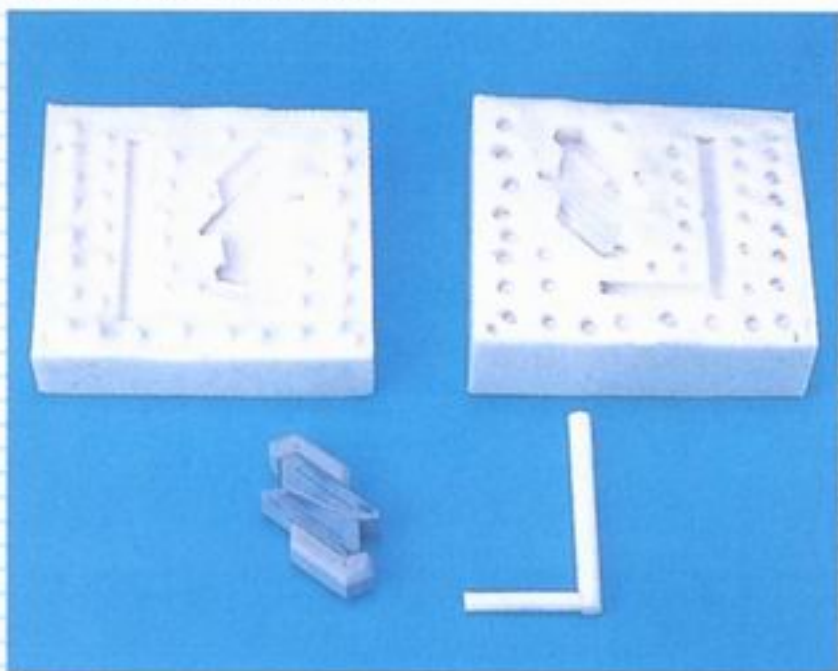
## ⑨反対側のシリコンの流し込み

再び枠を組んで、シリコンを流します。先の流し込みと同じように、筆で原型とシリコンの表面に離型剤を塗ってから流し込み、硬化するまで待ちます。



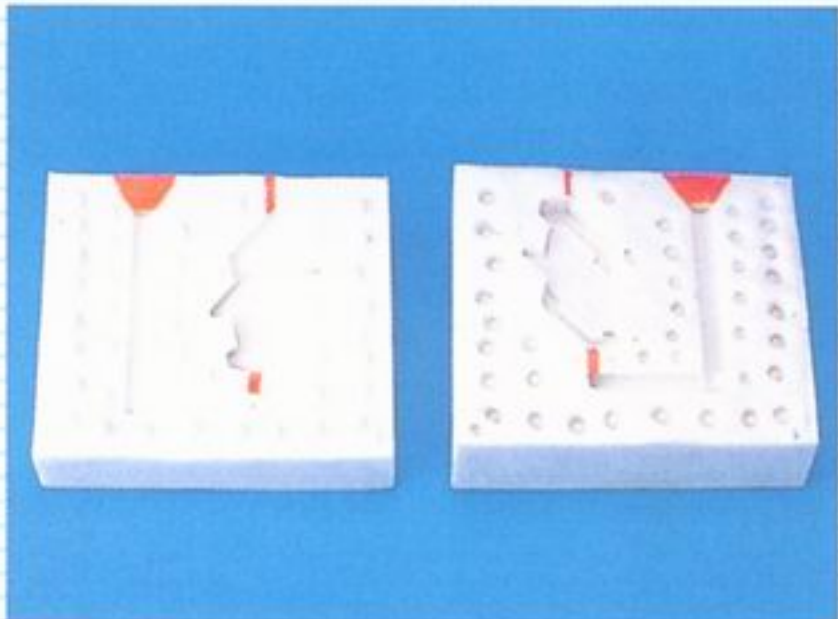
## ⑩型割り

シリコンが完全に硬化したら、枠を取り外し、型を分割します。一見、分割線がわかりにくいかもしれませんが、型の両側を持って、角から慎重に左右に開くようにすれば、きれいに分割できます。強引に開こうとすると、型や原型が壊れることもあるので、注意が必要です。



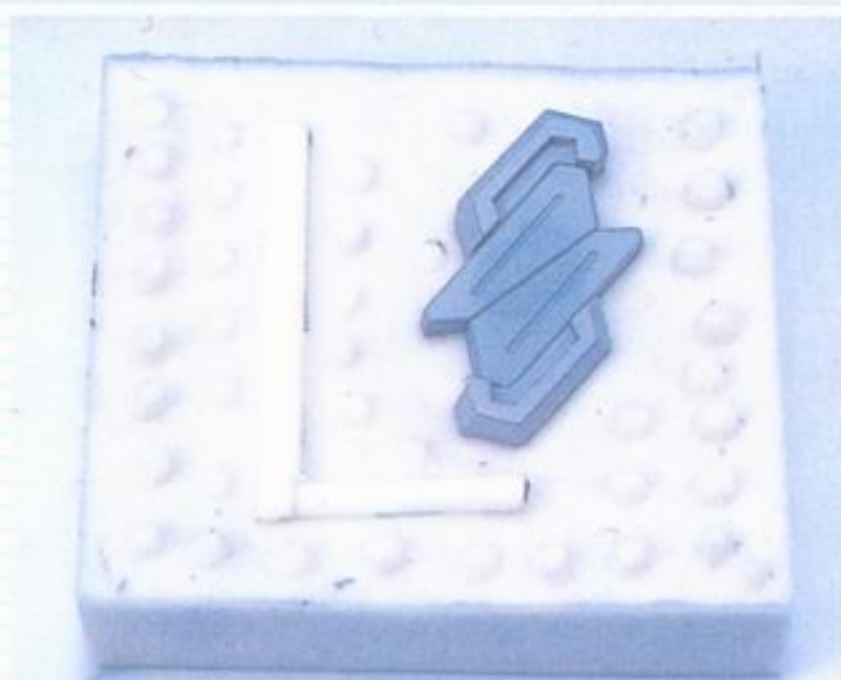
## ⑪原型とランナーの取り外し

原型とランナーを丁寧に取り外します。



## ⑫湯口と空気抜きの切り出し①

レジンを通すための「湯口」、型の中の空気を逃がすための「空気抜き」を切り出します。この型の場合、写真の赤く塗ってある部分が、切り取る箇所です。レジンと空気の通り道を考えながら、適切な場所を決めます。



## ⑬片面の完成



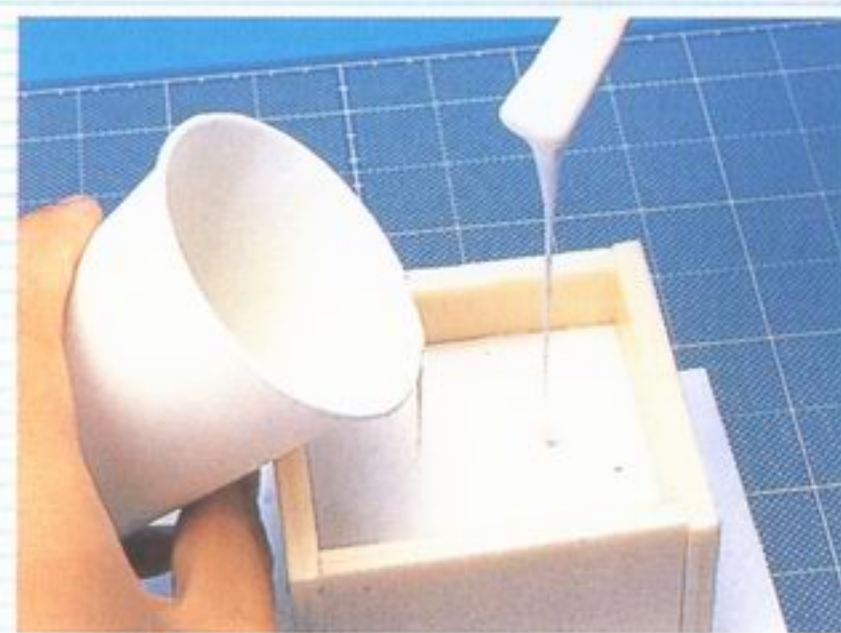
## ⑭離型剤を塗る(液状タイプ)

もう片方の面にシリコンを流し込む前に、シリコン同士がくっついてしまわないように、離型剤を塗っておきます。写真で使用的是、シリコンゴム接着防止剤(離型剤)の「バリアーコート」。原型に付かないように注意しながら、シリコンの表面に筆で丁寧に塗ります。塗り残しがあると、その部分だけくっついて、型がちぎれることがあるのでご注意ください。



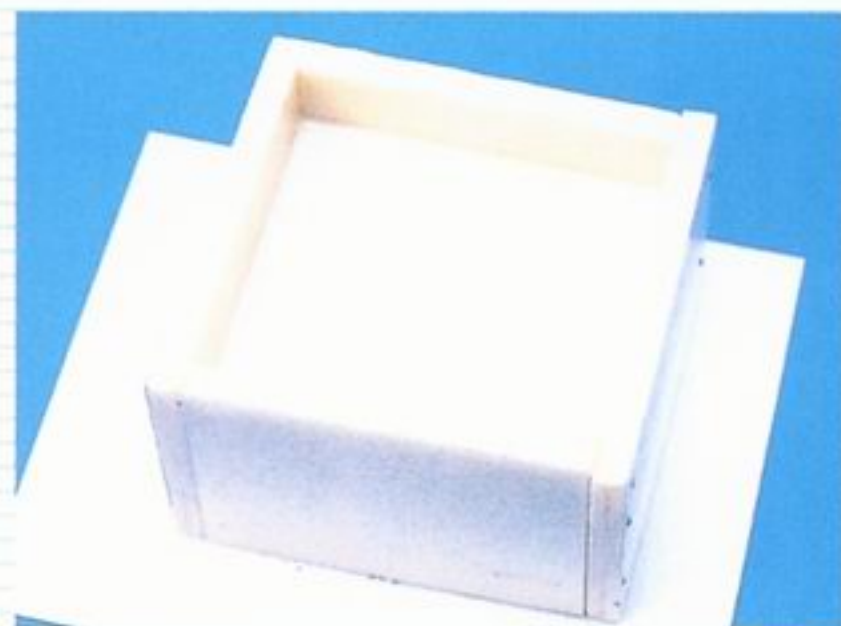
## ⑮離型剤を塗る(スプレータイプ)

写真で使用的是、「ハイ・リムーバー94」(2,700円)という、フッ素系のスプレー式離型剤です。塗膜が極薄で、モールドが埋まってしまうことがないので、原型の上からスプレーすることが可能な離型剤です。時間と手間のかかる液状タイプに比べ、作業時間が5、6秒で済むのでオススメの材料です。



## ⑯シリコンの流し込み

前回の片面取りのときと同じように、硬化剤を混ぜ合わせたシリコンを、筆で原型や粘土部分に丁寧に塗ってから、少しずつ泡の入らないように流し込みを行います。



## ⑰硬化させる

平らな場所に置いて硬化させます。完全硬化する前に触れたり動かしたりすると、型が変形する場合があるので注意が必要です。表面のベタツキがなくなったら硬化完了です。



## ⑱粘土を除去する

型枠を、一度外して裏返します。原型が外れないように気をつけながら、粘土をはがします。今回使用した「ポピーあぶらねんど」は、型離れがよいので問題ありませんが、銘柄によっては、原型やダボ穴の周りにこびりつくことがあります。そのときは、ヘラや綿棒で丁寧に取り除いてください。

## A.O.Z COLUMN

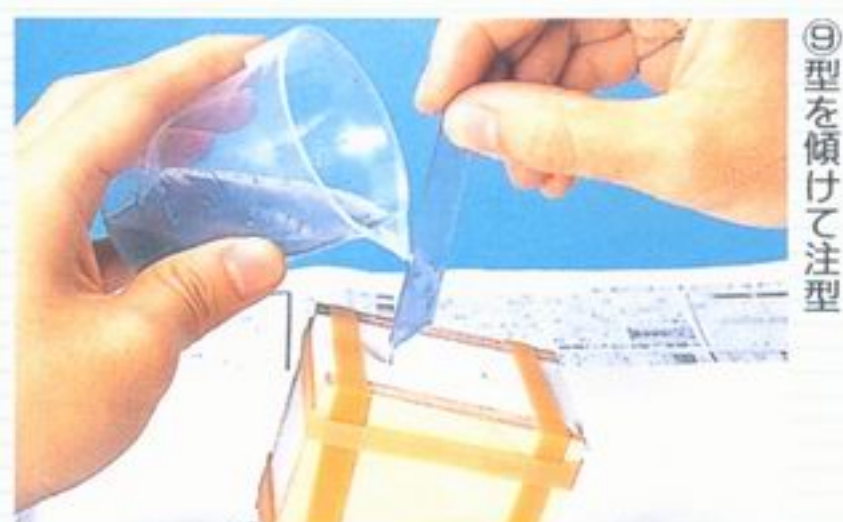
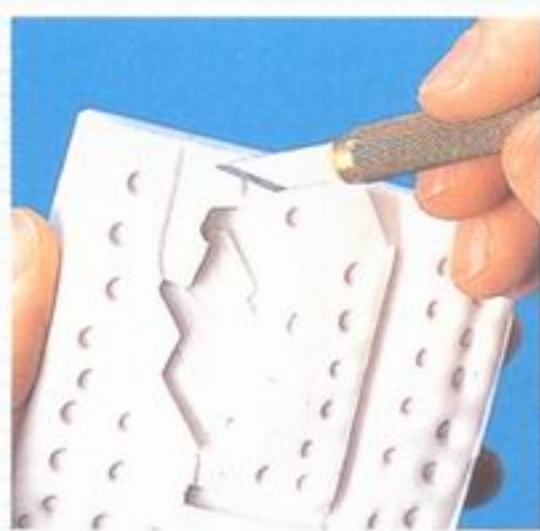
## Eバック・ホルダー

ティターンズ・テスト・チームのMSには、他の部隊では使用されていないオプション・パーツ「Eバック・ホルダー」が装備されている。そもそもEバックとは、エネルギーCAP技術によってメガ粒子化する直前まで圧縮したミノフスキー粒子を蓄積したビーム・ライフルの「弾倉(他により表現がないので、仮にこう呼称する)」である。一年戦争当時、この弾倉はビーム・ライフルに内装されていた。そのためエネルギー(圧縮されたミノフスキー粒子のこと)を使い果たすと再チャージを行うまでビーム・ライフルを使用することができなかった。しかし、Eバックが開発されたことで、ビーム・ライフルはEバックを交換すれば再チャージの必要なく継続使用が可能となったのである。ティターンズ・テスト・チームではテスト段階のビーム・ライフルを使用しており、エネルギー消費率が不安定で大量のEバックを必要とするため、Eバック・ホルダーにより大量のEバックを携行している。





⑧型の修正  
気泡がパーツに残らないように、湯逃げを追加します。気泡の入ってしまった部分から、型の上部にV字に溝を切ります。切りすぎると修正ができないので、少しずつ慎重に刃を入れ、再度レジンを注型してテストします。



⑨型を傾けて注型

気泡の入る場所によっては、湯逃げを追加しなくても、型を傾けるだけで気泡が入らなくなる場合もあります。型と気泡の入ったパーツを観察して、どの方法が適しているか判断してください。

⑩型修正後のパーツ  
湯逃げを追加したことで、気泡のないきれいな複製パーツが、できあがりました。



#### ⑪仕上げをして完成

湯口、湯逃げ、空気抜き、バリなどをデザインナイフやヤスリで仕上げて完成です。右が原型、左がレジンで複製したパーツです。

### チェックポイント/

#### ■両面型

○型取り、複製工作の基本。

○片面型に比べ、複製できるパーツの制約が少ない。

○応用範囲が広い。

○スクラッチの技法として考えた場合、時間の節約や、パーツの均質化など利点が多い。

×片面取りの複製に比べ、型製作の難易度が高く、製作時間も多くなる。

#### ■トップゲート式の型

○比較的少ないシリコンで製作が可能。

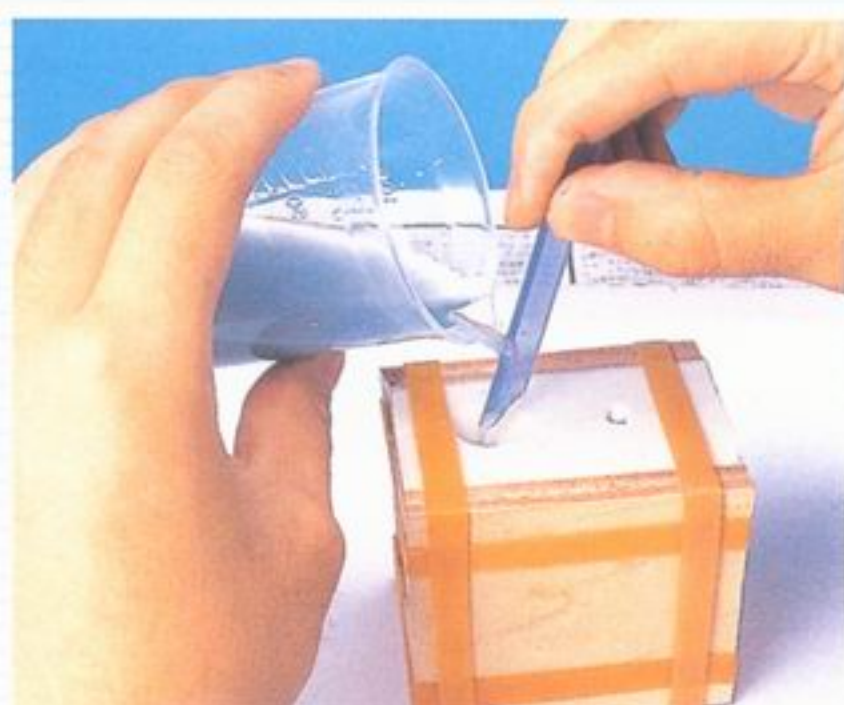
○ハイメタルなど低融点金属の流し込みに向いている。

×気泡が入りやすい。

#### ■アンダーゲート式の型

○気泡の混入が、トップゲートに比べ少ない。

△型がやや大きくなる。



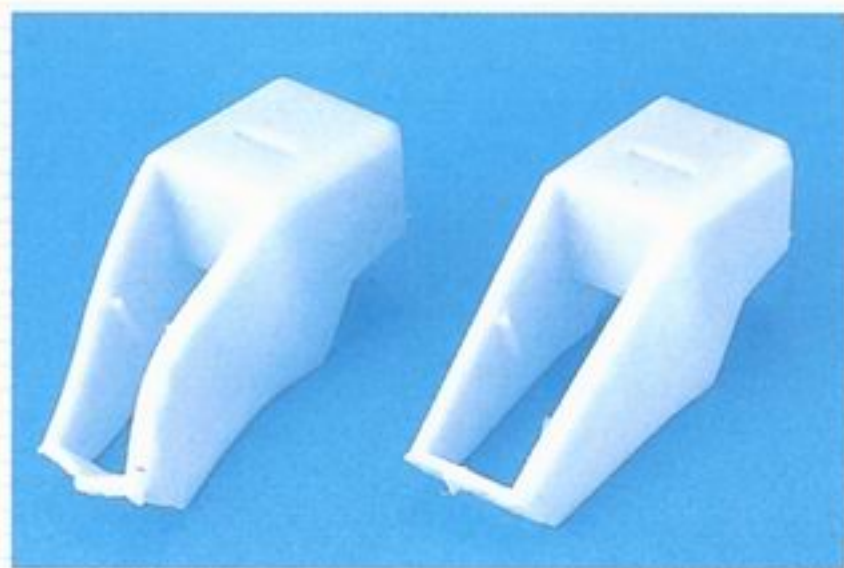
#### ④レジンの流し込み①

レジンは重量比で正確に測り、気泡ができないように速やかに混ぜ合わせ、静かに型に流し込みます。今回使用した樹脂は、ウェーブの「HGキャストA、B(ホワイト)」にウレタントナーを混ぜてライトグレーにしたものです。レジンに色をつける方法については、次回以降に紹介しましょう。



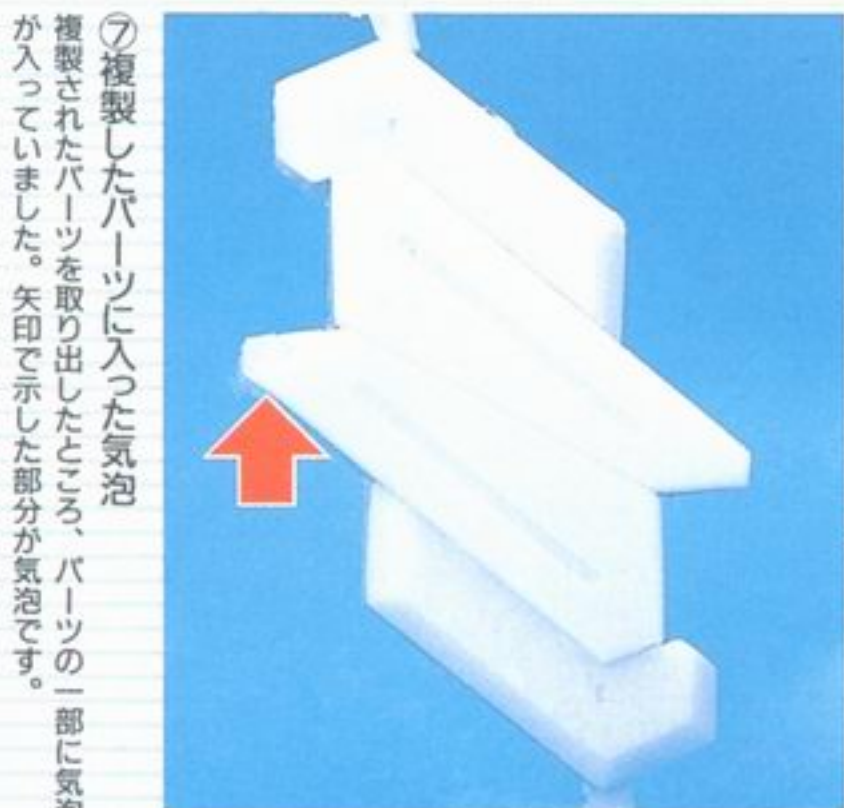
#### ⑤レジンの流し込み②

湯口と空気抜きの両方からレジンが確認できれば、型に適切な量のレジンが注入された印です。レジンが硬化するまで待ちましょう。



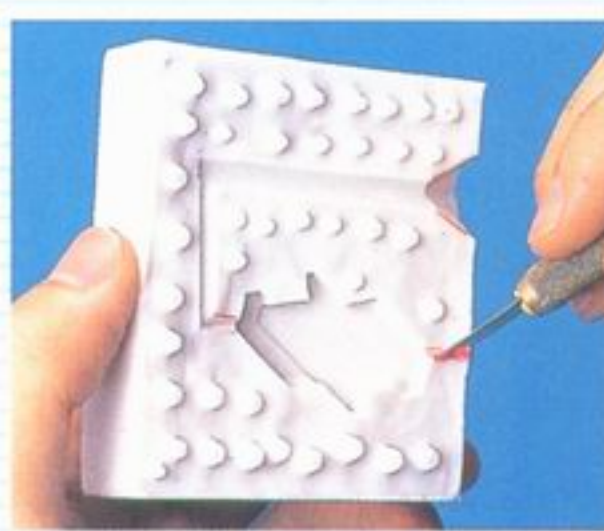
#### ⑥レジンの硬化

レジンの硬化時間は、パーツの肉厚によって異なります。大型のムクのパーツの場合、硬化時の発熱量が多いので、短い時間で完全に硬化しますが、肉厚の薄いパーツでは発熱量が少ないので、完全硬化までに時間がかかります。写真は、左側が型から早く取り出してしまった失敗例です。

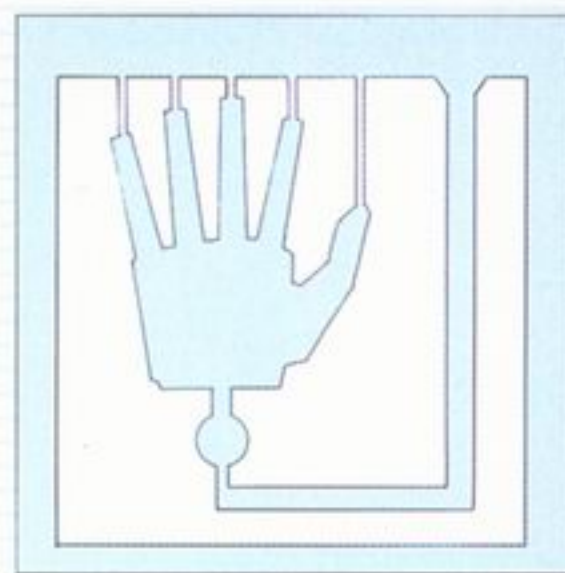


⑦複製したパーツに入った気泡  
複製されたパーツを取り出したところ、パーツの一部に気泡が入っていました。矢印で示した部分が気泡です。

⑬湯口と空気抜きの切り出し②  
デザインナイフや、彫刻刀で切り出します。パーツの部分を必要に切りすぎたりしないように慎重に作業しましょう。



⑭空気抜き図解  
空気抜きの数は、パーツ形状によって変わります。図は、手首パーツをアンダーゲート式で製作した場合の例です。この場合、各指ごとに空気抜きを設ける必要があります。



## レジンの注型

ここからは、完成した型にレジンを流し込んで、複製品を作る工程を紹介します。

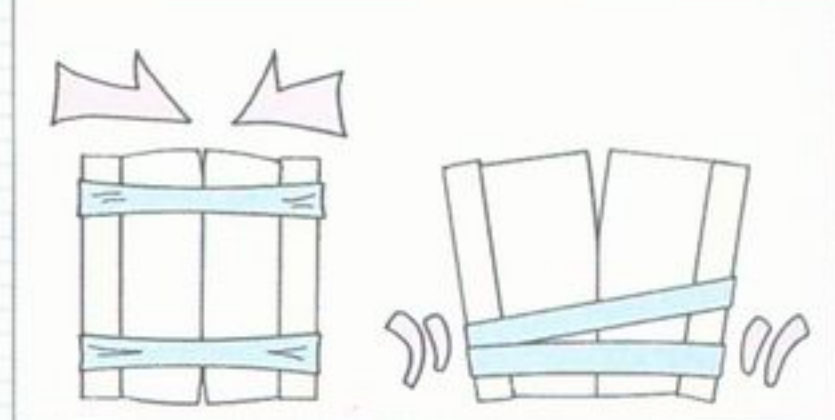


①離型スプレーの使用

シリコン型でレジンの注型を、複数回繰り返すと、レジンに含まれる溶剤や硬化時の反応熱によって、シリコン型のレジンと接触する部分が徐々に劣化します。シリコンの劣化が進むと、レジンが食いついてちぎれたり、表面が硬くなったり、変形を起こしたりします。そんな症状を緩和するのが離型スプレーです。シリコンとレジンの間にオイルなどの膜を作り、型を保護します。ただし、使いすぎると複製品への塗料の食いつきが悪くなるなどの弊害もあり、少数しか複製しない場合には、使用しなくても問題はありません。写真は、信越化学工業の「KF412SP」です。



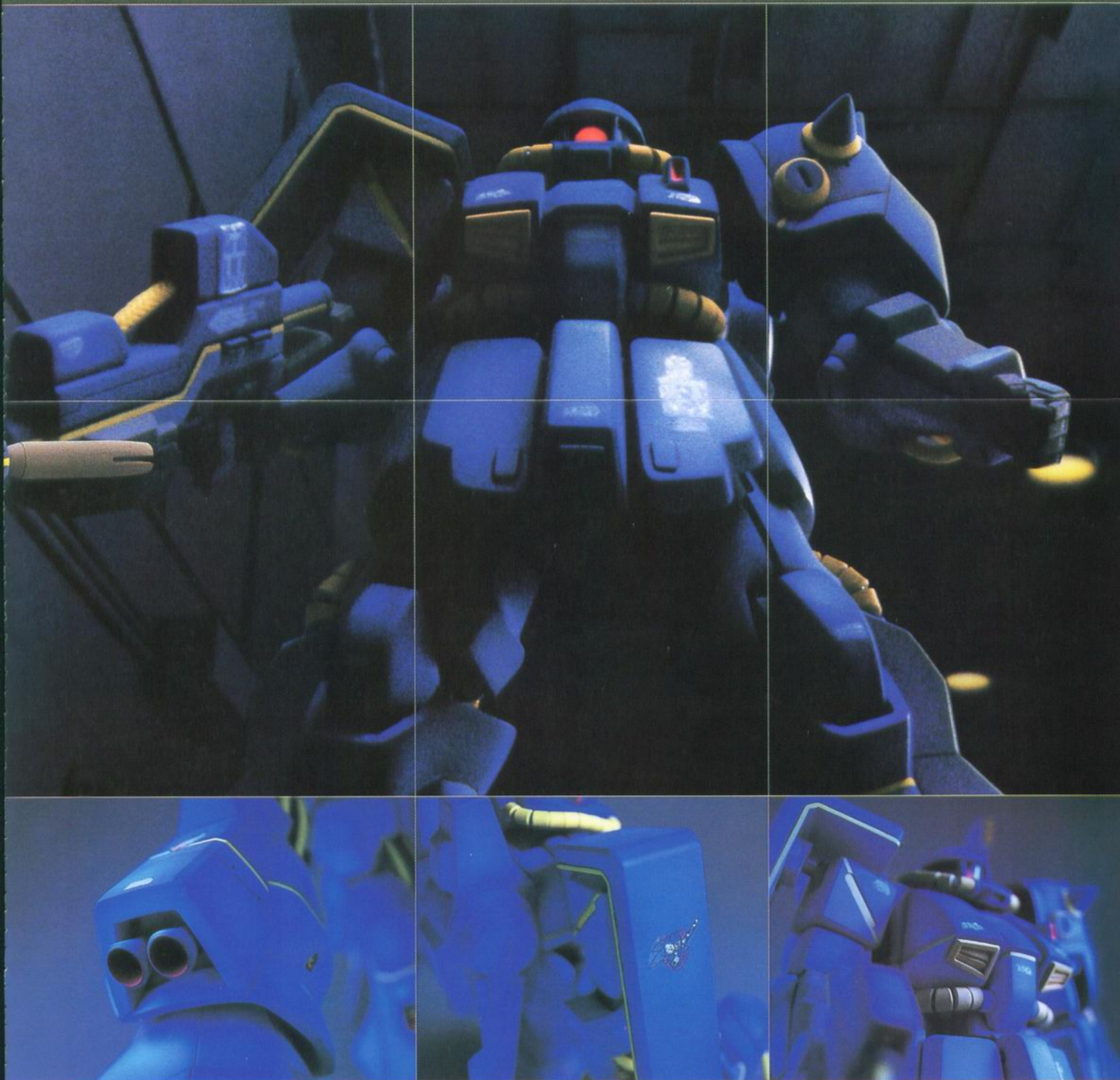
②クランプ



#### ③クランプの悪い例

クランプの力が強すぎたり、型の一部にだけバランス悪くクランプすると、型ズレやレジンの液漏れの原因になります。特に、軟質なシリコンを使用する場合は、注意が必要です。





YRMS-106  
Hi-ZACK

1/100 scale scratch build  
modeled by Nobuyuki Sakurai  
[TEAM TACO]

マスターグレード・MS-06F2を基準にして  
ハイザックを作る。









24ページのEpisode2.0のラストに登場し、マーフィーが乗ることになったハイザック先行量産型。全体のバランスやカラーリングはA.O.Z版だが、これまでの「ガンダムTR-1「ヘイズル」」や、「ジム・スナイパーⅢ」のようなA.O.ZオリジナルMSではなく、基本的には『Zガンダム』本編に登場していた機体と同じもの。藤岡建機がリファインしたこの機体を桜井信之が製作。ザク系最新MGである「ザクⅡF2」をベースに改造を行っている。

YRMS-106  
Hi-ZACK



## YRMS-106ハイザック先行量産型

1/100スケールスクラッチビルド

製作・文:桜井信之(チームTACO)

皆様お久しぶりです。実は前回ヘイズルのシールドを納品後に病で倒れ、点滴ライフを送っていたために2ヵ月ほどお休みをいただいていた次第であります。原因はパテ粉の吸いすぎで、食事はおろか水も飲めないほどに喉が炎症を起こしてしまったのです。皆様パテの粉塵には注意して必ずマスクをして下さい。マジ、怖いですよ！

## ●製作

さて、このハイザック先行量産型、当初ラフ画稿を見たときは、F2ザクⅡ(以下F2)にハイザックの外装を一回り小さく調整して“簡単・着せ替え工作”で…と思っていたのですが大間違い！結局ハイザックのキットを加工して使えた部分は胸両側、スパイクアーマーの下側、前腕、バックパックの4箇所。あとはF2の外装パーツにパテを盛って削って、盛って削って…なんだ、いつものことが…(笑)。

まず頭部。ここはハイザックともF2とも異なるデザインです。そこで全体の形状は末広がり、モノアイ開口部は前に広がるように、ハイザックの特徴をF2に盛り込む感じで製作。最も特徴的な2本の支柱をプラ板で付けば、あら不思議！ちゃんとハイザックに(笑)。

胴体は肩関節の引っ張り出し機構を残し、プラ板で箱を組みました。それに前後の外装パーツ(=ハイザックのキットをベースにプラ板とパテで改造したもの)を取り付けます。

腰のフレームはそのまま。各アーマーはプラ板とポリパテで製作しました。

太モモはF2のキットが前後分割なのに対し、このハイザックは左右から装着するようなデザインなので、一度パーツを接着し、整形後に縦方向にノコで切断。その後フレームにプラ板でリブを付け、左右からパーツをはさみ込んだときにそのリブが中央に露出するように製作。MGダンバインの脚のような作りと言えはわかりいただけますでしょうか。

スネはキットを最大限活かすように形状修整。外側ブースターはハイザックとは似て非なる物なので結局パテで新規に製作。足首はかなり大型化しました。その代わりヒザ関節で5ミリほど長さを詰めています。

ビーム・ライフルはプラ板でスクラッチ。マラサイのガレージキットを手に入れて流用しようと思っていたのに…(T-T)

Eバックは岬さんが複製してくれたパーツを分けてもらいました。お忙しい中、表面処理までしていただきアリガトウです。

## ■PROFILE

さくらい・のぶゆき…近況/私、ホビーマガジン本誌には創刊号から登場させていただいているのですが、ガンダム関係の作例はまだ5回目/花形アイテム&メインストリームからは離れた所で仕事をしていたにもかかわらず、よくこの世界で生き残ってこれたなあ…と思う今日この頃です(笑)。[フルアーマーガンダム]

## 肩アーマー

ザクと同様、左肩には格闘戦用のスパイクアーマーが装備されている。こちらは側面アーマーを延長し、攻撃だけでなく“装甲”としての防御にも配慮した造りになっている。



## 頭部

限りなくザクの面影を残す頭部ユニット。内装されているセンサー類は大战当時のものよりも高性能化しているが、構造は当時とほとんど変わっていないようである。



## 脚部スラスター

脚部側面はすべてがスラスターユニットである。非常に大きなユニットであるが、それはプロペラント、エンジンなど推進に必要なシステムが全て詰め込まれているためである。



## ビーム・ライフル

ビーム・ライフルはハイザックに制式採用が検討されている試作品である。装着されているEバックはRX-121も使用しているT3部隊共通のもの。

## カラーリングデータ

- ①青(濃)…ガンダムカラー・ブルー(23)+ガンダムカラー・ホワイト(1)  
 ②青…ガンダムカラー・グレー(11)+ブルー(23)+ホワイト(1)  
 ③グレー…#37・RLM75グレーバ イオレット+ #40・ジャーマングレー  
 ④赤…「ダンバインカラー・オーラ レッド1」+ホワイト(1)  
 ⑤黄…#58・黄橙色+ホワイト(1)  
 ⑥白…#1・ホワイト+ #35・明灰 白色:少量  
 ⑦関節…#43・ウッドブラウン+ #2・黒  
 すべてGSIクレオス「Mr. カラー」 「ガンダムカラー」「ダンバインカラー」 ※基本的にはガンダムTR-1と同じですが、ややケバめのグラデーションを入れています。

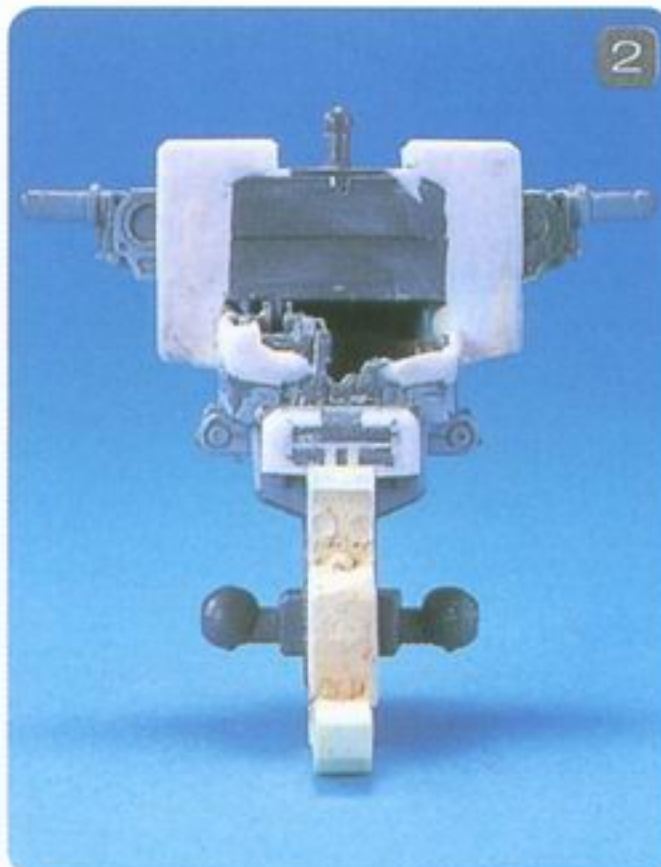
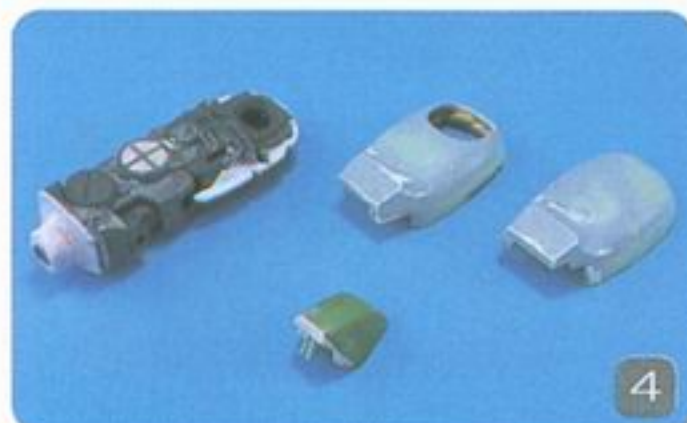


① 全身途中段階。濃いグリーンが1/100ハイザックから流用したパーツ。それ以外はMG・ザクⅡF2がベースになっていることがうかがえる。

② 本文だけではわかりづらい胴体部。要はザクⅡF2のフレームの一部をプラ板などで自作した芯に取り付けたということ。

③ 腕は肩ブロックと上腕にF2の物をそのまま使用。前腕はハイザックのものを加工しパテで製作した部分と組み合わせた。左腕のマガジンは磁石で取り付けるようにした。

④ 太モモはフレーム、外装ともザクⅡF2がベースだが、外装は分割方法を前後から左右に変更。太モモ中央にできる凹モールドは中のフレームにリブ(写真右の白い部分)を設けて再現。



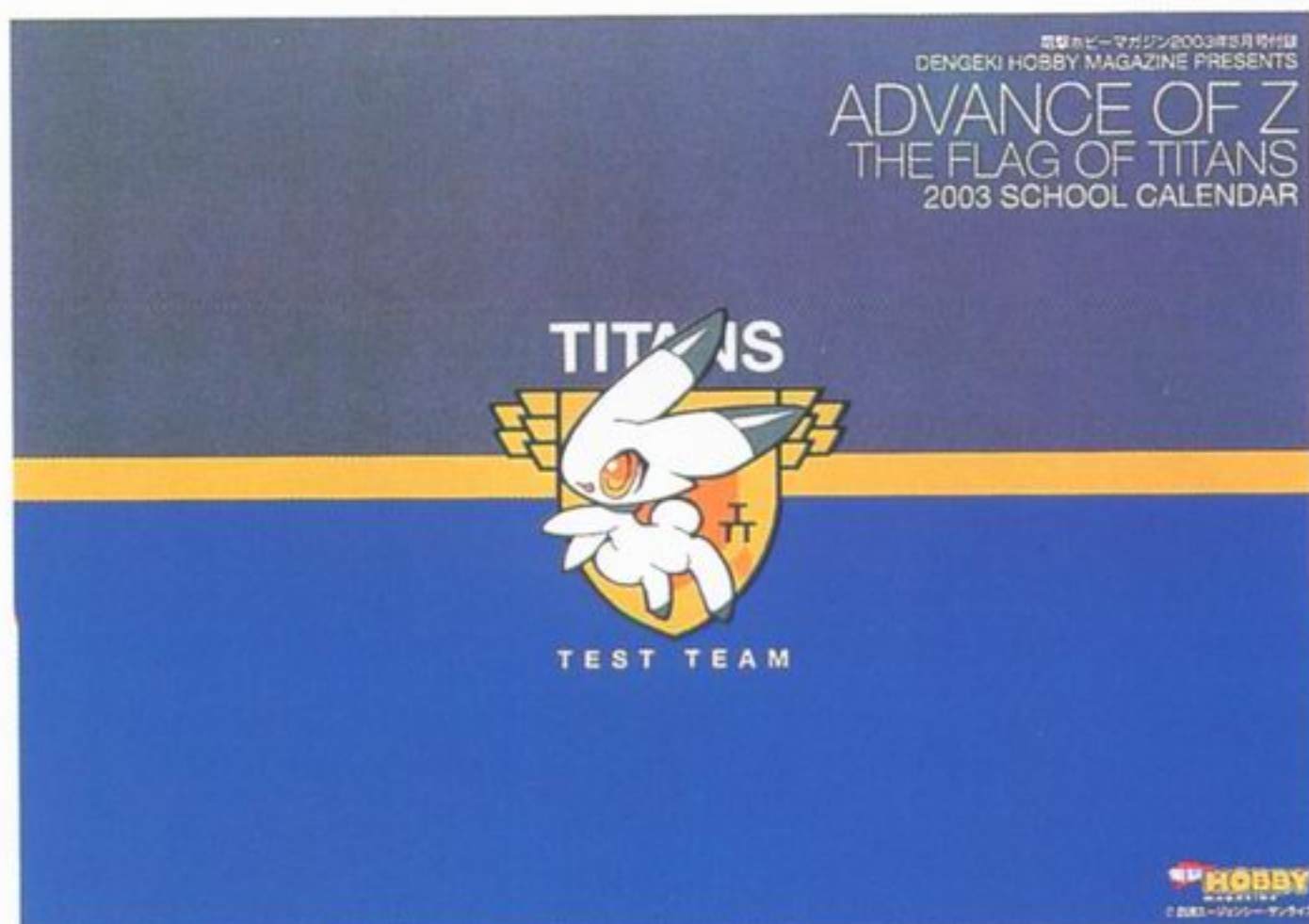


アドバンス・オブ・Z

# 電撃ホビーマガジン『A.O.Z』 関連付録コレクション

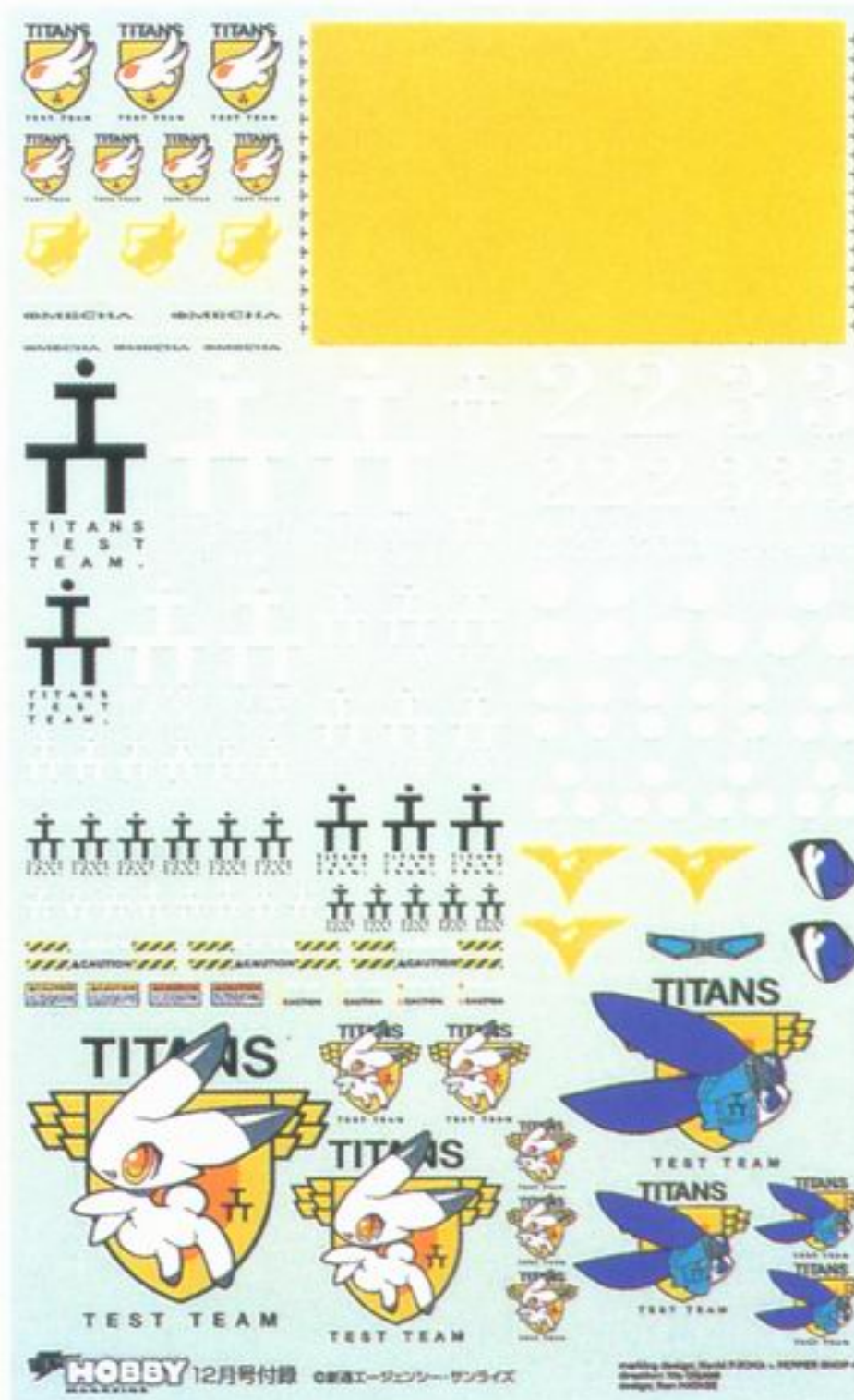
68ページで紹介している2003年1月号付録「ガンダムTR-1[ヘイズル]ヘッドパーツ」以外にも、電撃ホビーマガジンには様々な『A.O.Z』付録がついてきた。ここでは2003年5月までに付録となったものを紹介する。

※これらの付録が付いている電撃ホビーマガジンは現在入手困難になっています。



2003年5月号付録  
「アドバンス・オブ・Z」  
特選CGカレンダー

藤岡建機のイラストと本編で使用されたCG特撮が満載のスクールカレンダー（2003年4月～2004年5月）。



2002年12月号付録 1/144&1/100スケールプラモデル用  
「アドバンス・オブ・Z」マーキングシール

手持ちのプラモデルに貼るだけでT3所属機のようなシール。ヘイズルヘッドパーツ用のカメラアイシールもついている。



「A.O.Z」関連商品 機動戦士ガンダムトレーディングカードゲーム「ガンダムウォー」

2002年11月に発売されたベースドブースター&ベースドスターター2で「ガンダムTR-1[ヘイズル]」「ジム改高機動型」「エリアルド・ハンター」が、2003年2月に発売された第10弾・刻の末裔には「ハイザック先行量産型」「ジム・スナイパーIII」「ウェス・マーフィー」「オードリー・エイプリル」が、カード化された。



2003年3月号付録  
「ガンダム・ウォー」  
プロモーションカード  
ガンダムTR-1  
(フルアーマータイプ)

コレクションするだけでなく、ルールどおり、ひとつのデッキに3枚（そろえることができれば、だが）まで入れて遊べる。

[www.jpssfmuseum.com](http://www.jpssfmuseum.com)



1/144スケールで  
A.O.Z版MSを作る。

## YRMS-106 HI-ZACK

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
"HIGH GRADE UNIVERSAL CENTURY"  
RMS-106 HI-ZACK  
modeled by Hiroshi Sato[OVER DARD]

EPISODE2.1ではジオン残党の駆るF2型ザクⅡと激闘を繰り広げた  
マーフィー小隊仕様の先行量産型ハイザック。

88~91ページではMGザクⅡF2の改造例を紹介したが、  
今月号ではHGUCハイザックをベースにした作例をご覧ください。

製作は佐藤弘が担当、HGUCハイザックをわずかな改造だけで  
A.O.Z版に近づけるためのポイントも解説しているので参考にしてほしい。





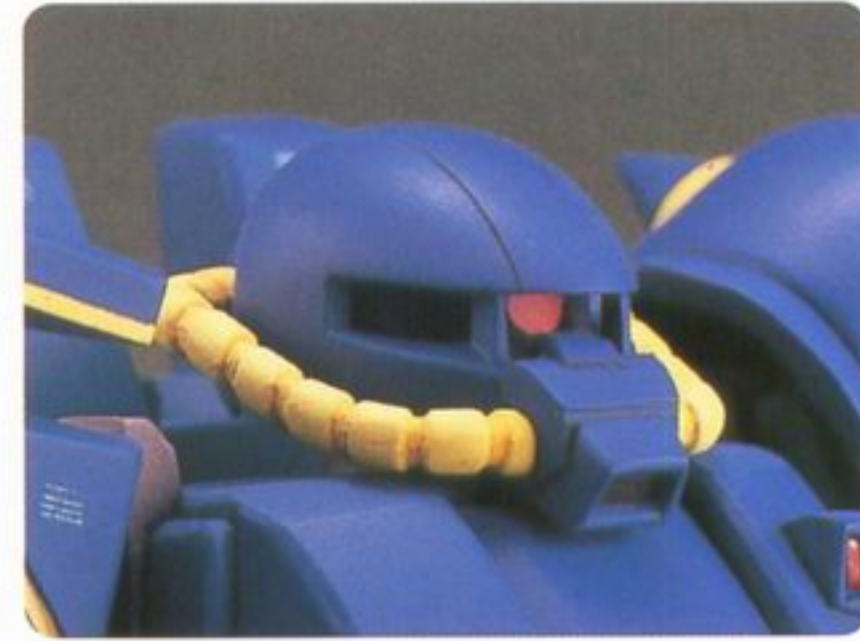
## バックパック

基本的には後に連邦軍およびティターンズで制式採用されたものと同じ構造だが、ノズル周辺に偏向板が存在していない。



## 胴体

ジオン軍のザクが開発ベースとなったことで、生産コストが大幅に軽減され、量産機としては初のルナチタニウム合金製装甲や全周モニターを採用するなど意欲的な試みがなされている。



## 頭部

限りなくザクの面影を残す頭部ユニット。内装されているセンサー類はアナハイム・エレクトロニクス社が開発したもので、大戦当時のものよりも高性能化している。



## 脚部スラスター

脚部側面はプロペラント、エンジンなどが詰め込まれた巨大なスラスターユニットで覆われている。制式採用された機体とは異なり、大腿部と動力パイプで接続されているほか、バックパックと同様、偏向板が存在していない。あくまでも補助推進システムということで作戦に応じて着脱可能な装備としての検討がなされている。



## 肩アーマー

ザクと同様、左肩には対MS格闘戦用のスパイクアーマーが装備されている。また、スパイクそのものを着脱可能なオプションとし、多目的のラッチとして使用する案も検討されていた。



## マーキング

ウェス・マーフィー隊長のパーソナルマークとしてシールドに描かれているもの。ヘイズルとは異なるデザインなので、今後も異なるデザインのものが登場する可能性も高い。今のところ誰が描いているかは不明だが、手先の器用なカールあたりがありがたいところだが…。

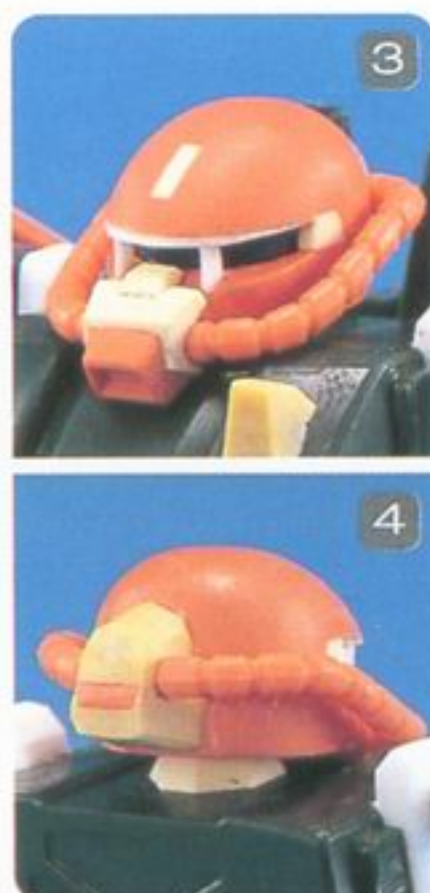


## ビーム・ライフル

RMS-106に制式採用が検討されている試作品。装着されているEバックはRX-121も使用しているT3部隊共通のもの。T3部隊では新型MSのみならず、携行武器に関する実戦データの収集・検討も行っており、後にその改良型がRMS-108など多くの機体によって使用されている。



①②全身途中写真。HG UCの「ハイザック」と「シャア専用ザク」がベースになっていることがわかる。もちろんハイザックのみでも再現することは可能。  
③④頭部はよりA.O.Z版に近い「シャアザク」をベースに製作。目つきを悪く、ややつぶれ気味にするのがポイント。  
⑤胴体はハイザックをベースに改造。腰アーマーとコクピットハッチのポリウムアップが最大の特徴。肩関節はムーバブル・フレーム風にアレンジしてある。





## YRMS-106 先行量産型ハイザック

バンダイ 1/144スケールプラスチックキット

"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"

RMS-106 ハイザック改造

製作・文:佐藤弘[オーバーダート]

今回のお題は「HGUCでもマーフィー機を作ってみよう」です。他の作例はMGが基本だったので、1/144サイズでもチャレンジするのが今回の目的。ハイザックをチョイスして説明していこうと思います。

## ■頭部

「HGUCシャアザク」の頭頂部パーツを分割部で1.5ミリほど削り、少しつぶれ気味にしたあと、ヒサシの部分に0.5ミリのプラ板を貼って、さらにモノアイ部を狭くします。あとは後頭部のパイプ接続部をカマボコ型にしたり、ダクト(クチバシ?)部のモールドをエポバテで加工します(完成品のイメージは一つ目クロがにらんでいる感じ)。

## ■胴体

大まかなところはフロントアーマーとサイドアーマーの新造ですが、塗って楽しむだけならインテイクの黄色いパーツを段付きのモールドに彫り直すだけでもバッチリOKです。作例では、ゼク・アインのように肩のジョイントが外に出たムーバブル・フレーム風に直して、ダボの位置を上にしてあります。コクピットハッチもエポバテで形状をハコ型に。あとはセンサーもそれらしく変更しました。腰のラッチはそのままなので、キットのヒート・ホークが付けられます。

## ■腕部

手首を「ハイディテールマニピュレーター」にして前腕部のポリカバーをプラ板で新造。上腕部は「HGUCシャアザク」のもの。ヒジ関節カバーを少し削れば入れられます(スパイクアーマーもシャアザクのものをエポバテでボリュームアップ)。パイプは市販のものにコトブキヤの丸ノズルを付けてディテールアップ。

## ■脚部

塗って楽しむだけならスネ側面の赤い偏向板を取り除くだけでそれらしくなっちゃいます。作例でいじったところは足首にある関節フレームのボリュームアップ。スネはキットを2個イチしてスラスターユニットを外した状態も再現できるようにしました。太ももは股関節がちょっと見えちゃったので、フレームにエポバテを被せてあります。

## ■バックパックほか

偏向板を取ってその穴を埋めただけ。

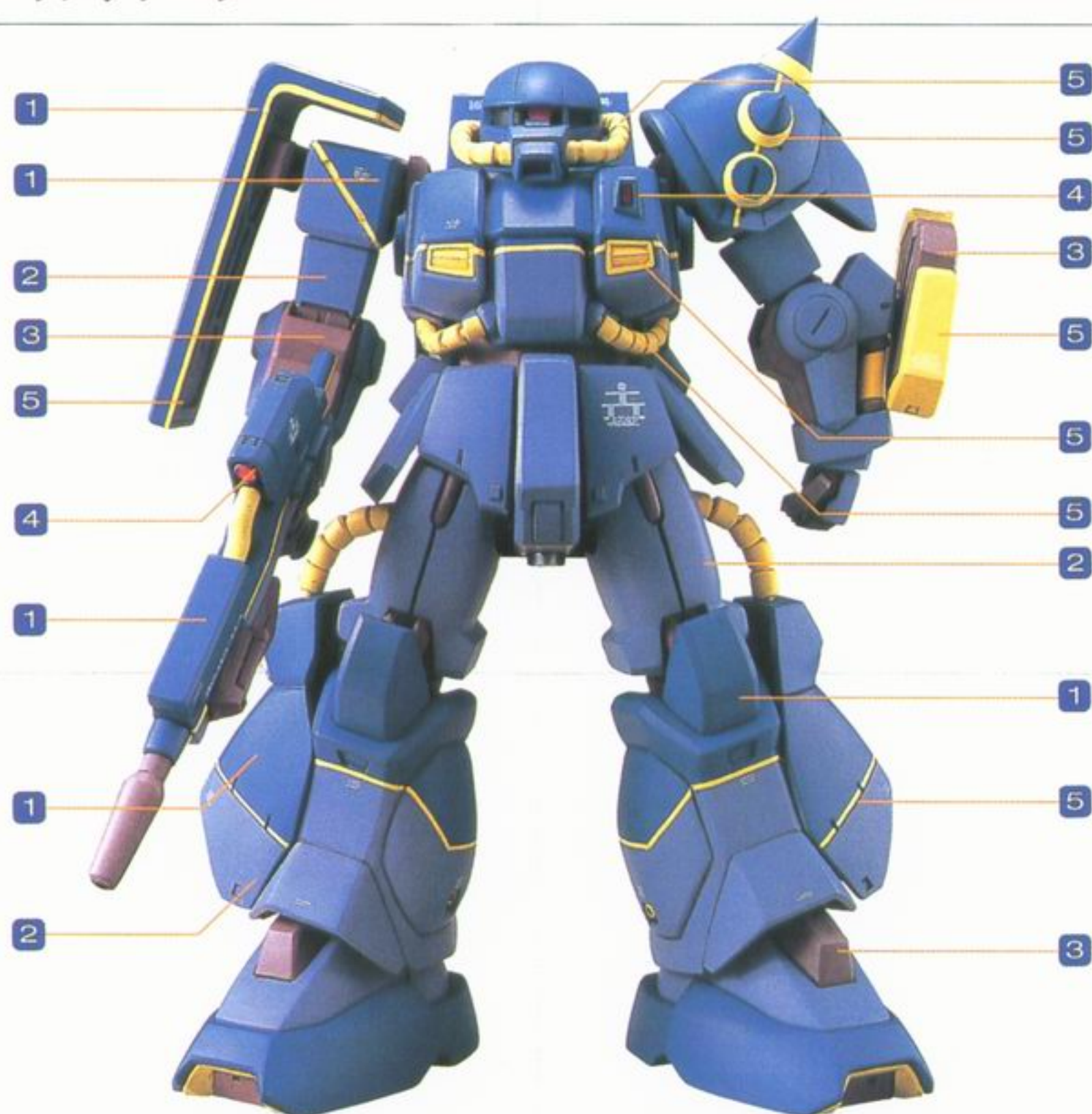
ビーム・ライフルはゼータシリーズの武器セットのものにゼータプラスの大腿部ビーム・キャノンからマズル部を追加。銃身は7ミリほど延長しました。Eバックは新造したものをリキャストして左腕のラッチ用としました。ヒート・ホークはキットのまんま。

塗装は岩田さんのヘイズルといっしょです(フレームはドムトローベンカラーのブラウン3に白少々です)。では、次の「ハイザック下の章」まで…。

## ■PROFILE

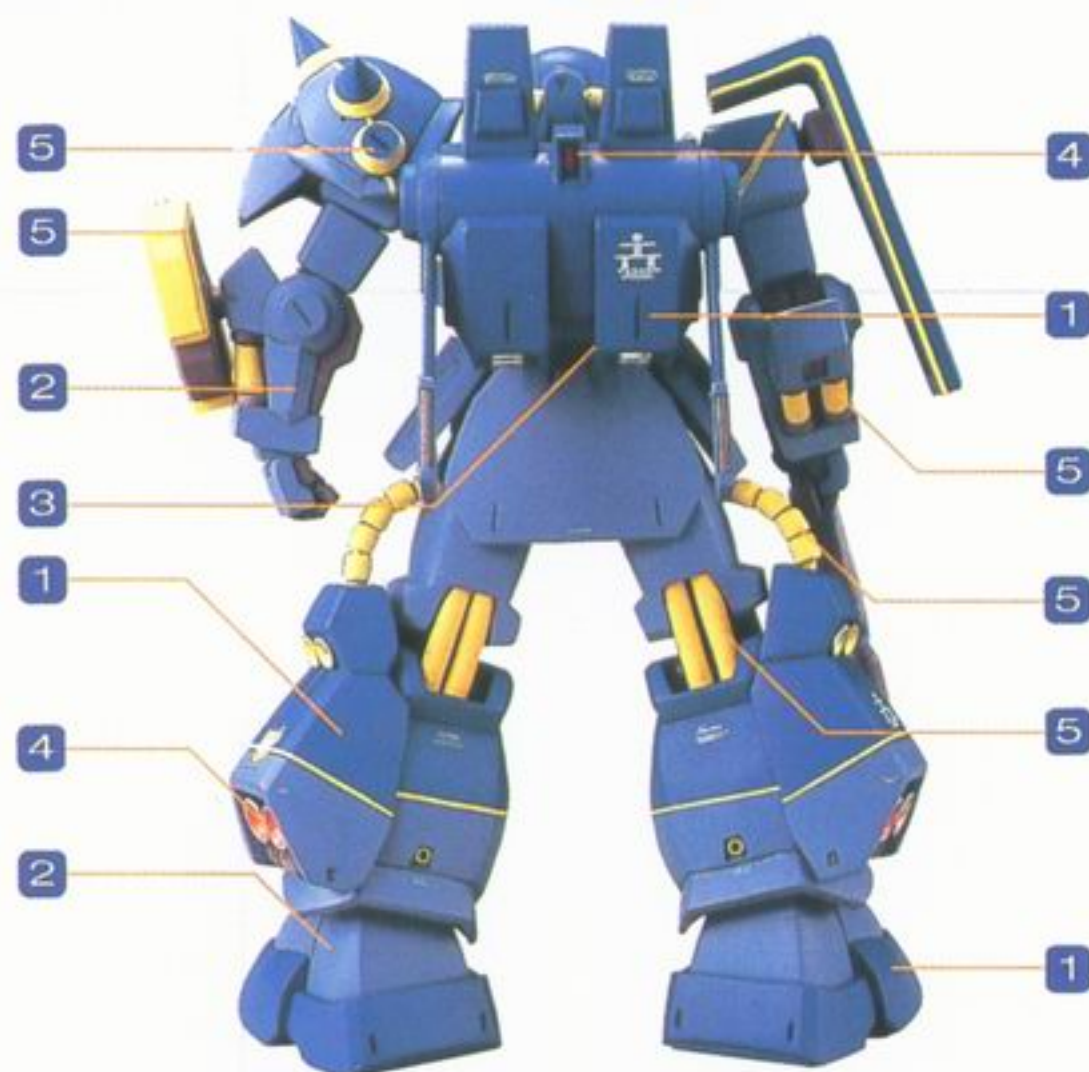
さとう・ひろし…近況/近頃の楽しみはMMBOXに掲載されている読者の意見やイラストです。自分の作ったキット(キャラ)がイラストで、とてもいい感じに描いてあったりして「あー、ライターやって良かったー」って感じで毎月楽しみ! ユタボンさま、キツちゃんさま、いつもありがとうございます。[リック・ドム]

## カラーリングデータ



- ①青(濃)…「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」  
 ②青(淡)…「ガンダムカラー・グレー(11)」+「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」  
 ③グレー…37番・RLM75グレーバイオレット+40番・ジャーマングレー  
 ④赤…「ダンバインカラー・オーラレッド1」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」  
 ⑤黄…58番・黄橙色+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

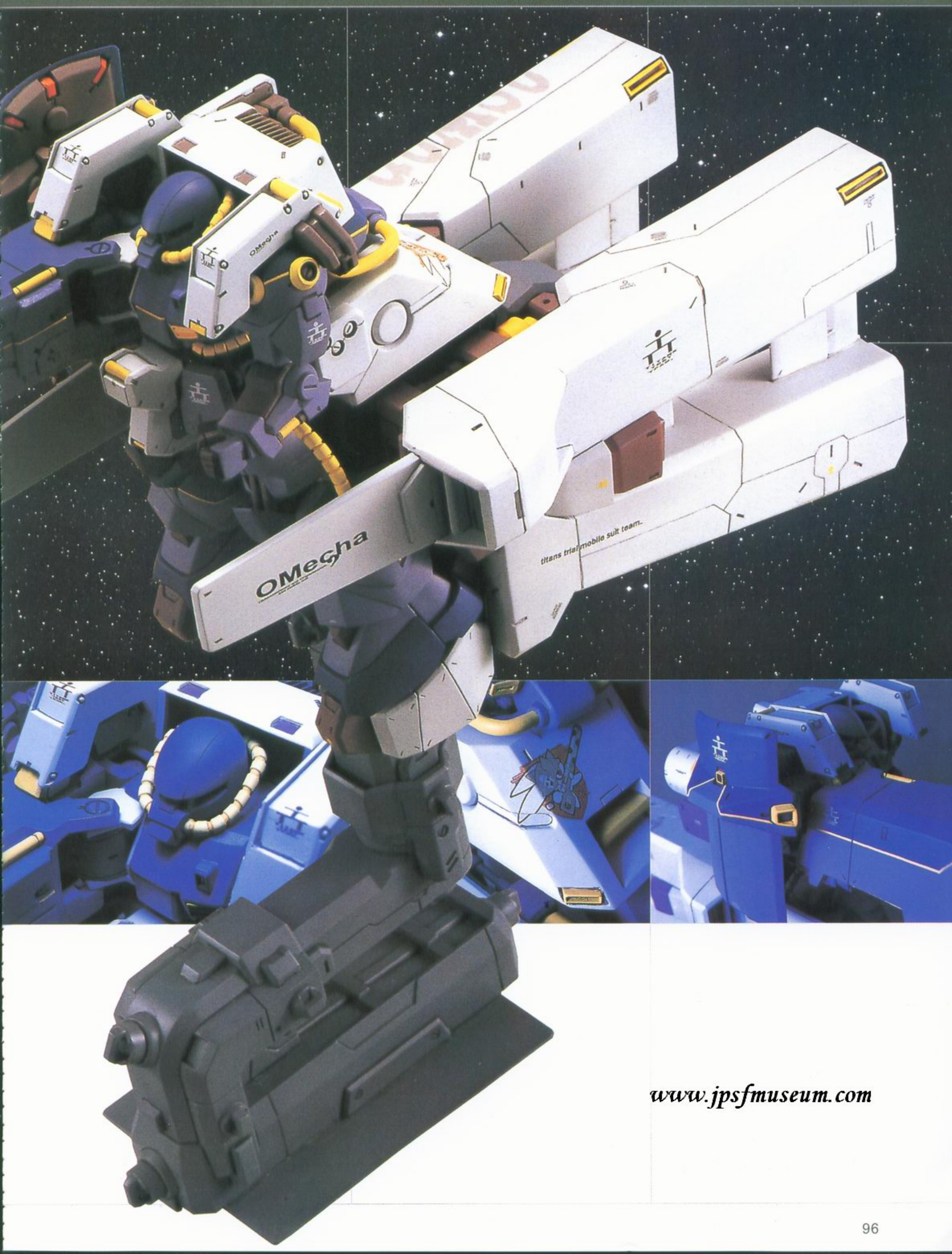
すべてGSIクレオス「Mr.カラー」「ガンダムカラー」「ダンバインカラー」を使用。



⑥スパイクアーマーはより丸みを出すため「シャア専用ザク」のものを形状変更。スパイクは複製したものを取り付けてある。  
 ⑦肩から上腕は動力パイプのモールドを削るよりも簡単だったので「シャア専用ザク」のものを加工して使用した。  
 ⑧脚部は基本的にはハイザックのものを使用。スラスターユニットを着脱式にするため、スネのパーツはキットを2個使用して左右の形状を変更している。  
 ⑨ビーム・ライフルはゼータガンダムシリーズの「武器セット」からマラサイ用を改造したもの。



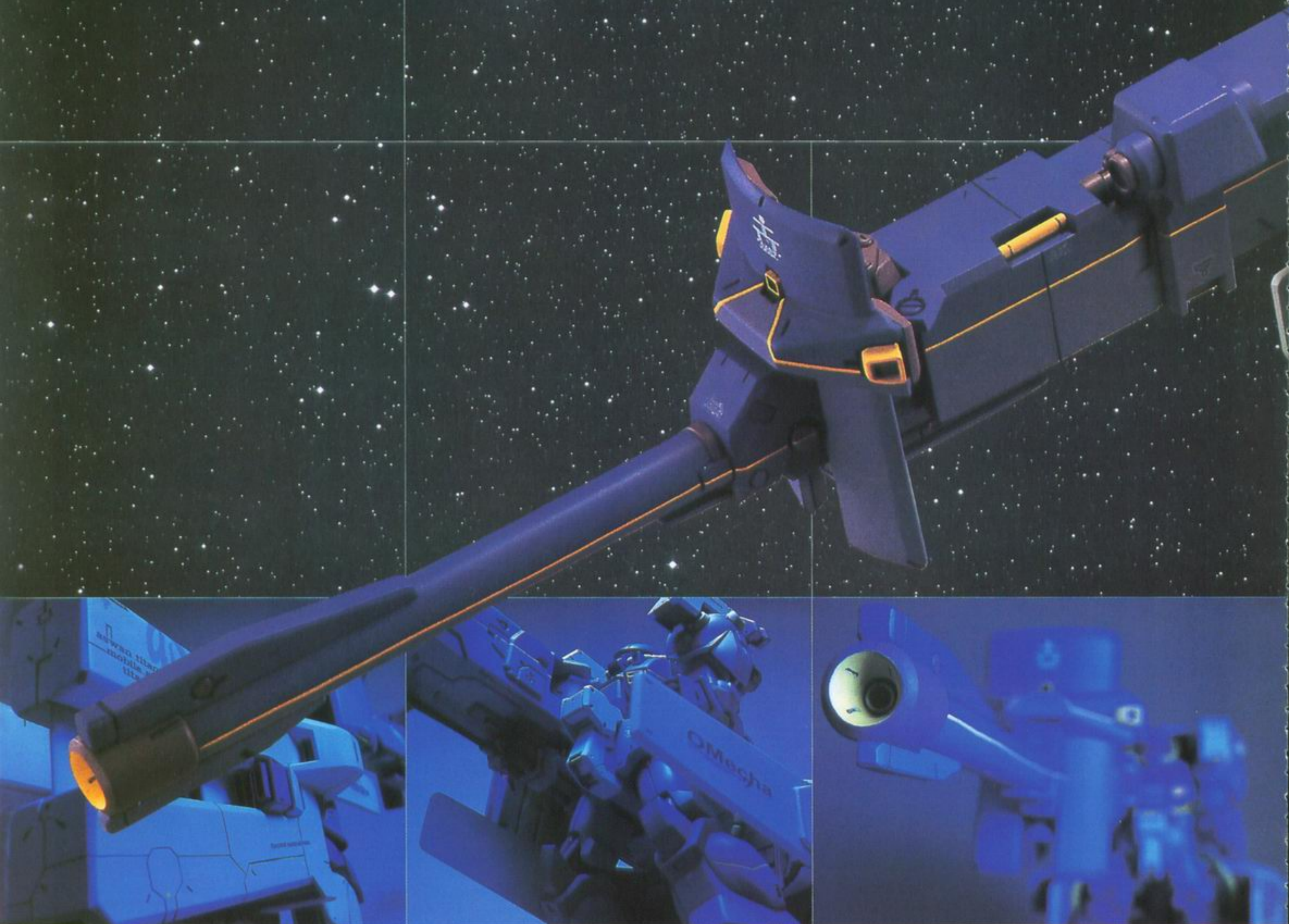




[www.jpshfmuseum.com](http://www.jpshfmuseum.com)



# マーフィー小隊のトライアル2号機を 1/144スケールで作る。



## YRMS-106+BL-85X BY-ZACK TR-2 [BIGWIG]

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
"HIGH GRADE UNIVERSAL CENTURY" RMS-106 Hi-ZACK  
modeled by Hiroshi Sato[OVER DARD]

「ハイザック+試作型高出力ロングレンジ・ビーム・キャノン」通称「ビッグウィグ」。  
ヘイズルに続き、マーフィー小隊に配備された試作実験機の第2号機となったこの機体は、  
後のメガ・ランチャーへとつながる装備である（エアリアルドやカールの乗るジムは制式採用にむけた  
評価試験機であって、最新技術試験機ではない）。  
この超大型装備を佐藤弘が製作。93～95ページに掲載されたハイザックと  
組み合わせられるように製作が同時進行で行われていたものである。





砲身部

シールドより後方の砲身には冷却システムが内蔵されている。高出力のビームは砲身の加熱が激しいため、高性能の冷却システムは不可欠である。



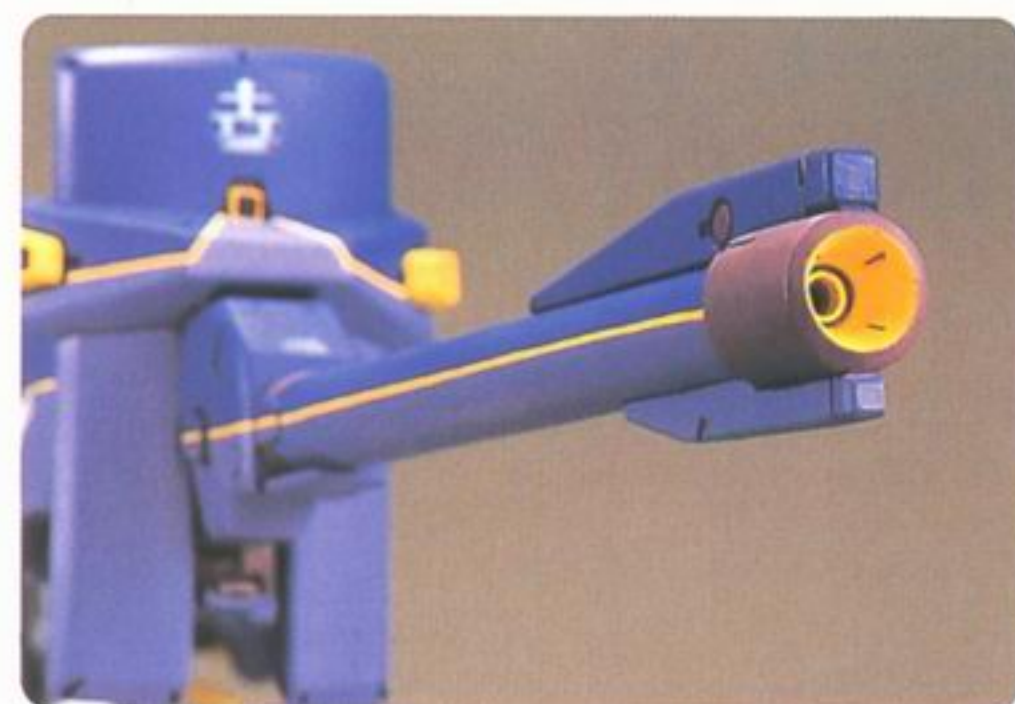
光学照準器

遠距離狙撃には欠かせない高性能センサーである。レーザー測距装置や高性能望遠カメラなどにより照準を行う。



側面シールド

このシールドには姿勢制御バーニアが内蔵されており、防御以外の機能を持った多用途シールドとなっている。



ビーム発射口

このビーム・キャノンは遠距離狙撃を目的としたものであり、発射口の口径は通常のビーム・ライフルとあまり変わらない。

YRMS-106+BL-85X  
BY-ZACK TR-2  
[BIGWIG]

www.jpssfmuseum.com



## GUNDAM WAR PROMOTION CARD

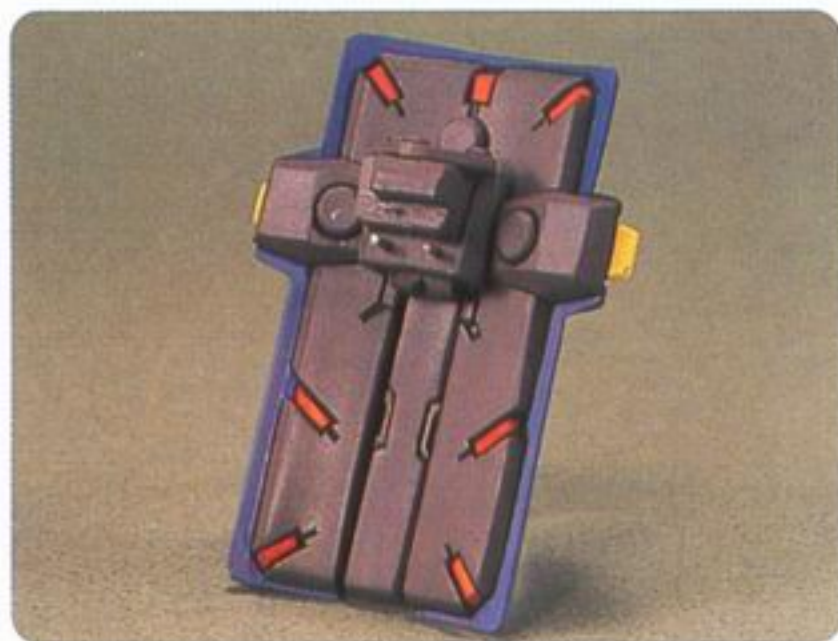
### RX-121 ガンダムTR-1(フルアーマータイプ)封入!

バンダイのトレーディングカードゲーム「ガンダムウォー」の最新セット、「ベースドスターター」「ベースドブースター2」に、「A.O.Z」のキャラクターとモビルスーツが登場しているのはご存知の通り。それに続いて今月号では、電撃ホビーマガジン限定のオリジナルプロモーションカードが封入されているぞ。カードになったのは、ガンダムTR-1の別形態となる「ガンダムTR-1[ヘイズル](フルアーマータイプ)」だ。ティターンズ勢力初のプロモーションカードとなるヘイズルは、なかなか強力なユニットだ。ルールどおり、

ひとつのデッキに3枚まで入れられるので、うまく使ってデッキを強化しよう。これまでにカード化された「エアリアルド・ハンター」、「ガンダムTR-1[ヘイズル]」、「ジム改高機動型」などと組み合わせて、黒(ティターンズの属性色)を主体としたティターンズデッキを組むのも夢じゃないぞ。

www.jpssfmuseum.com





シールド裏面

機体とのジョイント・パーツがわかる。ジョイント・パーツ両側の出っ張りは姿勢制御バーニア用のプロペラントタンクである。



肩部ロック・アーム

折りたたみ式の銃身を固定するための保持アーム。写真はそれを上部に起こした状態。

# YRMS-106+BL-85X BY-ZACK TR-2 [BIGWIG]



背面ジェネレーター

高出力ビームを生み出すため、2基目のジェネレーターとしてハイザックの胴体部だけを背負っている。幾つもの動力パイプが砲につながれているのがわかる。



インテーク

スラスター・ユニット前面に設けられたインテークは“ヘイズル”の装備であるブースターポッド前面に付いていたものと同じ。ビッグウィグにはブースターポッドのジェネレーターが2基使用されている。



5

①-④全身途中段階。中央の「HGUCハイザック」を除くとその大半がプラ板を主体とした工作であることがわかる。この後、デザイナーである藤岡建機の監修によるバランス調整と細部ディテールの追加変更を経て完成。⑤スラスターの内側のディテールも画稿にあわせて再現。ジャンクパーツと自作の複製パーツが組み合わされているのがわかる。



4



3

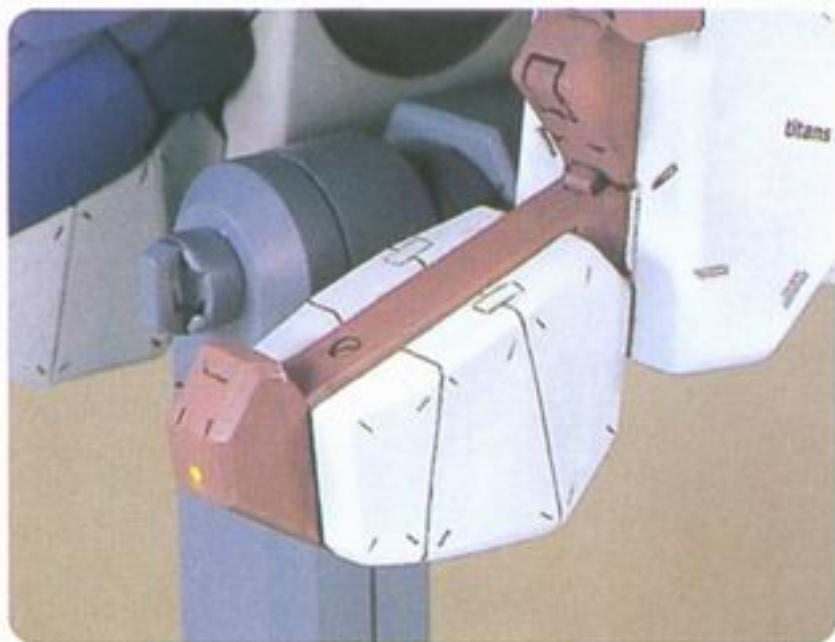


1



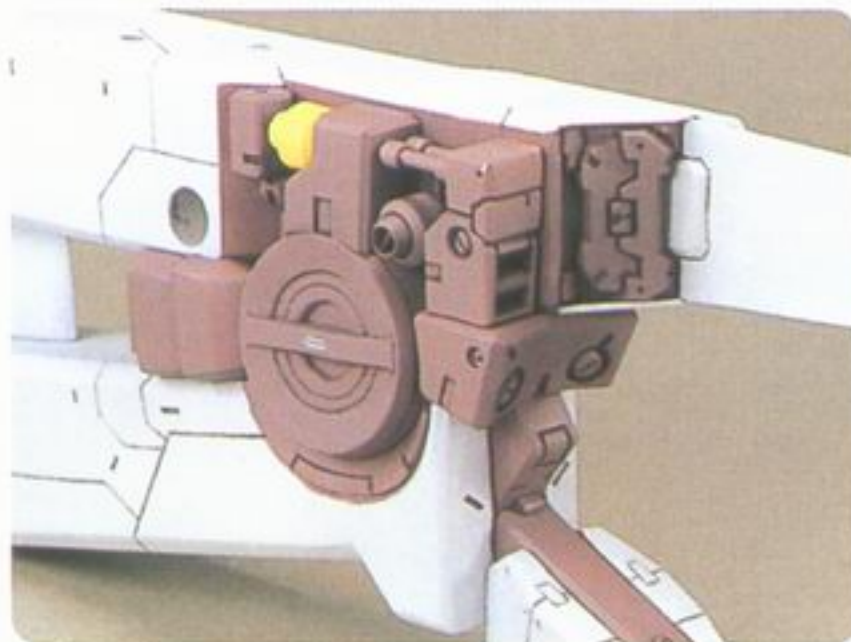
2





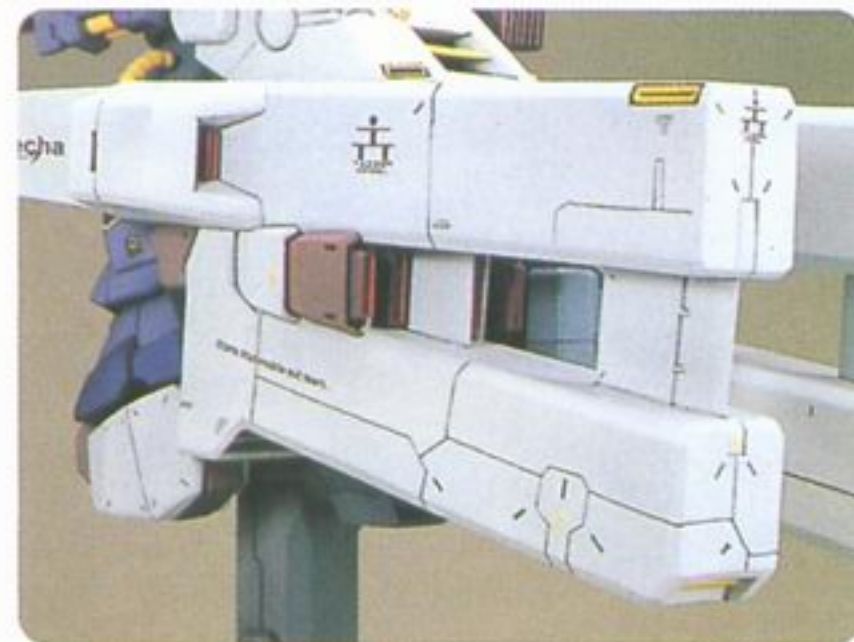
スラスター・ユニットの脚部ロック

ここにハイザックは脚を載せ脚部を固定することができる。



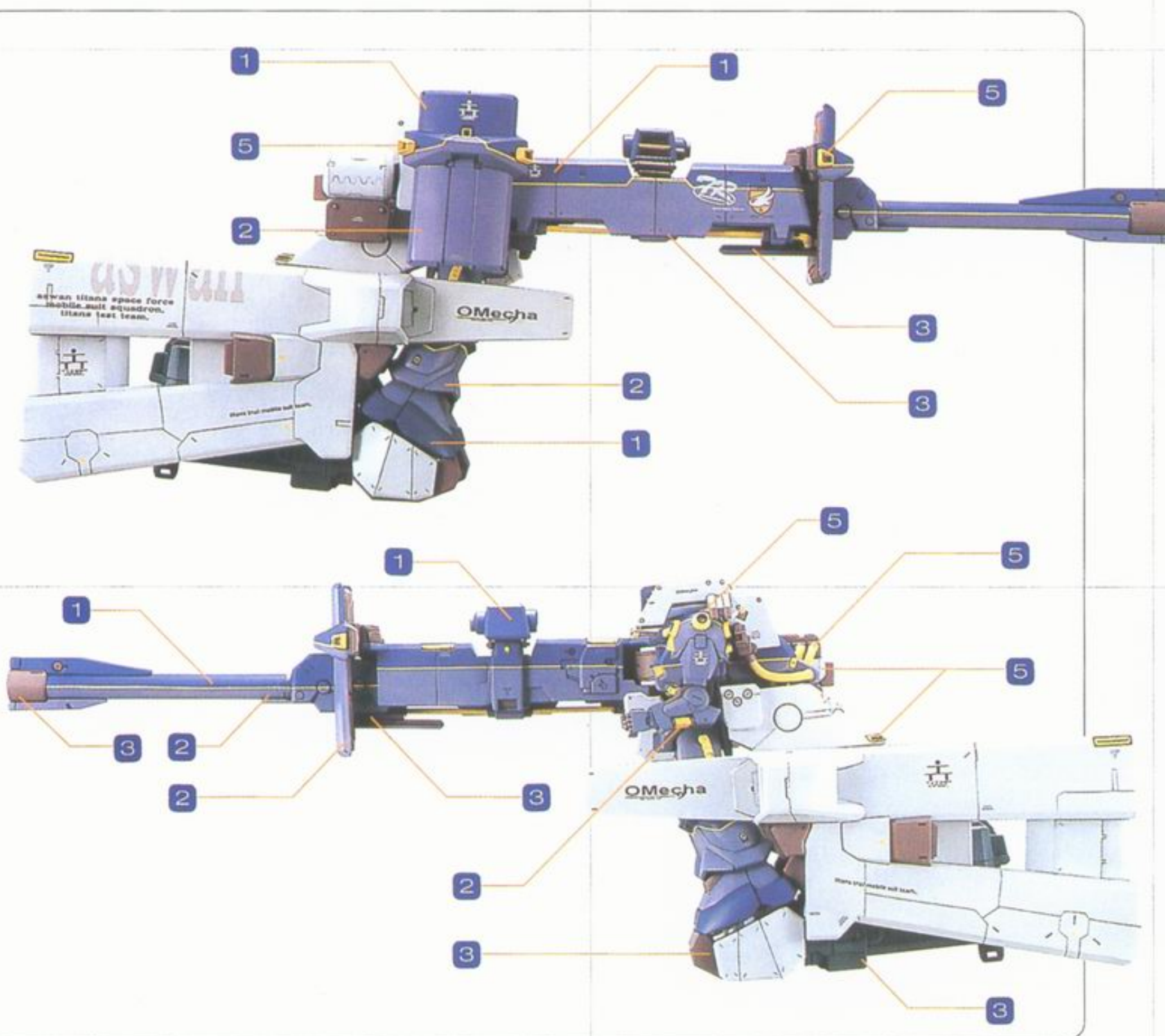
スラスター・ユニット内側

内部メカや円形の熱核融合炉などがわかる。スラスター・ユニットは容易に取り外すことが可能である。



スラスター・ユニット

大質量のTR-2に推力を与えるスラスターとプロペラントタンクを兼ねたユニット。ユニット下部には着艦用のランディングギアも内蔵されている。



ジョイント・フレーム

ハイザックの右胸部分は完全に砲とのジョイント・フレームに換装されている。肩部のロッキング・アームによって砲身は固定されている状態である。

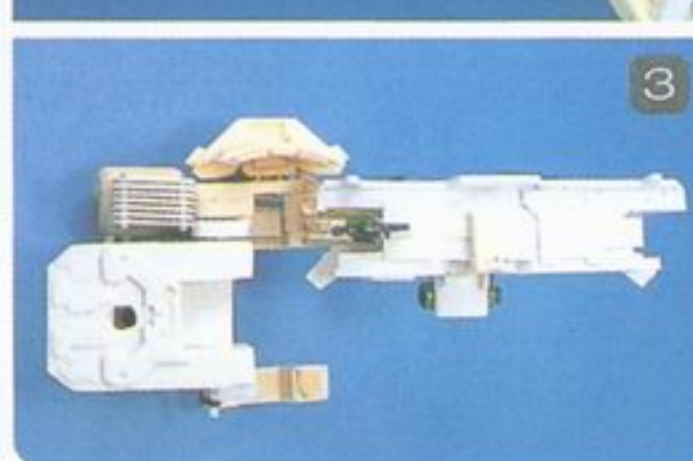
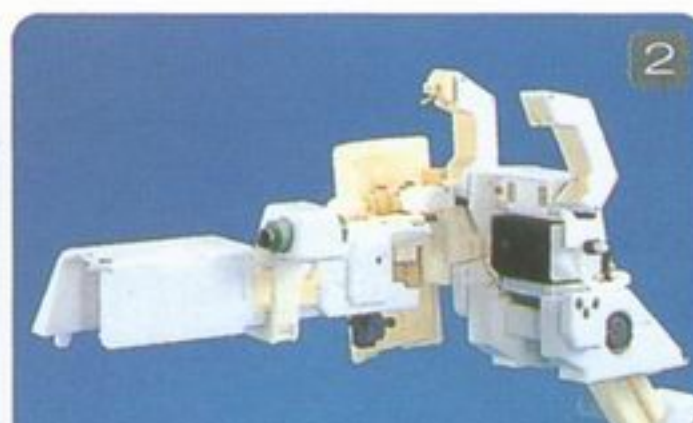


左肩アーマー

通常のハイザックには肩アーマーにスパイクが付いているが、ロッキング・アームの邪魔となるため取り外されている。



①スラスター・ユニットを外した状態の背面。動力ケーブルの接続部など各ブロックの構成が読み取れる。  
②-④ハイザックを外したビーム砲ユニットの基部。プラ板工作ならではの精度で完成後にはほとんど見えなくなる箇所まで作り込まれているのがわかる。  
⑤ビーム砲にエネルギーを供給するためのジェネレーターとして、ハイザックの胴体部がまるごと使われているという設定なので、作例でも先行試作型にあわせて形状を変更したものが埋め込まれている。





## YRMS-106+BL-85X バイザックTR-2 "ビッグウィグ"

バンダイ 1/144スケールプラスチックキット

"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"

RMS-106 ハイザック改造

製作・文:佐藤弘[オーバーダート]

HGUCで作った先行量産型ハイザックには大掛かりなユニットが存在していて、実はこのシュートベント形態(?)が本命の作例なのでした。

早速製作開始です! どんどんプラ板を切り出してパコパコ組んで…イキナリ失敗です(大きく作りすぎてダメでした)。気を取り直して合わせをとりつつ作り直します。このときは1/1マシンガンスクラッチするようなイメージで組んでいきます。

1/144と言っても全長で43センチあるので、形状出しも手こたえのある作業でした(バランス調整に1ヵ月かかってます)。

シールドはプラ板とエポパテで作ったものをレジン複製して使っています。こうして取り付けるパーツが揃ってくると、しっかりとクリアランスをとったりしなければならぬので、一度各パーツをそれぞれつなぎ合わせてバランスを見たりします。…ほとんどプラ板の集合体なので、ちょっと見はペーパークラフトみたいです。各動力パイプもプラ棒を曲げてエンジンターミナルのようにクセを付けたりしてみました(メガ・ビーム砲のパイプのみメッシュホースを使っています)。

### ■ハイザック本体

キットのボディパーツをいじってフレームがむき出しのハイザックを作ります。残りは1月号のハイザックの手足と頭を組み合わせて再現(スパイクアーマーのスパイクはあらかじめ着脱式にしています)。プラ板で、このむき出しのフレームを作りながら、同時にフンドシのリップ付きジョイント・パーツも作ります。

このハイザックにはノーマルバックパックの代わりにこのユニットの大型ジェネレーターが付くので、バランスを見るためもう1機分のボディパーツを背中合わせにしつつ、コクピットハッチやダクトのフタをエポパテで作りました。

今回意外に重宝したのがビー○マンのビー玉用マガジンです。これだけ大きいものをガッチリ固定するにはこのABS製のジョイントユニットが助かりました。○ーダマンのパーツはほかにも使えそうなので、読者の皆さんも使ってみてください(加工も楽なのでオススメです)。

### ■塗装

基本的にはヘイズルカラーと同様ですが、フレームのブラウンのみ「ガンダムカラー・ドムトローベン用」のブラウン(3)に白を少量加えたものです。

ちなみにプラ板工作は実に中学生以来でした。お小遣いでちょっとずつ改造していた時代を思い出し、ノスタルジックな気持ちになりました。それではまた。

### ■PROFILE

さとう・ひろし…石材職人休職中モデラー。近況/この作例に2ヵ月使ってしまったのでフィギュア禁断症状が…。年末年始はフィギュア三昧にするべくスケジュール調整。果たして現実はいかに? [リック・ドム]

## マーキングバリエーション



TR-2 [ビッグウィグ] のオリジナル・マーク。ヘイズルと同様、マーフィー小隊のシンボルであるウサギがTR-2の砲をイメージさせる大きな銃を構えている。

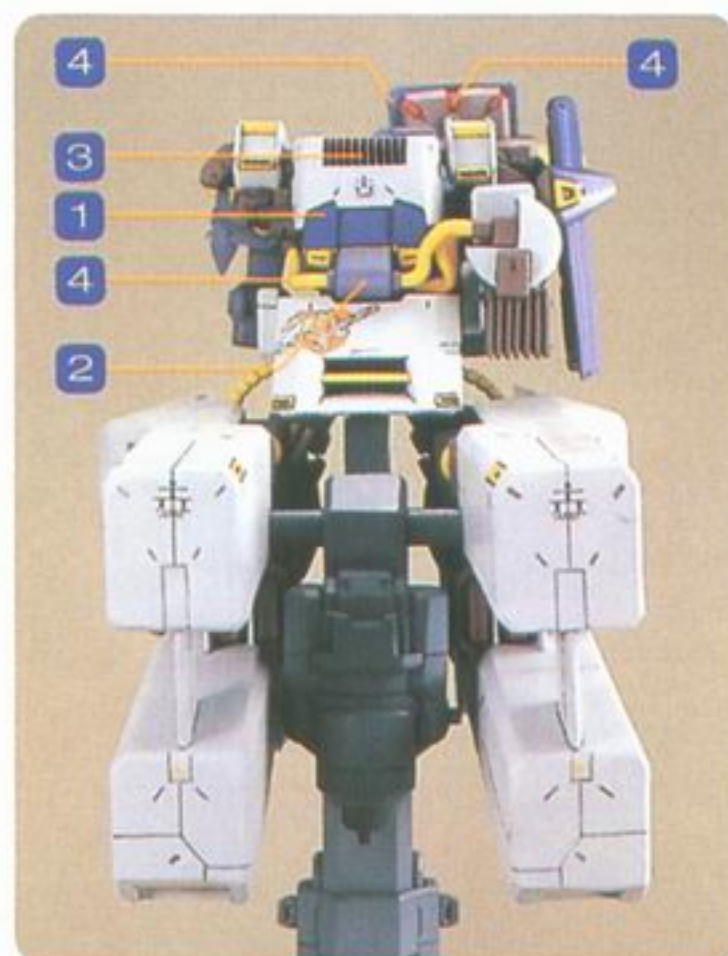


T3部隊の母艦であるアレキサンドリア級巡洋艦「アスワン」の文字がペイントされている。

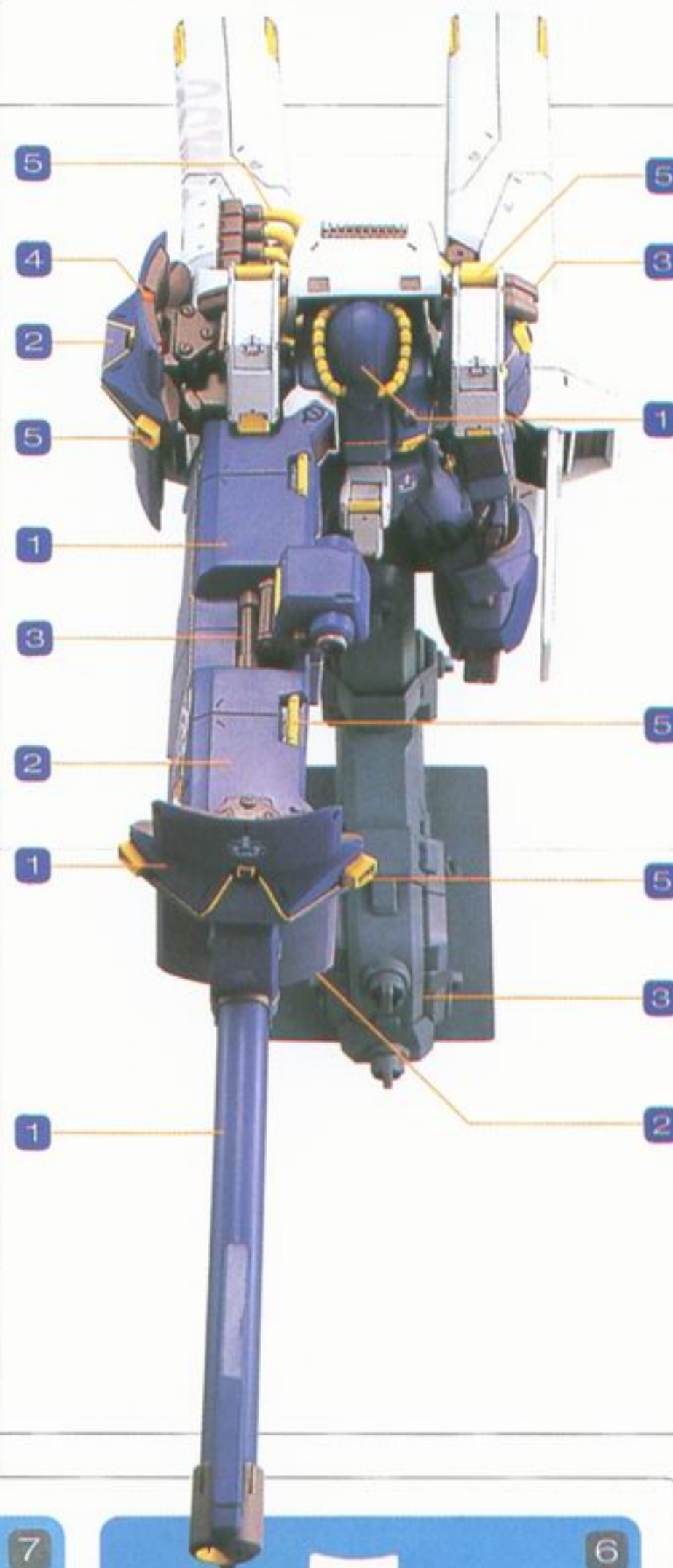


マーフィー小隊の部隊章の横に大きく描かれているのは「TITANS TRIAL MOBILE SUIT TEAM」に配備される機体であることを示すTRを意匠としたロゴマーク。

## カラーリングデータ



- ① 青(濃)…「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
  - ② 青(淡)…「ガンダムカラー・グレー(11)」+「ガンダムカラー・ブルー(23)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
  - ③ グレー…37番・RLM75グレーバイオレット+40番・ジャーマングレー
  - ④ 赤…「ダンバインカラー・オーラレッド1」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
  - ⑤ 黄…58番・黄橙色+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- すべてGSIクレオス「Mr.カラー」「ガンダムカラー」「ダンバインカラー」を使用。



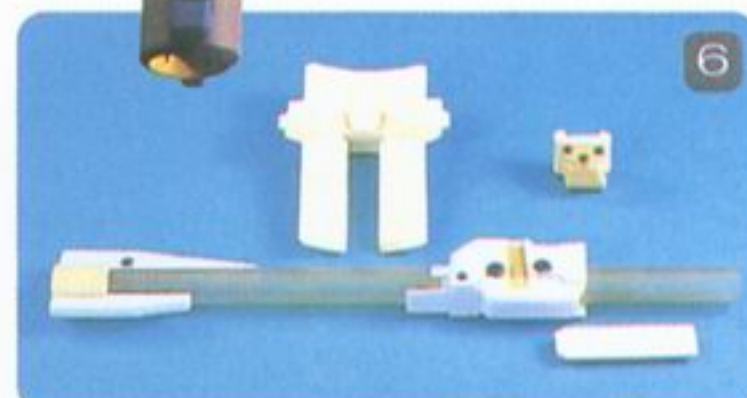
⑥砲身部。設定上はさらにこれが折りたたまれるということになっているが、作例では強度に不安があったため、ここは固定としてある。

⑦「ビッグウィグ」のユニットとしてのハイザックの改造点。右胸と腰の前面が大きく変更されている。

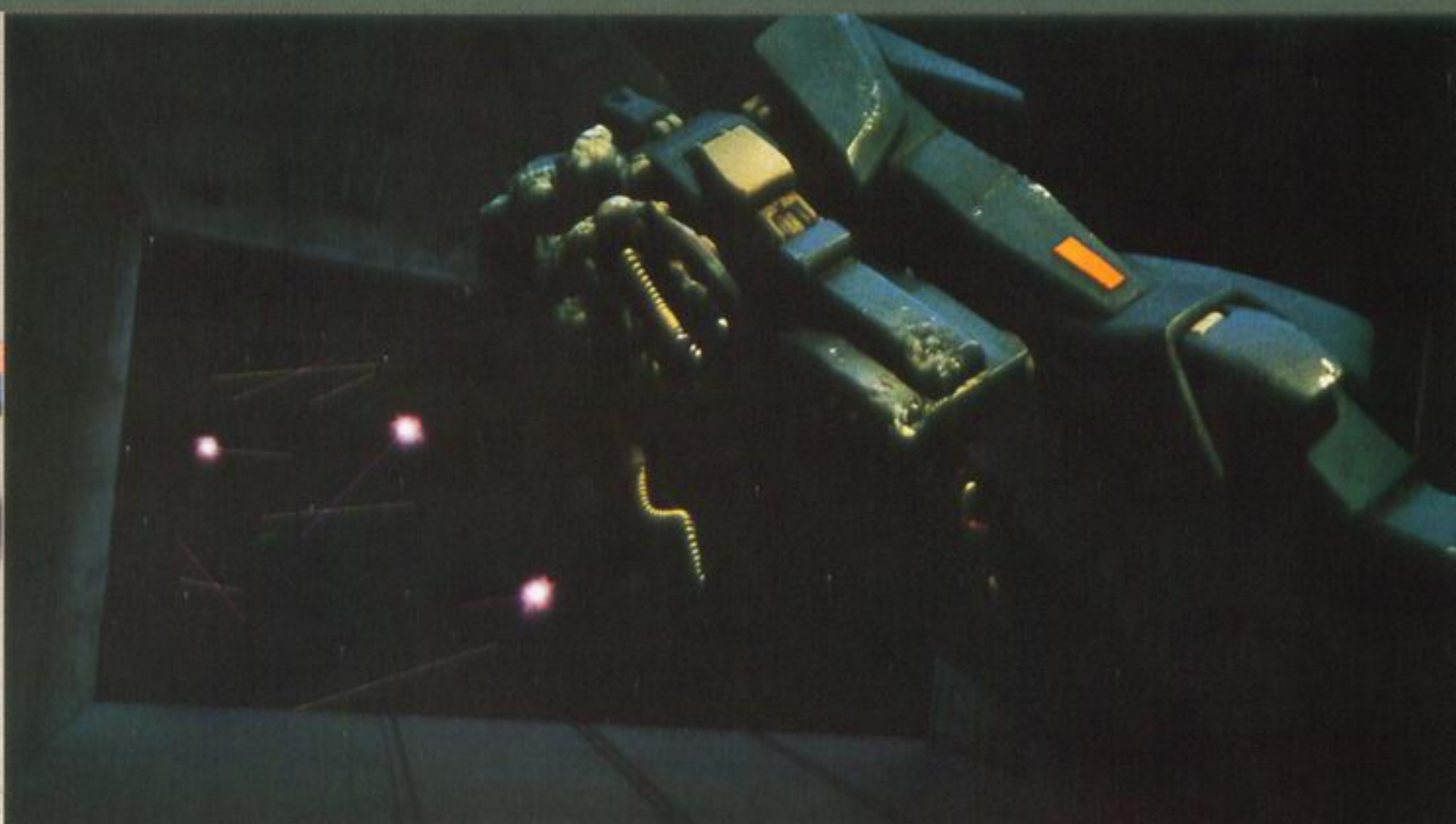
⑧右胸のジョイント・フレームから伸びるケーブル束はパテで製作を行っている。

⑨左肩スパイクアーマーはスパイクの有無を差し替えて再現できるようにしてある。

⑩設定画稿にはないディスプレイスタンドは○ーダマンのビー玉マガジンを組み合わせたもの。「強度、形状ともに非常に使えるパーツ」とは作者の弁。







## DAMAGED GAPRANT ELIARD HUNTER use



## DAMAGED GAPRANT ELIARD HUNTER use

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
"Mobile Suit Z GUNDAM"  
modeled by Kouichi Saeki



EPISODE 1.0の冒頭でボロボロの状態が登場した、ギャプラン。主人公であるエリアルドの乗機をサエキコウイチが固定モデルとして製作。1/144スケールのキットを「MA時にいかにも飛びそうな形状」にすることを念頭においてプロポーションを改修。さらにそこから、わずか1カットの特撮CGのためだけにクラッシュモデル化するという工程を経て完成したもの。それぞれに異なるダメージを考えて加えられた破壊表現をご覧ください。





### MS-14F GELGOOG MARINE

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
"High Grade Universal Century"  
modeled by  
Takayuki Komatsu  
painted by Masayuki Okada



MS-14F  
GELGOOG MARINE

EPISODE1.0に登場した  
ジオン軍残党の  
ゲルググ・Mは新人・小松敬幸と  
ベテラン・岡田雅之がタッグを組んで製作。  
モノアイスリットの加工や各バーニアの  
フチを削るなどの基本工作を小松が担当、  
そこからさらに岡田がダメージ表現や  
塗装などの仕上げを担当した。  
登場シーンはすべて破壊されたもの  
ばかりなので、ここで全身を  
紹介しておこう。



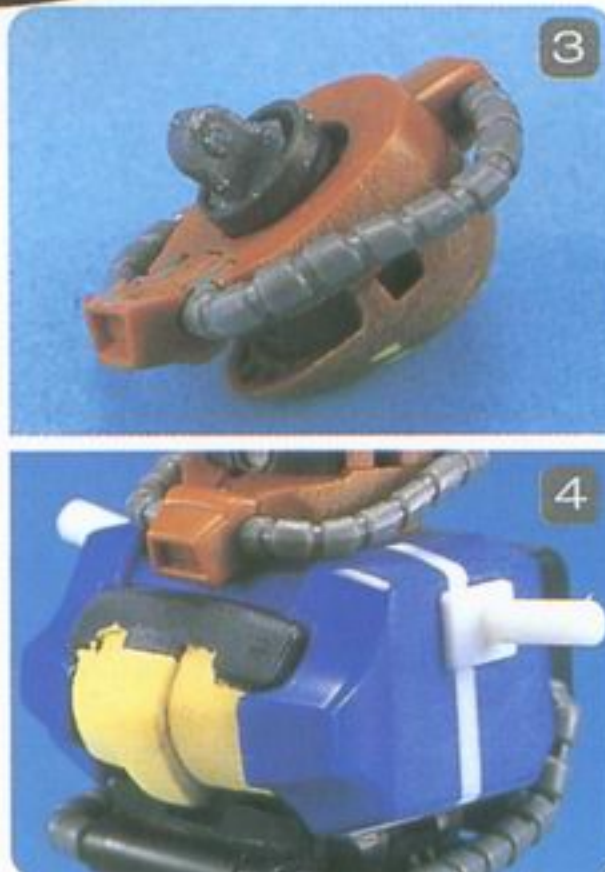
1/144スケールキットの組み合わせで  
ジオン残党仕様のF2型ザクⅡを作る。

## MS-06F-2 ZAKU II

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
"HIGH GRADE UNIVERSAL CENTURY"  
MS-06S ZAKU II modeled by Masayuki Okada

EPISODE2.1でジオン残党軍として、マーフィー隊長のハイザックと激闘を繰り広げたF2型ザクⅡ。  
実はこの作例、HGUCザクⅡをベースにしてどこまでF2型に近づけられるかを  
テーマとしたもの。設定的には残党軍が各ブロックを継ぎ合わせながら  
使用し続けてきた機体といったところ。  
今回はその工作途中写真もあわせてご覧いただこう。

①② 全身途中写真。HGUCの「ガルマ専用ザクⅡ」にHGUC「グフ」と08小隊の「グフカスタム」のパーツを移植していることがわかる。  
③ 頭部はブレードアンテナやバルカン砲の穴を埋めたほか、頭頂部のパーツを若干薄く削り込んでいる。首パーツはピンを切り落として後ハメできるようにしたほか、関節カバーを設けてみた。  
④ グフカスタムの胴体をベースに胸正面のT字部をパテで整形して再現。肩関節はやや怒り肩になるよう作り直してある。





## MS-06F-2 ザクII

バンダイ1/144スケールプラスチックキット  
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"  
MS-06S ザクII 改造

製作・文：岡田雅之

この「A.O.Z」に登場するジオン製モビルスーツのトータルコンセプトは、「まともな機体をほとんど持たないジオン残党兵が、あり合わせのパーツで造ったミキシングモビルスーツ」といったところです。このコンセプトを基にゲルググ、ドムに続いてF2タイプのザクIIを製作しました。前腕やランドセルはグフカスタムのパーツを使用している設定とし、同キットのパーツを若干形状変更して使用しています。その他はHGUCザクIIをベースにF2型らしく細部を変更。またF2型の最大の特徴である上半身は、グフカスタムから拝借しています。塗装はガンダムカラーの量産型ザク用を使用。また他のジオン製モビルスーツと同じくバトルダメージなどをキツめに行い、使い古されたイメージを表現しています。ノーマルザクとF2型との中間的な胡散臭さを出したかったのでこのような作例になりました。普通のF2型が欲しいならMGを使えばよい訳ですから、これを見て「こんなのF2じゃない!」とか堅いこと言わないでくださいネ。

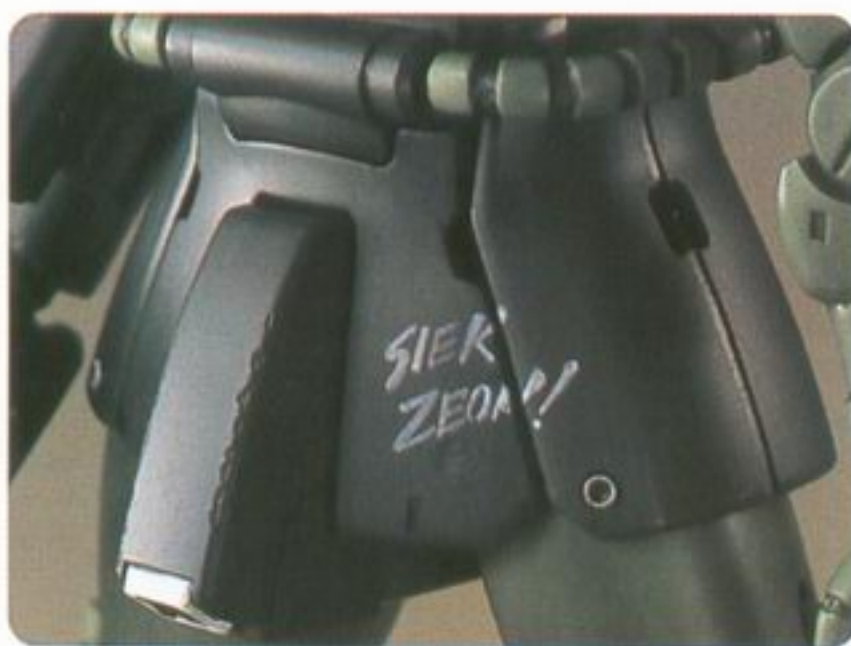
## ■PROFILE

おかだ・まさゆき…得意技は塗装。近況/最近ガンダムに目覚めた我が家の長男(3歳)。せっかく買ってきたガンプラをすべて横取りされる。小遣い少ないんだから欲しかったらママに買ってもらって!! [シャア専用ズゴック]



シールド

残党軍であることを誇示するために大きく書かれた「SIEK ZEON(ジオンに勝利を)」の文字。現在、T3部隊と戦っている残党軍の機体には必ずこれが書き込まれている。



腰

スカートアーマーはF型から流用されているものだが、センターアーマーにスラスターノズルが設置されていることから内部構造はF2型のものと推測できる。



脚部

基本的なブロックにはF2型のものではなくF型のものが使用されていることがその関節構造などから見て取れる。



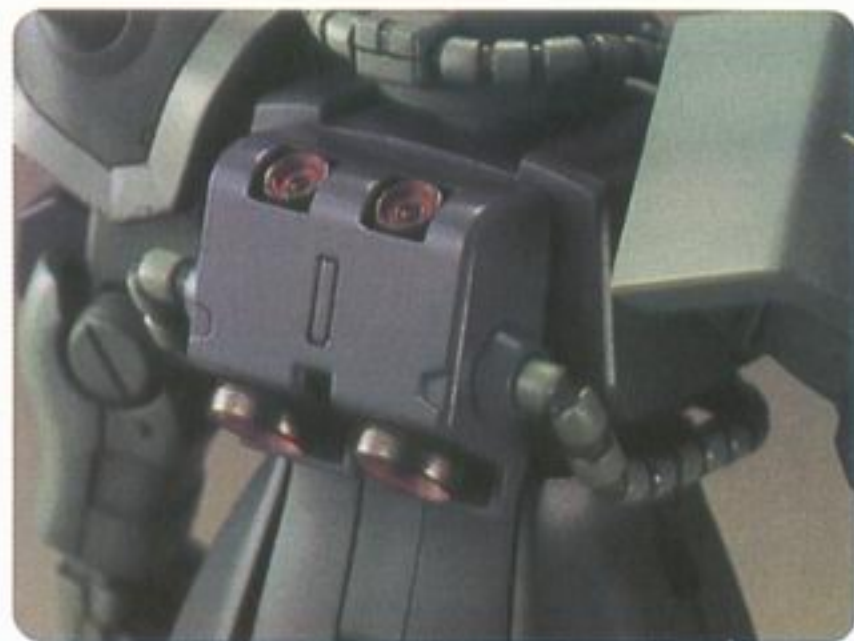
上半身

F2型に見られる特徴的な胸部装甲に対し、頭部はF型のものが使用されている。各部に残る傷跡から、長く戦い抜いてきた機体であることが見て取れる。



腕部

一見するとF2型がベースになっているようだが、ヒジアーマーの構造や形状に若干の違いが見られる。



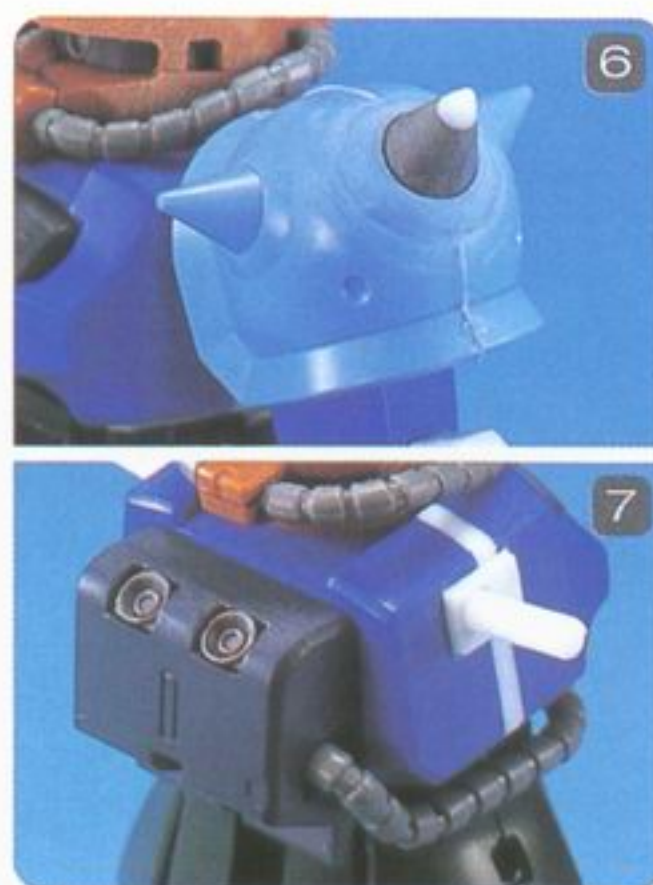
ランドセル

明らかにF型とは異なるものが使用されているが、バーニアノズルの形状などはF2型のものではない。

- ⑤ 腕は最も手が加えられた部分。比較的F2ザクに近い形状のグフをベースに腕の甲が曲面になるよう、徹底的に削り込んである。手首はBクラブの「ハイディテールマニピュレーター」。
- ⑥ 左肩スパイクアーマーはグフカスタムのものを改造。中央のスパイクはバーニアパーツとプラ棒を加工して再現。
- ⑦ ランドセルもグフカスタムから流用。上部に市販パーツを使ったバーニアを増設してある。
- ⑧ スカートアーマーにはF2型風のディテールを加えたほか、センターアーマー下部に市販の角状ノズルを埋め込んだ。



8



6



5





## MS-09R RICK-DOM

BANDAI 1/144 scale plastic kit  
"High Grade Universal Century"  
modeled by Masayuki Okada

ドム・トローベンを  
ベースに、ゲルググ・マリーネの  
マシンガン、スパイク・シールド、  
バックパック、スカート内バーニアを  
使って作られたリック・ドム。